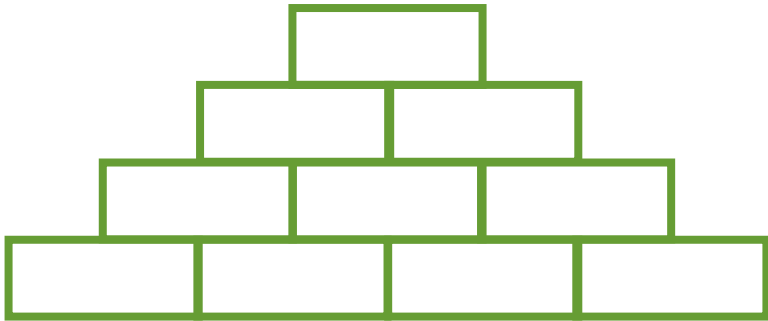


# 信仰の土台

創世記1章～3章  
聖書の学び



## Foundations of our Faith

Genesis 1-3  
Bible Study



聖句の言葉は聖書新改訳2017から引用されています。©2017 新日本聖書刊行会  
Scripture quotations are from The Holy Bible, English Standard Version (ESV),  
copyright ©2001 by Crossway. Used by permission. All rights reserved.

# 目次

- 第1章：神
- 第2章：神は語る
- 第3章：神は創造する
- 第4章：神のかたち
- 第5章：地球を支配する
- 第6章：結婚
- 第7章：ジェンダーロール
- 第8章：働くこと
- 第9章：安息日の休み
- 第10章：サタン、罪、と誘惑
- 第11章：墮落
- 第12章：福音

# **Contents:**

**1: God**

**2: God Speaks**

**3: God Creates**

**4: The Image of God**

**5: Rule the Earth**

**6: Marriage**

**7: Gender Roles**

**8: Work**

**9: Sabbath Rest**

**10: Satan, Sin, and Temptation**

**11: The Fall**

**12: The Gospel**

**第1章：神**  
**1:1**

**Chapter 1: God**  
**1:1**

# 事前の勉強

- 創世記1章－3章までを読んでみてください
- これらの章が神について教えてくれる10のことをリストアップしてください
- あなたが神を知り、神を愛し、神に従い、神を信頼することができるように、神に祈り求めるましょう

## 学び

### 著者

聖書の最初の5冊はモーセが書いたと学者たちは考えている。マタイ19:7-8では、ユダヤ人のパリサイ人もイエスも、申命記に記録されている律法をモーセが書いたと認めています（彼らは申命記24:14を参照しています）。出エジプト記24:4には、モーセがシナイでの契約において主が命じられた律法を書き記したと書いてあります。レビ記には、モーセが主から聞いたことをイスラエルの民に話すように何度も命じられています（レビ記1:1-2; 4:1; 6:8-9）。民数記33:2には、モーセが民数記の一部を書き留めたと書かれています。

ヨハネ5:46で、イエス様はモーセが自分について書いたと言われました。そして、イエスはまた、モーセが書いたものを含めて（ルカ24:27）、すべての旧約聖書は自分についてのものだと言われました（マタイ5; ルカ24:27; ヨハネ5:39）。ガラテヤ3:16で、パウロは創世記がキリストに言及している例を挙げています。ガラテヤ3:16で、彼は創世記12:7を引用しています。パウロは、「約束は、アブラハムとその子孫に告げられました。神は、「子孫たちに」と言って多数を指すことなく、一人を指して「あなたの子孫に」と言っておられます。それはキリストのことです。」このことは、クリスチャンやイエス自身も創世記をイエス・キリストに成就すると理解していたことを語っています。

ですから、出エジプト記と申命記はモーセが書いた特定の部分があり、一般的にはモーセの人生と宣教に関するものであり、そして創世記は出エジプト記、レビ記、民数記、申命記の序章と思われ、モーセの著作はすべてイエスを指していると言えるので、モーセも創世記を書いていると考えてよいように思います。

# Pre-Study

- Read Genesis 1-3
- Make a list of 10 things these chapters tell us about God
- Pray and ask God to help you know him, love him, obey him, and trust him

# Study

## Authorship

It is thought by scholars that the first five books of the Bible were written by Moses. In Matthew 19:7-8 both the Pharisees of the Jews and Jesus agree that Moses wrote the law recorded in Deuteronomy (they are referencing Deuteronomy 24:14). In Exodus 24:4 it says Moses wrote down the law that Lord commanded in the covenant at Sinai. Multiple times in Leviticus Moses is commanded to speak what he heard from the Lord to the Israelites (Leviticus 1:1-2; 4:1; 6:8-9). In Numbers 33:2 it says Moses wrote down a portion of the book of Numbers.

In John 5:46 Jesus said that Moses wrote about him. And Jesus also said that all the Old Testament, including what Moses wrote (Luke 24:27), was about him (Matthew 5; Luke 24:27; John 5:39). In Galatians 3:16 Paul gives an example of Genesis referring to Christ. In Galatians 3:16 he is quoting Genesis 12:7. Paul said, "Now the promises were made to Abraham and to his offspring. It does not say, 'And to offsprings,' referring to many, but referring to one, 'And to your offspring,' who is Christ." This tells us that Christians and Jesus himself also understood Genesis as finding its fulfillment in Jesus Christ.

So, since Exodus-Deuteronomy have specific portions written by Moses and are, in general, concerned with Moses' life and ministry, and since Genesis seems to be an introduction to Exodus, Leviticus, Numbers and Deuteronomy, and since all of Moses' writings can be said to be pointing to Jesus, it seems safe to assume that Moses also wrote Genesis.



しかし、聖書のすべての書物がそうであるように、最終的な著者は神ご自身であることは事実である。マタイによる福音書19章4-6節で、イエス様はパリサイ人たちに話しておられます。

「イエスは答えられた。「あなたがたは読んだことがないのですか。創造者ははじめの時から『男と女に彼らを創造され』ました。そして、『それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである』と言われました。ですから、彼らはもはやふたりではなく一体なのです。そういうわけで、神が結び合わせたものを人が引き離してはなりません。」

イエス様は創世記2章24節を引用されています。創世記のこの節は、誰かの引用ではありません。これはナレーションです。ですから、イエスによれば、創世記2:24で語っているのは神なのです。これは創世記の最終的な著作権についてのイエスの解釈でしたので、イエスが命じられたすべてのことに従いたいので、イエスの弟子たちの解釈でもあります（マタイ28:18-20）。ですから、創世記は神様がモーセを通して書かれたのです。

### 神様は存在している

創世記の最初の節は、神から始まる。「はじめに、神は....」聖書の冒頭から神様の存在が想定されています。もし聖書が演劇の脚本のようなものであれば、神は最初に紹介される登場人物になるでしょう。しかし、この登場人物の面白いところは、演劇が始まる前から存在していたことだ。実際、脚本が書かれる前から存在していたのです。それ以上に、そもそも演劇が存在する理由は彼にあるのです。神そのものが脚本家なのだ。

神はおられる。神は存在する。これはキリスト教の最も基本的な信念です。これは、聖書の最も基本的な信念です。神的存在があります。この神聖な存在は、永遠です。神様は、私たちが存在するために必要な存在です。神は、存在する他のすべてのものの源です。そして、完全に自分の力で存在しているのです。神は、自らの存在を他の存在や力に依存することなく、万物の根源である。

**出エジプト記3:14、ヘブル人への手紙11:3、ヨハネの黙示録4:11**を読んでください。これは、神様について何を教えてくれるのでしょうか？ 宇宙の起源について、どのようなことがわかりますか？

聖書が「はじめに」と言うとき、それは神の始まりについて話しているのではない。それは劇の始まりについて話しているのです。創造の前には、始まりも終わりもありませんでした。ただ神様がおられたのです。神はただ存在したのです。そして、神はご自分自身で十分でした。他に何もなく、神も他に何も必要としませんでした。

However, as with all books of the Bible, it is true that the ultimate author is God himself. In Matthew 19:4-6 Jesus is talking to the Pharisees. It says:

“He answered, ‘Have you not read that he who created them from the beginning made them male and female, and said, “Therefore a man shall leave his father and his mother and hold fast to his wife, and the two shall become one flesh”? So they are no longer two but one flesh. What therefore God has joined together, let not man separate.’”

Jesus is quoting Genesis 2:24. This verse in Genesis is not a quotation of anyone in the book of Genesis. It is narration. So, according to Jesus, God is the one speaking in Genesis 2:24. This was Jesus’ view of the ultimate authorship of Genesis so it is also the view of Jesus’ disciples since we want to obey everything Jesus commanded (Matthew 28:18-20). So Genesis was written by God through Moses.

### God Exists

The first verse of Genesis begins with God. “In the beginning, God....” God’s existence is assumed from the very beginning of the Bible. If the Bible were like a script for a play God would be the first character introduced. However, the interesting thing about this character is that he existed before the play happened. In fact, he existed before the script was written. Even more than that, he is the reason there is a play in the first place. God himself is the script writer.

God is. God exists. This is the most foundational belief of Christianity. It is the most foundational belief of the Bible. There is a divine being. This divine being is eternal. He is necessary for our existence. He is the source of all other things that exist. And he exists entirely of his own power. He is not dependent on any other being or power for his own existence, but is the source of all things.

### **Read Exodus 3:14; Hebrews 11:3 and Revelation 4:11. What does this tell you about God? What does that tell you about the origin of the universe?**

When the Bible says, “In the beginning” it is not talking about God’s beginning. It is talking about the beginning of the play. Before creation there was no beginning or end. There was only God. God just was. And he was sufficient. There was nothing else and God needed nothing else.

しかし、その後、創世記にあるように、「神が天と地を創造された」から、人間の作者が「始まり」として記録できるような始まりがあったのです。これは、神が始めたことで、私たちが「生命」と呼べるものの始まりです。

神は唯一無二である

なるほど、神様はいるんですね。一人だけなのか？ 神は何人いるのでしょうか？

聖書の一貫した教えは、神はただ一人であるということです。万物の創造主はただ一人です。神の存在はただ一人です。すべての生命の源はただ一つである。演劇の作者はただ一人である。

出エジプト記3: 14-15ではこう書いてあります：

神はモーセに仰せられた。「わたしは『わたしはある』という者である。」また仰せられた。「あなたはイスラエルの子らに、こう言わなければならない。『わたしはある』という方が私をあなたがたのところに遣わされた、と。」<sup>15</sup> 神はさらにモーセに仰せられた。「イスラエルの子らに、こう言え。『あなたがたの父祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、主が、あなたがたのところに私を遣わされた』と。これが永遠にわたしの名である。これが代々にわたり、わたしの呼び名である。

申命記6:4、「聞け、イスラエルよ。主は私たちの神。主は唯一である。」

イザヤ書45: 5-6、「わたしが主である。ほかにはいない。わたしのほかに神はいない。あなたはわたしを知らないが、わたしはあなたに力を帯びさせる。それは、日の昇る方からも西からも、わたしのほかには、だれもいないことを、人々が知るためだ。わたしが主である。ほかにはいない。」

コリント人への手紙第一8:4、「さて、偶像に献げた肉を食べることについてですが、『世の偶像の神は実際には存在せず、唯一の神以外には神は存在しない』ことを私たちは知っています。」

テモテへの手紙第一2:5、「神は唯一です。神と人との間の仲介者も唯一であり、それは人としてのキリスト・イエスです。」

これらの聖句から、万物の創造者で全てを支えている唯一の真の神は、聖書の神である主であることを知ることができます。創世記でアブラハム、イサク、ヤコブに現れた神は、聖書を通してモーセやイスラエル、その他多くの人々に現れた神である。

But then, as Genesis tells us, there was a beginning that was able to be recorded by

human authors as “the beginning” because “God created the heavens and the earth.” This is the beginning of what we can call “life” because God began it.

### God is One

Okay, so there is a God. Is there only one? How many Gods are there?

The consistent teaching of Scripture is that there is only one God. There is only one creator of all things. There is only one divine being. There is only one source of all life. There is only one writer of the play.

Exodus 3:14-15 says:

God said to Moses, “I AM WHO I AM.” And he said, “Say this to the people of Israel: ‘I AM has sent me to you.’” God also said to Moses, “Say this to the people of Israel: ‘The LORD, the God of your fathers, the God of Abraham, the God of Isaac, and the God of Jacob, has sent me to you.’ This is my name forever, and thus I am to be remembered throughout all generations.

Deuteronomy 6:4 says, “Hear, O Israel: The LORD our God, the LORD is one.”

Isaiah 45:5-6 says, “I am the LORD, and there is no other, besides me there is no God; I equip you, though you do not know me, that people may know, from the rising of the sun and from the west, that there is none besides me; I am the LORD, and there is no other.”

1 Corinthians 8:4 says, “Therefore, as to the eating of food offered to idols, we know that ‘an idol has no real existence,’ and that ‘there is no God but one.’”

1 Timothy 2:5 says, “For there is one God, and there is one mediator between God and men, the man Christ Jesus.”

From these texts we can know that the one true God, the creator and sustainer of all things is the LORD, the God of the Bible. The God who appeared to Abraham, Isaac, and Jacob in Genesis is the God who appeared to Moses, Israel, and many others throughout Scripture.

キリスト教は一神教です。私たちは、神が存在すると信じています。神様は唯一無二であると信じています。このことは、私たちの生活のあらゆる部分に影響を及ぼします。もし神様がおられ、たった一人であるならば、私たちの生き方にどのような影響を与えるべきでしょうか？ 私たちは神様に何か借りがあるのでしょうか？ この神は私たちの関係を望んでおられるのでしょうか？ この神は知られることを望んでいるのでしょうか？ 私たちは、神が与えてくださるすべてのもののために礼拝したり、感謝したりしなければならぬのでしょうか？ 神を恐れなければならぬのか？ もしこの神様がすべてを創造し、すべてを支えているならば、なぜそのようなことをなさるのでしょうか？ 神様には目的や計画があるのでしょうか？ 私たちはこの計画を知るべきなのでしょうか？ 私たちはその計画に参加しなければならぬのでしょうか？ この神には道徳的な基準があるのだろうか？ この神様は良い方なのだろうか？ この神様はどのような方なののでしょうか？ 目に見えるのか？ 私たちは神を見ることが出来るのか？ 神様のところに行く方法はあるのだろうか？ 神は万物の創造主ですから、私たちの位置からは到達できないように思われます。私たちは被造物なのですから、被造物の外側にいるこの神について、どうやって知ることができるのでしょうか？

これは、劇中の登場人物が作家と持つ関係によく似ている。作家は、それぞれの登場人物について知っていることはすべて知っています。彼は彼らを存在させました。その役割を決めている。しかし、脚本家が他の登場人物の中に身を置かない限り、劇中の人々が脚本家、つまり彼らの創造主を知る方法はないのである。

#### 神は三位一体である

聖書に登場する唯一の真の神は、いわゆる三位一体です。一つの存在でありながら、三つの位格を持っておられるのです。三位一体の教えは、新約聖書まではっきりと明かされないようだが、旧約聖書には、神は唯一であるが、この神はその唯一である存在に複数性を持っているというヒントがある。

例えば、創世記1章2節には、神の霊が水の面を動いていたと書いてあります。つまり、この神には霊がいるのです。そして、その霊は神と同じように創造行為に参加しているようです。では、この霊も神なのでしょうか。

また、1:3には、神が語られ、その言葉によって創造されることが示されています。神の言葉そのものが、創造する力を持っているのです。また、箴言8:22-36では、知恵が擬人化され、創造という行為に参加しています。実際、この「知恵」との関係が、真の神である主との関係を決定するのです（箴言8:35-36）。この「知恵」は、神がその言葉を使って万物を創造されたことを表す別の表現だと考えられることもあります。ということは、神の言葉は、神の存在の中の位格でもあるのだろうか。

Christianity is monotheistic. We believe that there is a God. We believe there is only one God. The implications of this reach into every part of our lives. If there is a God and there is only one, how should that effect the way we live? Do we owe anything to God? Does this God want a relationship with us? Does this God want to be known? Are we supposed to worship or thank God for all that he gives? Should we fear him? If this God created everything and sustains everything, why is he doing it? Does he have a purpose or a plan? Are we supposed to know this plan? Are we supposed to participate in the plan? Does this God have any moral standards? Is this God good? What is this God like? Is he visible? Can we see him? Is there a way to get to him? Since he is the creator of all things, it seems that he is unreachable from our position. Since we are creation, how can we know anything about this God who is outside of creation?

It is very similar to the relationship that characters in a play have to the writer. The writer knows everything there is to know about each character. He has brought them into existence. He has determined their role. But, there is really no way for any of the people in the play to get to know the writer, that is—their creator—unless the writer were to put themselves into the play among the other characters.

#### God is Triune

The one true God of the Bible is what is called a Trinity. He is one being, three persons. It seems that the teaching of the Trinity is not clearly revealed until the New Testament, but there are hints in the Old Testament that although there is only one God, this God has a plurality in his singular existence.

For example, in Genesis 1:2 it says God's Spirit is hovering over the face of the waters. So apparently, this God has a Spirit. And the Spirit seems to be just as involved in the act of creation as God. So, is the Spirit also God?

Also, in 1:3 we see that God speaks and he creates through his words. His words themselves have power to create. Also, in Proverbs 8:22-36 Wisdom is personified and participates in the act of creation. In fact, someone's relationship with this Wisdom determines their relationship with the LORD, the one true God (Proverbs 8:35-36). It is sometimes thought that this Wisdom is another way to express how God used his word to create all things. So perhaps God's Word is also a person in the being of God?

創世記1章には、神の唯一である存在が複数であることを示すもう一つのヒントがあります。それは1章26節です。つまり、神様はご自分のことを「われわれ」と複数形で呼んでいるのです。

神は仰せられた。「さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。こうして彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう。」

新約聖書は、旧約聖書がヒントしていることの詳細を教えてください。

ペテロ1章2節を読むと、父が神であることが直接的に言及されているのがわかります。

聖書はまた、ナザレのイエスが受肉された神の子であることを教えています。イエス様は、肉体となられた神様の言葉なのです。ヨハネによる福音書1章1～18節を読んで、神様のことばとイエス・キリストの関係を確認してください。神様のことばは、神様がすべてのものをお造りになったものであり、神様の御子は、肉となって、ナザレのイエス・キリストという人となられたのです。

ヨハネによる福音書の最後に、イエスの弟子の一人であるトマスは、イエスを神であると認めています。彼は死からよみがえったイエス様を見たので、イエス様が神の子であることを知ったのです。ヨハネによる福音書20:19-29を読んでください。

最後に、聖霊は使徒の働き5:3-4でも明確に神であると断言されています。3節で、ペテロはアナニアに、なぜ聖霊に嘘をついたのかと尋ねています。そして、4節で聖霊を神と特定しています。

新約聖書には、神の三位一体について言及している箇所がたくさんあります。以下はその例です。マタイ 3:16; 28:19; マルコ 1:9-11; ルカ 3:21-22; ヨハネ 14:11-17; ローマ 1:1-4; 2 コリント 13:14; ガラテヤ 4:4-6; エペソ 1:17。

ですから、もし神が一であり、神が三であるならば、神は一で三であるということになるはずですが。言い換えれば、唯一の真の神は三位一体です。御父は神です。御子は神です。御霊は神です。神は唯一です。そして、神の被造物である私たちがこの神を知るために、神は御子をこの世に送ることによって、ご自身の被造物の中に入れてこられました。そして、神は御霊を私たちの心に送ることによって、さらに私たちの近くに来られたのです。今、イエス様と神様の聖霊によって、私たちは神様を知り、神様から知られることができるのです。

Another hint in Genesis 1 that there is more than one person in God is 1:26. So God refers to himself in the plural saying, “us” and “our”:

Then God said, “Let us make man in our image, after our likeness. And let them have dominion over the fish of the sea and over the birds of the heavens and over the livestock and over all the earth and over every creeping thing that creeps on the earth.”

The New Testament gives us the details of what the Old Testament hints at.

Read 1 Peter 1:2 to see a direct reference of the Father as God.

The Bible also teaches that Jesus of Nazareth is the incarnate Son of God. He is God’s Word who became flesh. Read John 1:1-18 to see the connection between the Word of God and Jesus Christ. God’s Word through which he made all things is the Son of God who took on flesh and was the man Jesus Christ of Nazareth.

At the end of the Gospel of John, Thomas, one of Jesus’ disciples identifies Jesus as God. Because he saw him risen from the dead he knew that Jesus was the Son of God. Read John 20:19-29.

Finally, the Holy Spirit is clearly also affirmed as God in Acts 5:3-4. In verse 3, Peter asks Ananias why he lied to the Holy Spirit. Then he identifies the Holy Spirit as God in verse 4.

The New Testament is full of places that reference all three persons of God together. Here are some examples: Matthew 3:16; 28:19; Mark 1:9-11; Luke 3:21-22; John 14:11-17; Romans 1:1-4; 2 Corinthians 13:14; Galatians 4:4-6; Ephesians 1:17.

So, if God is one and God is three, that must mean that God is three in one. In other words, the one true God is triune. The Father is God. The Son is God. The Spirit is God. There is one God. And in order for us—God’s creation— to know this God, he came into his own creation by sending his Son into the world. And then, God came even closer to us through sending his Spirit into our hearts. Now, through Jesus and by God’s Holy Spirit, we can know God and be known by God.



この神はどんなお方でしょうか？

この創世記の最初の章から、神様の性格について学べることがたくさんあります。ここでは、3つの属性について見ていきます。

第一に、神様は主権者です。神はすべてのものの創造者であり、維持者です。すべての被造物の上におられます。神様は、何も必要とせず、誰かに依存することはありません。神様は全てを支配しています。創世記3章で、サタンが園に入り、アダムとエバが最初の罪を犯したとき、3人とも神様に答えなければなりません。

神は彼らのもとにやってくる。神は問いを立てます。神は罰を与える。神様が主導権を握っているのです。そして、3:15で、神は女の子孫の一人が蛇を征服することを約束されました。神様はこの物語を始められ、すでに結末を書かれました。神様は、ご自分の力で、ご自分の計画に従って、神様への反逆のために墮落した人々と被造物に救いをもたらしてください。

次に、神様は正しい方です。神様は、2:16-17で、もしアダムが善悪の知識の木から食べたら、必ず死ぬと言われました。アダムとエバはその木から食べました。ですから、3:16-19で、神様は被造物を呪って、アダムとエバを罰されました。また、3:19でアダムに、「あなたは土のちりだから、土のちりに帰るのだ。」と、死ぬことを告げられたのです。神は正しい方である。すべての悪と神への反抗に対して、正当な罰をお与えになるのです。

最後に、神様は憐れみ深い方です。神は被造物を呪って、アダムとエバが罪深い墮落した状態で永遠に生きるのを放っておかれることはないのです。まず、先に述べたように、神様はアダムとエバの子孫を通して救いを約束されました。ですから、アダムとエバが救われるに値しないにもかかわらず、アダムとエバに希望を与えたのです。また、アダムとエバは自分たちが裸であることを自覚したので、神は彼らに衣を与えて身を隠させました（3:21）。これは、彼らがもはや恥を感じないように、十分な覆いを与えたのです。最後に、アダムとエバを園から追い出したのは罰のように見えるが、実は慈悲であった。3:22-24に、もしアダムとエバが墮落した状態で命の木を食べたら、永遠に不幸な生活を送ることになると書かれている。神は、約束の救い主が来るまで二人を園から追い出すことで、その運命を免れさせました。

### What kind of God is he?

There is a lot we can learn about God's character from these first chapters of Genesis. We will look at three attributes.

First, God is sovereign. God is the creator and sustainer of all things. He is above all of creation. He is not in need of anything or dependent on anyone. God is in charge. In Genesis 3 when Satan enters the garden and Adam and Eve commit the first sin, all three of them must answer to God.

God comes to them. God asks the questions. God gives out the punishments. God is in charge. And then in 3:15 God gives a promise that one of the offspring of the woman will conquer the serpent. God started this story and he has already written the ending. God, by his own power, and according to his plan, will bring salvation for the people and the creation he has made that is now fallen because of their rebellion to him.

Next, God is just. God told Adam in 2:16-17 that if he ate from the tree of the knowledge of good and evil he would surely die. Adam and Eve ate from the tree. Thus, in 3:16-19 God punished Adam and Eve by cursing his creation. Also, he told Adam that he would die in 3:19, "for you are dust, and to dust you shall return." God is righteous. He will give the just punishment for all evil and rebellion against him.

Last, God is merciful. God doesn't just curse his creation and leave Adam and Eve to live forever in a sinful, fallen condition. First, as mentioned above, God promised salvation through Adam and Eve's offspring. So he gave hope to Adam and Eve even though they don't deserve to be saved. Also, since Adam and Eve became aware they were naked, God gave them garments to cover themselves (3:21). God gave them sufficient covering so that they would no longer feel shame. Finally, although it seemed like punishment to send Adam and Eve out of the garden, it was actually a mercy. In 3:22-24 we see that if Adam and Eve were to eat of the tree of life in their fallen state they would live forever in misery. God spared them from that fate by casting them out of the garden until his promised savior would come.

# ディスカッション

以下の質問について考え、グループで話し合う準備をしましょう。

1. 神様について、今まで知らなかったことを新たに学びましたか？
2. 神様はあなたから何も必要とせず、永遠に存在し、あなたの命の源であることを考えると、あなたはどのように対応しますか？
3. 神の存在は私たちの存在に必要であり、したがって私たちは神にすべてを負っているのですから、どうすればもっと神に焦点を当てた人生になるのでしょうか。
4. より多くの人々が聖書の神様を知り、礼拝するようになるために、あなたは何かができるでしょうか？
5. 神様は公正で、憐れみ深く、主権者です。あなたが神様のご性質に合うように生きるためにはどうすればいいと思いますか？ 神様があなたに託されたものを、どのように支配すればよいのでしょうか？ 仕事、家族、友人、あるいは社会一般に、どのようにして正義と憐れみをもたらすことができますか？

一緒に祈りの時間を持ってください。特に祈り課題のために祈ってください。

# Discussion

**Think about these questions and be prepared to discuss together with your group.**

1. Did you learn anything new about God that you previously did not know?
2. Considering God needs nothing from you, is eternal, and is the source of your life, how will you respond to him?
3. Since God's existence is necessary for our existence, and therefore we owe everything to him, how can you make your life more focused on God?
4. What can you do to bring more people to know and worship the God of the Bible?
5. God is just, merciful, and sovereign. What are ways that you can live more in accord with God's character? How can you rule over what God has entrusted to you? How can you bring justice and mercy into your work, family, friends, or society in general?

**Spend some time praying together. Pray specifically for the requests that were mentioned.**

**第2章：神は語る**

**1:3**

**Chapter 2: God Speaks**

**1:3**

# 事前の勉強

創世記1~3章を読み、神様が話されるたびにメモをとってください。次の質問に答えてください。

- 神様が語られるとき、何が起こりますか？
- 神様は誰に向かって話されますか？
- 神様は人間に、どのようなことを言われますか？

## 学び

### 神は語る

聖書が記録している神の最初の行動の一つは、話すことである。創世記1:3には、「神仰せられた。『光、あれ』」とあります。神は語ることによって創造する。神は被造物に名前を付けます。神は被造物に名前を付け、計画を立て、自らの存在の中で語られます。神様は動物や人間に指示を与えます。神は人間に良い生き方をするための律法を与えます。人間に質問し、人間との関係を追求する。神様は、人々と蛇に呪いを宣告されます。蛇に裁きを宣告される。そして、女の子孫による罪人の救いを約束される。

ですから、神の創造行為について語る前に、存在する唯一の真の神は言葉を通してコミュニケーションをとるということに注目することが必要だと思います。神は語られ、理解されることができます。

### 神は自らを知らされる

人類は常に、自分自身とその成果を誇りに思うのが普通である。私たちは、自分自身の努力と勉強と仕事を通じて、知識や洞察力や能力を獲得し、自分の望むものをすべて知ることができると考えがちです。私たちは、自分が望むものすべてになることができます。十分に勉強すれば、神を知り、神を理解することができると考えてしまうのです。

それはそうじゃありません。

その逆もまた真なり。神は実際に最初の一步を踏み出し、自らを人類に知らしめるのです。神を知る方法は、神が自分自身を知らせることです。そして、神は言語（ちなみに、言語も神がお作りになりました）を通してご自分を知られるのです。神は被造物に語りかけ、私たちが神を知り、愛し、従い、礼拝できるようにされました。

# Pre-Study

Read Genesis 1-3 and take a note of every time God speaks. Answer the following questions.

- What happens when God speaks?
- To whom does God speak?
- What kinds of things does God say to humans?

# Study

## God Speaks

One of the first actions Scripture records God doing is speaking. Genesis 1:3 says, “And God said, ‘Let there be light.’” God creates by speaking. He names his creation. He makes plans, speaking within his own being. God gives instructions to animals and humans. God gives laws for good living to humans. God asks humans questions and pursues a relationship with them. God pronounces curses to the people and the serpent. He pronounces judgment to the serpent. And promises salvation for sinners through the offspring of the woman.

So before we talk about God’s act of creation it is necessary, I think, to note that the one true God who exists communicates through words. God speaks and is able to be understood.

### God makes himself known

It has always been common for humanity to be proud of itself and its accomplishments. We are prone to think that through our own effort and study and work we can attain knowledge and insight and ability to know and do all we want. We can become whatever we want. We think that if we study enough we can come to know God and understand him.

This is not true.

The opposite is true. God actually takes the first step and makes himself known to humanity. The way to know God is through God making himself known. And God makes himself known through language (which he also created by the way). God speaks to his creation so that we can know him, love him, obey him, and worship him.

神を知る唯一の方法は、神が自らを明らかにすることである。

脚本家が自分を書き込まない限り、脚本の登場人物が脚本家を知ることができないのと同じように、人間は、神が自分自身を宣言しない限り、神を知ることができないのです。神からの啓示が、人が神を知る唯一の方法なのです。

エペソ4:18によってクリスチャンでない方「は知性において暗くなり、彼らのうちにある無知と、頑なな心のゆえに、神のいのちから遠く離れています。」

これは、私たち全員もそうでした。エペソ2:1-3はこう言っています：

さて、あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であり、かつては、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って歩んでいました。私たちもみな、不従順の子らの中にあって、かつては自分の肉の欲のままに生き、肉と心の望むことを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。

私たちの自然な状態では、神を知ることは不可能です。罪が私たちの心に及ぼす影響により、私たちは当然ながら神について無知であり、私たちの理解力が暗くなっているため、神についての知識を得ることができません。

パウロはローマ3:11で詩篇14篇と53篇を引用してこう言っている。「悟る者はいない。神を求める者はいない。」

人間は罪深い存在です。その罪深さのゆえに、私たちは自然に神様を拒絶してしまいます。私たちは神を探し求めることはありません。神を知るためには、神が私たちにご自身を現してくださることが必要です。驚くべきことに、神は私たちが知りたいと願っておられ、私たちが神を知ることを望んでおられるので、語ることによって私たちにご自身を現されるのです。

私たちは神を完全に知ることはできないが、神が啓示するものについての真の知識を持つことはできる。

さて、ある人はこう言うかもしれません。「どうして神を知っていると言えるのか。あなたがそんなに罪深いのに、神様がそんなに神聖で無限なら、あなたが本当に神を知ることは不可能に違いない」と言うかもしれません。私は実際にこのように言われたことがあります。そして、それは非常に良いポイントです。私たちはとても罪深い存在です。そして、神は無限です。「自分は神を知っていて、他の人は知らないなんて、どうしてそんなに高慢になれるんだ」という議論になります。「神は確かに知り得ない存在です。」



## The only way to know God is if he makes himself known

Just as it is not possible for the characters in a screenplay to know the writer unless the writer writes himself into the play, so humans cannot know God unless he proclaims himself to them. Revelation from God is the only way for people to know God.

Ephesians 4:18 says that non-Christians are “darkened in their understanding, alienated from the life of God because of the ignorance that is in them, due to their hardness of heart.”

This was true of all of us. Ephesians 2:1-3 tells us:

And you were dead in the trespasses and sins in which you once walked, following the course of this world, following the prince of the power of the air, the spirit that is now at work in the sons of disobedience—among whom we all once lived in the passions of our flesh, carrying out the desires of the body and the mind, and were by nature children of wrath, like the rest of mankind.

In our natural state it is impossible for us to know God. Because of the effect of sin on our hearts we are naturally ignorant of God and cannot get knowledge of him because our understanding is darkened.

As Paul says in Romans 3:11 quoting Psalm 14 and 53, “no one understands; no one seeks for God.”

Humans are sinful. Because of our sinfulness we naturally reject God. We do not seek for God. In order to come to know God we need him to reveal himself to us. The amazing truth is that God wants to know us and he wants us to know him so he reveals himself to us by speaking.

## We cannot fully know God, but we can have true knowledge of what he reveals

Now, someone might say, “How can you possibly say that you know God? If you are so sinful and God is so holy and infinite it is surely impossible for you to know God truly.” I have actually had someone say this to me. And it is a very good point. We are very sinful. And God is infinite. The argument goes, “How can we be so prideful to say that we know God and others don’t? Surely God is unknowable.”

聖書は、神は自分自身によってのみ完全に知ることができると明白に認めている。第一コリント2:11はこう書いてあります。「人間のことは、その人のうちにある人間の霊のほかには、いったいだれが知っているでしょう。同じように、神のことは、神の霊のほかにはだれも知りません。」

パウロは、人間関係の比喩を使って、私たちと神様の関係を説明しているのです。私は妻と結婚して12年になります。今でも定期的に妻について学んでいることがあります。私は妻を完全に知ることはできませんし、妻も私を完全に知ることはできません。私たち二人は、お互いに話すことのない考えを毎日持ち、自分自身のことしか知らないのです。それは神様も同じです。神様のことを完全に知ることができるのは、神様ご自身だけなのです。

実際、私たちは自分のうちに宿る罪によって欺かれ続けているので、神について知っていることでさえ、まだ限られています（ヘブル3:12-14）。ですから、私たちが神について持っている知識でさえ、曇っているのです。しかし、私たちの罪深さと神の聖さにもかかわらず、私たちは神が啓示する真の知識を持つことができます。

第一コリント2:12ではこうあります。「しかし私たちは、この世の霊を受けたのではなく、神からの霊を受けました。それで私たちは、神が私たちに恵みとして与えてくださったものを知るので。」

神は私たちにご自分を現わし、私たちが生涯を通じて知識と啓示を与えられながら、ますますご自分を理解できるように、その霊を与えてくださいます。神は御心に従って、私たちの罪深い自己欺瞞を克服し、ご自分について明らかにされたことを理解する能力を私たちに与えてくださいます。

**神は二つの方法でご自分を揭示されます。**

神が人類に自らを明らかにする方法は2つあると言われている。これらは、一般的啓示と特別啓示と呼ばれています。（この二つの啓示は、詩篇19篇に書かれています。詩篇19篇を読んで、神様がこのような輝かしい方法でご自身を現してくださることを感謝しましょう）。

### 一般啓示

一般的な啓示とは、どこでも誰でも利用できるようにした神からの啓示であるため、そのように名付けられました。それは主に、自然、私たちの神に対する意識、そして神の秩序ある世界統治という3つの観点から見る事ができる。

Scripture plainly admits that God is only fully known by himself. 1 Corinthians 2:11 says, "For who knows a person's thoughts except the spirit of that person, which is in him? So also no one comprehends the thoughts of God except the Spirit of God."

Paul is using the metaphor of human relationships to explain our relationship to God. I have been married to my wife for 13 years. There are still things I am learning about her regularly. I can never know her totally and she can never know me totally. We both have thoughts everyday that we never tell each other and we only know ourselves. It is the same with God. No one can fully know God except God himself.

In fact, even what we do know about God is still limited because we continue to be deceived by sin that dwells in us (Hebrews 3:12-14). So even our knowledge that we have of God is clouded. But, despite our sinfulness and God's holiness, we can have true knowledge of what God reveals.

1 Corinthians continues in 2:12 and says, "Now we have received not the spirit of the world, but the Spirit who is from God, that we might understand the things freely given us by God."

God reveals himself to us and he gives us his Spirit so that we can understand more and more of him as he grants knowledge and revelation to us throughout our lives. According to his will, God overcomes our sinful self-deception and grants to us the ability to understand what he has revealed about himself.

### **God reveals himself in two ways**

There are two ways God is said to reveal himself to humanity. These have been called General Revelation and Special Revelation. (Both of these types of revelation are discussed in Psalm 19. Take a moment to read through it and thank God for revealing himself in such glorious ways.)

#### General Revelation

General Revelation is so named because it is revelation from God made available to everyone everywhere. It is seen in three main ways: nature, our consciousness of God, and God's orderly governance of the world.

まずは自然をみてみましょう。

詩篇19:1では「天は神の栄光を語り告げ。」

ローマ1:19-20ではこう言っています。「神について知りうることは、彼らの間で明らかです。神が彼らに明らかにされたのです。神の、目に見えない性質、すなわち神の永遠の力と神性は、世界が創造されたときから被造物を通して知られ、はっきりと認められるので、彼らに弁解の余地はありません。」

自然界に見られる美しさや複雑さ、力強さや威厳を観察することで、私たちは力強い創造主である神の存在を知ることができるわけです。

次に、私たちの神への意識です。

創世記1:27でこう言われます。「神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。」

人間は、男性も女性も、神様に似せて創られた存在です。罪がこの世に入り込んだとき、神のかたちは壊されました。私たちは皆、今でも神様に似せて造られています。その姿は損なわれています。罪が私たちの身体と魂を蝕んだので、誰も本当の意味で作られたとおりに生きることができません。しかし、クリスチャンになることの意味の一つは、そのイメージが新しくされ始めることです。イエス・キリストは神の完全なかたちであり、罪を犯すことのなかった新しいアダムでした。そして、信仰によって彼と結ばれたすべての人は、神のかたちとして新しくされるのです。

エペソ人への手紙4章20～24節とコロサイ人への手紙3章4～10節を読んでみましょう。ここで、神に似せて造られたことの意味の一部は、義であり、聖であり、神についての真の知識を持つことであることがわかります。ローマ1:21には、「彼らは神を知っていながら…」とあります。

ですから、人間であることの意味の一つは、神についての知識が私たちに染み付いていることです。この知識もまた、神が私たちを神の姿に似せて創られたことによって、私たちに与えられたものです。神についての知識は、最初から私たちの中にあるのです。私たちは、神が存在すること、神が力を持っていること、神がすべてのものの創造者であることを知りながら生まれ、成長していきます。

First, let's look at nature.

Psalms 19:1 says, "The heavens declare the glory of God."

Romans 1:19-20 says, "For what can be known about God is plain to them, because God has shown it to them. For his invisible attributes, namely, his eternal power and divine nature, have been clearly perceived, ever since the creation of the world, in the things that have been made."

Through observing the beauty and complexity and power and majesty of what we see in nature we can know that there is a powerful Creator-God.

Next, our consciousness of God.

Genesis 1:27 says, "So God created man in his own image, in the image of God he created him; male and female he created them."

Humans, both male and female, are created in God's image. When sin entered the world the image of God was corrupted. We are all still made in the image of God, but that image is marred. No one truly lives as they were made to because sin has corrupted us body and soul. However, part of what it means to become a Christian is to have that image begin to be renewed. Jesus Christ was the perfect image of God, the new Adam who never sinned, and all who are united to him in faith are being made new as images of God.

Read Ephesians 4:20-24 and Colossians 3:4-10. Here we see that part of what it means to be made in the image of God is to be righteous, holy, and have true knowledge of God. Romans 1:21 says, "For although they knew God...."

So part of what it means to be human is to have knowledge of God ingrained in us. This also is given to us by God by means of his creating us in his image. This knowledge that we have of God is in us from the beginning. We are born and we grow up knowing that there is a God, that he is powerful, and that he is the creator of all things.

私たちが神を意識していることは、何が正しくて何が間違っているかという感覚を誰もが自然に持っていることにも表れています。ローマ2:14-16は、私たちが世界と自分の人生において正義と公正を望んでいるので、神様の律法が私たちの心に書かれていることは明らかだと言っています。私たちが自分の考えによって非難されようとも、あるいは自分自身に言い訳をしようとも、たとえ十戒を聞いたことがなくても、あるいは聖書さえ読んだことがなくても、私たちは神の律法を知っていることを示しているのです。

最後に、被造物に対する神の秩序ある統治もまた、神を現すものである。

詩篇19編2節に「昼は昼へ話を伝え夜は夜へ知識を示す。」とあります。創造には、信頼でき、論理的で、一貫性のある秩序があります。歴史上、毎日、太陽は昇り、沈む。夜、昼、夜、昼、夜、昼。私たちは自然を観察し、それについて論理的な結論を出し、その結論が明日も正しいという確信を持つことができる。宇宙はランダムではないし、ランダムに機能しているわけでもない。理性的で、善良で、強力な創造主である神がいて、このすべてを造っていることは明らかです。

### 特別な啓示

次に、「特別啓示」です。これは、限られた（あるいは特別な）人々に啓示されることから、特別啓示と呼ばれています。特別啓示で参照されるのは聖書ですが、聖書を読み、それを神からの啓示として受け入れることができるのは、神が聖霊を付与した者だけです（1コリント1: 18、21；エペソ1: 17-18）。

神の言葉が語られ、すぐに書き記されたことが初めて記録されたのは、出エジプト記31章18節である。モーセがシナイ山で神から律法を聞いた後、「こうして主は、シナイ山でモーセと語り終えたとき、さとの板を二枚、すなわち神の指で書き記された石の板をモーセにお授けになった。」と書いてあるのです。

この瞬間が、聖書づくりの始まりです。神が語られ、語られたことを書き留められたのです。聖書の多くは、神からの直接の引用を記録しているという点で、これと似ています。しかしまた、聖書の多くは、神が民を通して民に語られた言葉です（マタイ22: 43-44、エペソ3: 3、1ペテロ1: 10-11、2ペテロ1: 19-21）。

Our consciousness of God is also shown by the fact that we all have a natural sense of what is right and wrong. Romans 2:14-16 says that it is clear that God's law is

written on our hearts because we desire justice and fairness in the world and in our lives. Whether we are accused by our thoughts or if we are making excuses for ourselves, we are showing that we know of God's law even if we have never heard of the 10 commandments or even read the Bible.

Last, God's orderly governance of creation also reveals himself.

Psalm 19:2 says, "Day to day pours out speech, and night to night reveals knowledge." There is an order to creation that is reliable, logical, and consistent. Every day for all of history the sun has come up and gone down. Night, day, night, day, night, day. We can observe nature, make logical conclusions about it and have confidence that our conclusions will still be true tomorrow. The universe is not random and is not functioning randomly. It is obvious that there is a rational, good, powerful Creator-God who has made all of this.

### Special Revelation

Next is Special Revelation. This is called Special Revelation because it is revealed to a limited (or special) group of people. Scripture is what is being referred to in Special Revelation, but only those to whom God grants the Holy Spirit are able to read Scripture and accept it as revelation from God (1 Corinthians 1:18, 21; Ephesians 1:17-18).

The first time it is recorded that God's words were spoken and immediately written down is in Exodus 31:18. After Moses was on Mount Sinai hearing the law from God it says, "And he gave to Moses, when he had finished speaking with him on Mount Sinai, the two tablets of the testimony, tablets of stone, written with the finger of God."

This moment is the beginning of the making of the Bible. God spoke and wrote down what he said. Much of Scripture is similar to this in that it is recording direct quotes from God. But also, much of Scripture is God's words spoken to his people through his people (Matthew 22:43-44; Ephesians 3:3; 1 Peter 1:10-11; 2 Peter 1:19-21).

聖書は、自然が与えることのできない神についての知識を与えてくれます。聖書を通して、私たちは創造主である神様が主であることを知ることができます（出エジプト記3:1-15）。私たちは、イエスが神の子であること、そしてイエスを信じるのが救われる唯一の道であることを知ることができます（2テモテ3:15-16）。

聖書はまた、神が私たちに何を要求しているかを教えてくれます。自然界を見ても、何が神様に喜ばれるかは分かりませんが、出エジプト記20章を読めば、神様の律法を知ることができるのです。

### 私たちは神の知識を阻む

神様が天地創造や御言葉である聖書の中で明らかにしてくださったのだから、神様を知らず、愛さず、礼拝しないわけにはいかないと思い始めるかもしれません。しかし、ここでまた私たちの罪深さの問題に立ち戻ることになります。ローマ人への手紙1:18-32を読むと、神がご自身を明らかにされたにもかかわらず、私たちが神を知ることが否定してきたことがわかります。

被造物から神について知ることができること（「神の永遠の力と神性」）さえも阻まれています。私たちは神について知っていることを拒否しているのです。どうしてそうなるのでしょうか？ローマ人への手紙1:18には、「不義によって真理を阻んでいる」と書いてあります。私たちは罪によって、自分自身が神について知ることが妨げられているのです。罪は人を欺くものですから、私たちが神に従わず拒絶している限り、私たちもまた自分自身を欺くことになり、その結果、神を知ることが妨げられているのです。

パウロがローマ1:15で言うように、私たちは神が存在することを知って生まれ、私たちの良心がそれを証言しているにもかかわらず、生まれた瞬間から、その神の知識を拒否し始めるのもあるのです。神を求める者はいない。

イエスはこの問題をマタイ6:22-23で説明しました。「からだの明かりは目です。ですから、あなたの目が健やかなら全身が明るくなりますが、目が悪ければ全身が暗くなります。ですから、もしあなたのうちにある光が闇なら、その闇はどれほどでしょうか。」

御霊による悟りを通して、神が私たちの罪深さを克服して下さることが必要です。ですから、私たちは神が私たちの自己欺瞞と罪深さを克服し、神が啓示されたことを知り、理解し始める必要があるのです。私たちの心の目を悟らせる必要があるのです。エペソ1:17-19でパウロがエペソの教会のために祈っているのは、このようなことです。



Scripture gives us a knowledge of God that nature is unable to give. Through Scripture we can know that the Creator-God is the LORD (Exodus 3:1-15). We can know that Jesus is the Son of God and that having faith in him is the only way to be saved (2 Timothy 3:15-16).

Scripture also tells us what God demands from us. We can't know what pleases God by looking at nature, but we can know God's law by reading it in Exodus 20.

### **We suppress the knowledge of God**

You might start to think that with all the revealing that God has done in creation and in his Word, the Bible, it would be hard to not know him, love him, and worship him. However, we are back to the problem of our sinfulness again. If you read Romans 1:18-32 you will see that although God has revealed himself we have suppressed the knowledge of God.

Even what can be known about God from his creation ("his eternal power and divine nature") is suppressed. We reject what we know about God. How do we do that? Romans 1:18 says, "men, who by their unrighteousness suppress the truth." We hinder our own knowledge of God by our sin. Sin is deceitful and thus, to the extent that we are disobeying and rejecting God we are also deceiving ourselves and thus hindering ourselves from knowing God.

Even though we are born knowing that there is a God and, as Paul says in Romans 1:15, our conscience bears witness to this, we also begin rejecting that knowledge of God from the moment we are born. No one seeks for God.

Jesus explained this problem in Matthew 6:22-23, "The eye is the lamp of the body. So, if your eye is healthy, your whole body will be full of light, but if your eye is bad, your whole body will be full of darkness. If then the light in you is darkness, how great is that darkness!"

### Need God to overcome our sinfulness with grace through enlightenment by the Spirit

So we need God to overcome our self-deceit and our sinfulness so that we can begin to know and understand what he has revealed. We need the eyes of our hearts to be enlightened. This is what Paul prays for the church in Ephesus in Ephesians 1:17-19:

「どうか、私たちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しにより与えられる望みがどのようなものか、聖徒たちが受け継ぐものがどれほど栄光に富んだものか、また、神の大能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力が、どれほど偉大なものであるかを、知ることができますように。」

実際、神がその能力を与えない限り、神について真に理解することは不可能です。第一コリント人への手紙2章12節から16節は、このことを説明しています。ここで、1:12と14を引用します。

「しかし私たちは、この世の霊を受けたのではなく、神からの霊を受けました。それで私たちは、神が私たちに恵みとして与えてくださったものを知るので。...生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらはその人には愚かなことであり、理解することができないのです。御霊に属することは御霊によって判断するものだからです。」

ヨハネによる福音書3章3節で、イエスはこれを新生という言葉で説明している。「イエスは答えられた。『まことに、まことに、あなたに言います。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。』」

たとえ聖書を読んで勉強しても、教会に通っても、神に反対していたら、聖書のメッセージは理解できません。私たちには、神が理解を与えてくださることが必要なのです。

もちろん、福音の素晴らしい良い知らせは、私たちの代わりに十字架にかけられたイエス様の働きによって、神様が私たちの心の目を真理を見ることができるようになってくださることで。

テトスへの手紙2:11-14

「実に、すべての人に救いをもたらす神の恵みが現れたのです。その恵みは、私たちが不敬虔とこの世の欲を捨て、今の世にあって、慎み深く、正しく、敬虔に生活し、祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるイエス・キリストの、栄光ある現れを待ち望むように教えています。キリストは、私たちをすべての不法から贖い出し、良いわざに熱心な選びの民をご自分のものとしてきよめるため、私たちのためにご自分を献げられたのです。」

that the God of our Lord Jesus Christ, the Father of glory, may give you the Spirit of wisdom and of revelation in the knowledge of him, having the eyes of your hearts enlightened, that you may know what is the hope to which he has called you, what are the riches of his glorious inheritance in the saints, and what is the immeasurable greatness of his power toward us who believe, according to the working of his great might.

In fact, it is impossible to understand anything about God truly unless he gives us the ability to do so. 1 Corinthians 2:12-16 explains this. I will quote 2:12 and 14 here.

Now we have received not the spirit of the world, but the Spirit who is from God, that we might understand the things freely given us by God...The natural person does not accept the things of the Spirit of God, for they are folly to him, and he is not able to understand them because they are spiritually discerned.

In John 3:3 Jesus explains this in terms of the new birth. "Jesus answered him, 'Truly, truly, I say to you, unless one is born again he cannot see the kingdom of God.'"

Even if you read and study the Bible, and attend church, if you are opposed to God you will never understand the message of Scripture. We need God to give us understanding.

Of course, the wonderful good news of the gospel is that God makes the eyes of our hearts able to see the truth through the work of Jesus on the cross in our place.

Titus 2:11-14:

For the grace of God has appeared, bringing salvation for all people, training us to renounce ungodliness and worldly passions, and to live self-controlled, upright, and godly lives in the present age, waiting for our blessed hope, the appearing of the glory of our great God and Savior Jesus Christ, who gave himself for us to redeem us from all lawlessness and to purify for himself a people for his own possession who are zealous for good works.

### テトスへの手紙3:4-7

「しかし、私たちの救い主である神のいつくしみと人に対する愛が現れたとき、神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみによって、聖霊による再生と刷新の洗いをもって、私たちを救ってくださいました。神はこの聖霊を、私たちの救い主イエス・キリストによって、私たちに豊かに注いでくださったのです。それは、私たちがキリストの恵みによって義と認められ、永遠のいのちの望みを抱く相続人となるためでした。」

### イエスは神の究極の啓示である

神の啓示は、神ご自身が人となり地上を歩まれたときに頂点に達しました。イエスは神が人となる方だけでなく、神ご自身の形として作られた存在として、私たちがあるべき姿をすべて実現されたのです。

コロサイ人への手紙1:15、「御子は、見えない神のかたちであり、すべての造られたものより先に生まれた方です。」

ヘブル1:1-4には、神の啓示が、神の子イエス・キリストの生涯と宣教において、いかに頂点に達したかが記されている。

「神は昔、預言者たちによって、多くの部分に分け、多くの方法で先祖たちに語られましたが、この終わりの時には、御子にあって私たちに語られました。神は御子を万物の相続者と定め、御子によって世界を造られました。御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れであり、その力あるみことばによって万物を保っておられます。御子は罪のきよめを成し遂げ、いと高き所で、大いなる方の右の座に着かれました。御子が受け継いだ御名は、御使いたちの名よりもすばらしく、それだけ御使いよりもすぐれた方となりました。」

### イエス様は受肉された神の言葉

神は被造物を語られ、存在させられたのです。これは私たちにとって実に謎ですが、ヨハネは、神が語られ、神がそれを通してすべての被造物を造られた御言葉が、実は永遠の神の御子であることを教えています。神の言葉は、三位一体の神の第二位格です。

Titus 3:4-7:

But when the goodness and loving kindness of God our Savior appeared, he saved us, not because of works done by us in righteousness, but according to his own mercy, by the washing of regeneration and renewal of the Holy Spirit, whom he poured out on us richly through Jesus Christ our Savior, so that being justified by his grace we might become heirs according to the hope of eternal life.

### **Jesus is the ultimate revelation of God**

God's revelation of himself reached a climax when he himself became a man and walked on the earth. Jesus not only is God incarnate, but he also fulfilled all that we were meant to be as being made in God's image.

Colossians 1:15 says, "He is the image of the invisible God, the firstborn of all creation."

Hebrews 1:1-4 tells us how God's revelation came to its climax in the life and ministry of Jesus Christ, the Son of God:

Long ago, at many times and in many ways, God spoke to our fathers by the prophets, but in these last days he has spoken to us by his Son, whom he appointed the heir of all things, through whom also he created the world. He is the radiance of the glory of God and the exact imprint of his nature, and he upholds the universe by the word of his power. After making purification for sins, he sat down at the right hand of the Majesty on high, having become as much superior to angels as the name he has inherited is more excellent than theirs.

### Jesus is the Word of God Incarnate

God spoke creation into existence. This is indeed a mystery to us, but John tells us that God's speaking, his Word through which he made all things that have been made, is actually the eternal Son of God. The Word of God is the second person of the Triune God.

ヨハネの福音書はこう言っています。

「初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。この方は、初めに神とともにおられた。すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかった。この方にはいのちがあった。このいのちは人の光であった。光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった。」

そして、ヨハネは、奇跡の中の奇跡として、この言葉が肉体となったことを教えてくれます。彼は人となり、彼が創造した地球に住んだのです。ヨハネによる福音書1章14節には、「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。」と書かれています。

受肉において、神の言葉は触れることができるようになりました。あなたは神の言葉と一緒に歩き、話すことができましたのです。神様がどのような方であるか、どれほどはっきりさせることができるのでしょうか？(ヨハネの手紙第一1:1-2を読むと、ヨハネがこの真理について考察しているのがわかります。)

### 聖書はイエスについて

聖書もまた、正しく理解すれば、イエス様に関するものです。すべての聖書はイエスを指し示しているのです。イエス様はこのように聖書を理解されたのです。そして、イエスが弟子たちに聖書を理解するように教えたのも、この方法です。

マタイ5:17で、イエスは言われた。「わたしが律法や預言者を廃棄するために来た、と思っはなりません。廃棄するためではなく成就するために来たのです。」ルカ24:25-26でイエスは言われる。「そこでイエスは彼らに言われた。「ああ、愚かな者たち。心が鈍くて、預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち。キリストは必ずそのような苦しみを受け、それから、その栄光に入るはずだったではありませんか。」そして、ルカは24:27でこのように解説しています。「それからイエスは、モーセやすべての預言者たちから始めて、ご自分について聖書全体に書いてあることを彼らに説き明かされた。」最後にヨハネ5:39でイエスは言われた。「あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思って、聖書を調べています。その聖書は、わたしについて証しているものです。」と。

御霊によって御言葉を通して神を知ることが救いである

John 1:1-5 says this:

In the beginning was the Word, and the Word was with God, and the Word was God. He was in the beginning with God. All things were made through him, and without him was not any thing made that was made. In him was life, and the life was the light of men. The light shines in the darkness, and the darkness has not overcome it.

Then John tells us that, miracle of miracles, this Word became flesh. He became a man and lived on the earth he created! John 1:14 says, "And the Word became flesh and dwelt among us, and we have seen his glory, glory as of the only Son from the Father, full of grace and truth."

In the incarnation, God's Word became touchable. You could walk with and talk with the Word of God. How much more clear can God be about who he is?! (Read 1 John 1:1-2 to see John reflect on this truth.)

Scripture is about him

The Bible, also, properly understood, is about Jesus. All of Scripture points to him. This is how Jesus understood the Scriptures. And it is how he taught his disciples to understand the Scriptures as well.

In Matthew 5:17 Jesus says, "Do not think that I have come to abolish the Law or the Prophets; I have not come to abolish them but to fulfill them." In Luke 24:25-26 Jesus says, "O foolish ones, and slow of heart to believe all that the prophets have spoken! Was it not necessary that the Christ should suffer these things and enter into his glory?" And Luke gives this commentary in 24:27, "And beginning with Moses and all the Prophets, he interpreted to them in all the Scriptures the things concerning himself." Finally in John 5:39 Jesus says, "You search the Scriptures because you think that in them you have eternal life; and it is they that bear witness about me."

Knowing God through his Word by the Spirit is Salvation

すでに見たように、罪深い人間が神の啓示を理解するためには、神の霊が私たちの心の中に働いてくださる必要があります。イエスは、ヨハネ16:13-14で、使徒たちが去った後、聖霊がすべての真理に導いてくださると語っておられます。「しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導いてくださいます。御霊は自分から語るのではなく、聞いたことをすべて語り、これから起こることをあなたがたに伝えてくださいます。御霊はわたしの栄光を現されます。わたしのものを受けて、あなたがたに伝えてくださるのです。」

イエスが神の子であり、信じる者に救いを与えてくださることを知るためには、聖霊が私たちの内側に入り、私たちの心の目を悟らせる働きをする必要があります。これは、聖霊が私たちを新生させるときになさることの一部であると思われます（ヨハネ3:3-8）。

このイエスを唯一の真の神の御子であるキリストとして知ること、ひいては唯一の真の神を知ることが、神のすべての救いの御業の目的なのです。ヨハネによる福音書17章3節で、イエスは父なる神に祈りながら、こう言っていました：「永遠のいのちとは、唯一のまことの神であるあなたと、あなたが遣わされたイエス・キリストを知ることです。」

では、なぜ神は宇宙を語ることで創造させられたのでしょうか。なぜ御子（御言葉）を人としてこの世に遣わされたのでしょうか。なぜ聖霊を遣わし、聖書を靈感させ（2テモテ3: 16）、私たちが神の啓示を理解できるように霊的視力を与えられたのでしょうか。そうすれば、私たちは神を知ることができるからです。

しかし、聖書が神を知ると語るのとは、夫が妻を知ると語るのと似ていると思われる（創世記4:1、ローマ8:28-29）。つまり、これは単なる頭でかちの知識ではないのです（でもそれ以下でもありません）。この知識には経験的な部分がある。

また、イエスはヨハネ17章の祈りの最後に、神がご自分を民に啓示された目的を説明されています。「正しい父よ。この世はあなたを知りませんが、わたしはあなたを知っています。また、この人々は、あなたがわたしを遣わされたことを知っています。わたしは彼らにあなたの御名を知らせました。また、これからも知らせます。あなたがわたしを愛してくださった愛が彼らのうちにあり、わたしも彼らのうちにいるようにするためです。」

ですから、神がなさったすべての目的は、民を永遠にご自分のもとに連れてくることなのです。父が子を愛されたのと同じ愛が、ご自分を現された人々の中にもあるはず です。

父の愛が私たちの中にあるというのはどういうことでしょうか。それは非常に抽象的な考えです。



As we have seen already, in order for sinful humans to understand the revelation that God gives we need his Spirit to work in our hearts. Jesus tells his Apostles that the Holy Spirit will guide them into all truth after he leaves in John 16:13-14. "When the Spirit of truth comes, he will guide you into all the truth, for he will not speak on his own authority, but whatever he hears he will speak, and he will declare to you the things that are to come. He will glorify me, for he will take what is mine and declare it to you."

In order for us to know that Jesus is the Son of God and gives salvation to all who believe in him we need the Holy Spirit to come inside us and do his work to enlighten the eyes of our hearts. This seems to be part of what the Holy Spirit does when he makes us born again (John 3:3-8).

This knowing Jesus as the Christ, the Son of the one true God, and thus knowing the one true God is the goal of all of God's work of salvation. In John 17:3 Jesus is praying to God the Father and he says, "And this is eternal life, that they know you, the only true God, and Jesus Christ whom you have sent."

So, why did God speak the universe into existence? Why did he send his Son (the Word) into the world as a man? Why did he send the Spirit to inspire Scripture (2 Timothy 3:16) and to give us spiritual sight so we can understand his revelation? So we would know him.

However, the way the Bible speaks of knowing God is similar, it seems, to the way it speaks of a husband knowing his wife (Genesis 4:1; Romans 8:28-29). In other words, this is not simply head knowledge (although it is not less than that). There is an experiential element to this knowledge.

Also, Jesus finishes his prayer in John 17 explaining the purpose of God's revelation of himself to his people, "O righteous Father, even though the world does not know you, I know you, and these know that you have sent me. I made known to them your name, and I will continue to make it known, that the love with which you have loved me may be in them, and I in them."

So the whole purpose of all that God has done is to bring a people to himself forever. The same love with which the Father loved the Son would be in those he has revealed himself to.

What does it mean that the Father's love is in us? That is a very abstract idea.

これがすべての答えを与えてくれるとは思えませんが、これは聖霊を指していると思います（ローマ5:5、8:15、ガラテヤ4:4-6、第一ヨハネ4:12-13）。神様は愛です（第一ヨハネ4:16）。御父は御子を愛しておられます（ヨハネ17:26）。御子は御父を愛しておられます（ヨハネ14: 31）。そして、父と子の間の愛が、三位一体の神の第三位格でもある聖霊なのです。そして、聖霊は私たちのうちに住まわれ、御父の子としての私たちへの愛を私たちに確認させてくださるのです。これは多くの神学者が考えられている意見で、彼らは正解だと思います。

I'm not sure this gives us all the answers, but I believe this is referring to the Holy Spirit (Romans 5:5; 8:15; Galatians 4:4-6; 1 John 4:12-13). God is love (1 John 4:16). The Father loves the Son (John 17:26). The Son loves the Father (John 14:31). And the love between the Father and the Son is the Holy Spirit who is also the third person of the Triune God. And the Holy Spirit dwells in us confirming to us the love of the Father for us as his children. This is the view of many reliable theologians and I think they are correct.

# ディスカッション

以下の質問について考え、グループで話し合う準備をしましょう。

6. 神様について、今まで知らなかったことを新たに学びましたか？ もしあれば、それは何ですか？
7. 神様はご自分を明らかにされました。神様は私たちに、神様についての理解できる本、聖書を与えてくださいました。どうしたら、神様をもっとよく知ることができるでしょうか？ 神様をもっと知るために、あなたは何をしますか？
8. もし、神様のすべての働きの要点が、神様があなたを愛していることを知り、あなたが神様を愛するようになることだとしたら、クリスチャンであることの意味をどう変える必要があるのでしょうか。
9. 今週、あなたはこの唯一の真の神について他の人に伝えるために何ができるでしょうか。
10. 神様が語られるこの真理は、あなたの人間関係（友人、同僚、家族、教会など）にどのような影響を与えるべきでしょうか？

一緒に祈りの時間を持ってください。特に祈り課題のために祈ってください。

# Discussion

**Think about these questions and be prepared to discuss together with your group.**

1. Did you learn anything new about God that you previously did not know? If so, what?
2. God has revealed himself. He gave us a clear, understandable book about him; the Bible. How can you know him better? What will you do to know God more?
3. If the whole point of all of God's work is so that you would know he loves you and that you would love him, what needs to change about what you think it means to be a Christian?
4. What can you do this week to tell others about this one true God who wants us to know him?
5. How should this truth—that God speaks—effect your relationships (either friends, coworkers, family, church)?

**Spend some time praying together. Pray specifically for the requests that were mentioned.**

**第3章：神は創造する**

**1:1-2:3**

**Chapter 3: God Creates**

**1:1-2:3**

# 事前の勉強

創世記1～2:3を読んで、次の質問を考えてみてください。

- 世界はどのように存在し始めたのでしょうか？
- 神様は何を使ってすべてを創造されたのでしょうか？
- 神様がすべてを創造されるのに、どれくらいの時間がかかりましたか？
- 神様は何をお持ちですか？

## 学び

### 聖書は私たちの世界を解釈する基準である

前に学んだように、唯一の真の神は語られます。神様は私たちに、神様が誰で、私たちがどのように存在するようになったか、罪がどのように神様の創造物を壊したか、そしてどのように神様と和解することができるかを語る、理解できる、権威ある、啓示を与えてくださったのです。

この啓示は、私たちのために聖書の中に保存されています。聖書は、私たちが世界を理解するための基準なのです。墮落以来、私たちの周りの世界に見えるものを解釈するために、他の権威ある情報源に目を向けることが一般的になっています（創世記 3:4-7）。私たちの最初の両親であるアダムとエバがそうであったように、これは私たちを多くの罪へと導くでしょう。

チャールズ・ダーウィンの進化論は、150年以上にわたって、信頼できる科学研究の基礎として広く受け入れられてきました。この進化論は生命の起源に関わるものであり、他のあらゆる研究分野に影響を与え、現在でも多くの国の政府が生命の起源に関する既成事実とみなしている。

この嘘がもたらす影響は甚大である。

クリスチャンとして、私たちは人間が作り出したすべての理論や考えを聖書に委ねます。聖書は、私たちが人間の考えをふるいにかけるフィルターなのです。聖書だけが持つべき権威を、不義によって真理を阻んでいる、悔い改めていない人々の理論に与えることはできません（ローマ1: 18）。

むしろ、クリスチャンとして、聖書を優先し、私たちの周りの自然界に見えるものを聖書の教えに従って解釈していくのです。

# Pre-Study

Read Genesis 1:1-2:3 and think about these questions:

- How did the world begin to exist?
- What did God use to create everything?
- How long did it take for God to create everything?
- What belongs to God?

# Study

## **Scripture is the standard for interpreting our world**

As we studied in the previous section, the one true God speaks. He has given us understandable, authoritative, revelation that tells us who he is, how we came to exist, how sin has broken his creation, and how we can be reconciled back to him.

This revelation is preserved for us in the Bible. The Bible is the standard for how we understand the world. Since the Fall it has been common practice to look to other sources of authority to interpret what we see in the world around us (Genesis 3:4-7). Just as it did with our first parents, Adam and Eve, this will lead us into a lot of sin.

For over 150 years, Charles Darwin's theory of Evolution has been widely accepted as fundamental to any credible scientific study. This theory of evolution, being concerned with the origin of life, has influenced every other sphere of study and is still considered by many national governments to be the assumed facts of how life began.

The effects of this lie have been devastating.

As Christians, we submit all theories and ideas produced by humans to Scripture. Scripture is the filter through which we sift the thoughts of mankind. We cannot give the place of authority that only Scripture deserves to the unproven theories of unrepentant men and women who suppress the truth through unrighteousness (Romans 1:18).

Rather, as Christians, we give the Bible priority and then interpret what we see in the natural world around us in submission to the teaching of Scripture.



神は宇宙の起源と種の起源について語られています。神の言葉が何を語っているのかを見て、それに従って自分の理論を修正しよう。

ローマ人への手紙12:2はこう書いてあります、「この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい。そうすれば、神のみごころは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになります。」

## 創造

### 「はじめに」

創世記1章1節は、聖書の唯一の真の神が、存在するすべてのものの創造主であることを明確に述べているのです。これが創世記1:1のポイントです。他の起源はありません。他の神と競合するものではありません。神様はただ一人であり、すべてのものの創造主なのです。神はこの創造行為を「エクス・ニヒロ」、つまり「無から生じた」という意味で行われました。神が語られ、被造物が存在するようになったのです（ヘブル11:3）。

創世記1:2-2:3の残りの部分で、神がどのように創造のプロセスを続けているかを見てみましょう。

### 第一日

1:1-5は天地創造の第一日目である。ゴードン・J・ウェナムは創世記の注解の中で、「天と地」という言葉は、神が住まれる場所と人が住まれる場所を指している場合もあるが、おそらくまとめて「すべて」という意味で捉えているのだろうと述べています。聖書の最初の文のポイントは、神がすべての創造物の作者であるということです。

次に、「地」の状態についての記述がある。地は暗く、空虚で、形がなく、明らかに水に覆われている。

3-5節で、神は光を創造し、その良さを確認し、光と闇を分離し、そして光と闇に「昼」と「夜」の名前を付けられた。注解者は、太陽と月と星は4日目まで明確に言及されていないが、おそらく、ここでは初日に創造されたが、まだ「天の天空」に置かれておらず、少なくとも、夜と昼を支配するために分離されてはいなかったと指摘している。

God has spoken concerning the origin of the universe and the origin of species. Let's see what God's word says and then adjust our theories accordingly.

Romans 12:2 says, "Do not be conformed to this world, but be transformed by the renewal of your mind, that by testing you may discern what is the will of God, what is good and acceptable and perfect."

## **Creation**

### "In the beginning"

Genesis 1:1 is a clear statement that the one true God of the Bible is the creator of everything that exists. This is the point of Genesis 1:1. There is no other origin. There is no other competing deity. There is only one God and he is the creator of all things. God did this act of creation *ex nihilo*, which means "out of nothing." God spoke and creation came into existence (Hebrews 11:3).

Let's look at how God continues the creation process in the rest of Genesis 1:2-2:3.

### Day 1

1:1-5 is the first day of creation. In his commentary on Genesis, Gordon J. Wenham says that the phrase "heavens and the earth," although they can be referring to the place where God dwells and the place where people dwell, it is probably meant to be taken together to mean "everything." The point of the first sentence of the Bible is that God is the author of all of creation.

Next though, there is a description of the condition of the "earth" or "land." The land is dark, void, without form, and apparently covered in water.

In verses 3-5 God creates light, affirms its goodness, separates light from darkness, and then names the light and the dark "day" and "night." Commentators point out that although the sun and moon and stars are not explicitly mentioned until the fourth day, probably they were created here on the first day, but not yet put in the "expanse of the heavens" or at least, not separated to govern the night and day.

## 第二日

6-8節で、神は水と水の間に隔てを設けられた。2節では、水がすべてを覆っていました。ここで、神様は、上にも下にも水があるように、大空を持たせてくださいました。この大空は、8節で「天」と呼ばれています。1:20では、同じ言葉で鳥が飛ぶ場所を表現しているので、私たちが空と呼ぶものの創造を語っているのだと思われる。

## 第三日

3日目に神が語ると、天の下にあった水が集まり、乾いた大地が現れる。神は乾いた大地を「地」と名付け、水が集まった場所を「海」と名付けた。

また、神は乾いた土地に植物を作るように命じています。これは、「その種類ごとに」という表現を初めて目にしたときです。神は最初からすべての種類の植物を創造されたのです。一つの植物がいつの間にか他の種類の植物に進化したのではありません。

## 第四日

4日目、神は昼と夜のサイクル、季節、年、そしてしるしを与えるために、先に造られた光をそれぞれの場所に配置されます。つまり、神様は昼の太陽と夜の月を定め、星々（そして宇宙にあるすべてのもの！）をそれぞれの場所に配置されたのだと思われます。

## 第五日

5日目、神は海の生き物と魚を創造し、水を満たし、鳥を創造し、空を飛び回らせた。これらの生き物を創造したときの神の言葉からは、神が創造を楽しんでいるように見える。魚や海の生き物が水の中に「群がる」ように、鳥が「地の上、天の大空を飛ぶ」ように創造されたのである。

繰り返しになりますが、海の生物も魚も鳥も、その種類に応じて創造されたものです。魚が鳥になるような進化はありませんでした。種類が環境に適応して、自分の種類の中で異なる特性を進化させるプロセスはありますが、ある種類から別の種類に進化することはありませんでした。

また、神は鳥や海の生き物を祝福し、それらが増えて海と地を満たすようにされました。

### Day 2

In verses 6-8 God made a separation between the waters. In verse 2 water covered everything. Here, God makes an expanse so that there are waters that are above and below the expanse. This expanse is called "sky" or "heaven" in verse 8. 1:20 uses the same word to describe the place where birds fly so it seems that this is talking about the creation of what we would also call the sky.

### Day 3

On the third day God speaks and the waters below the sky are gathered so that dry land appears. God names the dry land "Earth" and the place where the waters were gathered together "Seas."

Also God commands the dry land to produce vegetation. This is the first time we see the phrase "according to its kind." God created all the different kinds of plants from the very beginning. There was not one plant that somehow evolved into other types of plants.

### Day 4

On day four God puts the lights that were created previously in their prospective places in order to give cycles of day and night, seasons, years, as well as for signs. So this seems to be God designating the sun for daytime and the moon for nighttime as well as placing the stars (and everything else in space!) in their places.

### Day 5

On the fifth day God created sea creatures and fish to fill the waters and the birds to fly across the sky. The language used by God when creating these creatures shows that God seems to be enjoying himself in creation. He creates the fish and sea creatures to "swarm" in the water and the birds to "fly above the earth across the expanse of the sky."

Again, the sea creatures, fish, and birds are all created according to their kinds. There was not an evolutionary process where a fish became a bird. There are processes where species will adapt to their environment and evolve different characteristics within their own species, but there have not been any evolving from one species to another.

Also, God blessed the birds and all the creatures in the sea in order that they would multiply and fill the seas and the earth.

## 第六日

神の創造の仕事の最後の日、6日目に、神は「地を這う」すべての動物を作り、人間を作られた。動物を「種類ごとに」造られたのである。これは、ある種類が別の種類から進化するというマクロ進化の長いプロセスではなく、すべての種類の動物がこの瞬間に創造されたことを指し示している。

神は6日目に人間もお造りになりました。神が男と女を創造したことは、神の創造の頂点であった。神はこの瞬間のために地球を準備されたのです。男と女は、地上における神の代表的な支配者として、神に似せて造られたのです。男も女も等しく神に似せて造られ(1:27)、「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」という命令を与えられたのである。

6日目の終わりに、神はご自分の創造物のすべてをご覧になり、それが「非常に良い」ものであることをご覧になりました。天地創造は、初めから良かったのです。悪いものは何一つなかったのです。

## 第七日

2:1-3では、7日目に創造の業が終わり、神が創造の業から休まれたことが語られています。神は七日目(土曜日)を聖なる日とされました。それは、神が七日目に休まれたので、休日として定められたのです。

### **質問と回答**

この解釈に対して、私たちはさまざまな疑問を抱くことがあります。そのいくつかを以下に説明します。

#### 1番目の質問

創造のプロセスはどのようなものだったのでしょうか？ 神は創造を成し遂げるためにマクロ進化プロセスを用いたのですか？

### Day 6

On the last day of God's creation work, the sixth day, God made all the animals that "creep on the ground" and he made humans. He made the animals "according to their kind." Again this points to all species of animals being created at this moment, not a long process of macro-evolution where one species evolves out of another.

God also made humans on the sixth day. God's creation of man and woman was the crown of his creation. He was preparing the earth for this very moment. Man and woman were made in God's image as his representative rulers on the earth. Both man and woman were equally created in God's image (1:27) and given the command to "Be fruitful and multiply and fill the earth and subdue it, and have dominion over the fish of the sea and over the birds of the heavens and over every living thing that moves on the earth."

At the end of the sixth day God looked at all of his creation and saw that it was "very good." Creation, at the beginning, was good. There was nothing bad in it.

### Day 7

In 2:1-3 we are told that on the seventh day the work of creation was finished and that God rested from his work of creation. God made the seventh day (Saturday) a holy day. It was set apart as a day of rest because God rested on the seventh day.

## **Questions and Answers**

In response to this interpretation there are various questions that we may have. Some of these are explained below.

### Question 1:

What was the process of creation? Did God use macro-Evolutionary processes to accomplish creation?

## 回答

聖書が創造の過程について与えている答えは、神が語られ、創造物が生まれたというものです（詩篇33:6、9）。ダーウィンの進化論に関する事実は、種類を超えた進化の正当な証拠が一度もないことです。

無神論的進化論は、恐ろしい習慣やイデオロギーを支持する理論である。自然淘汰は、すべての進化のプロセスの基礎となるものです。動物が環境に適応し、さまざまな形質を獲得し、それを受け継ぐことは事実だが、これらの適応が最終的に異なる種に発展することは事実ではない。

ダーウィンの著書『種の起源』の正式なタイトルは『自然淘汰による種の起源、あるいは生命のための闘いにおける有利な種族の保存について』である。自然淘汰の手段によって種が他の種に進化することは、人間もより大きな種に進化する必要がある、その結果、より劣った人間とより大きな人間が存在するということである。もし、より劣った人間がいて、より大きな人間が進化する必要があるならば、より劣った人間を排除するのが自然な結論である。

無神論的進化論は、人種差別や優生学のような邪悪なイデオロギーや、大量虐殺のような悪行を煽ってきた。進化論的世界観に従えば、これらは理にかなっていない。聖書の世界観によれば、これらは裁かれることになる恐ろしい罪なのだ。

## 2番目の質問

天地創造にはどれくらいの時間がかかったのでしょうか？ 宇宙は何歳なのでしょう？

## 回答

議論の余地はあるが、聖書は、神がすべてを創造するのにかかった時間は、現在の私たちの1週間と同じ6日間であると信じているようだ。

出エジプト記20:8-11では、安息日を守る戒めは、神が6日間で創造し、7日目に休まれたというパターンに基づいている。11節に「それは主が六日間で、天と地と海、またそれらの中のすべてのものを造り、七日目に休んだからである。それゆえ、主は安息日を祝福し、これを聖なるものとした。」

Answer:

The answer that Scripture gives for the process of creation is that God spoke and creation came into being (Psalm 33:6, 9). The fact about Darwinian evolution is that there has never been any legitimate evidence of evolution across species.

Atheistic evolution supports horrible practices and ideologies. Natural selection is the foundation for all evolutionary processes. Although it is true that animals will adapt to their environment and develop different traits that they then pass on, it is not true that these adaptations eventually develop into different species.

The full title of Darwin's book *On the Origin of Species* is *On the Origin of Species by Means of Natural Selection, or the Preservation of Favoured Races in the Struggle for Life*. To say that species evolve into other species by the means of natural selection is to say that humans also need to evolve into a greater species and thus there are lesser humans and greater humans. If there are lesser humans and the greater humans need to evolve, then the natural conclusion is to get rid of the lesser humans.

Atheistic evolutionary thinking has fuelled evil ideologies like racism and eugenics as well as evil acts like genocide. According to the evolutionary worldview these make sense. According to the Biblical worldview these are horrible sins that will be judged.

Question 2:

How long did creation take? How old is the universe?

Answer:

Although it is debated, it seems to me the Bible would have us believe that the time it took God to create everything was the same amount of time as our current week: six days.

In Exodus 20:8-11 the commandment to observe the Sabbath is based on God's pattern of creating in six days and resting on the seventh. Verse 11 says, "For in six days the LORD made heaven and earth, the sea, and all that is in them, and rested on the seventh day. Therefore the LORD blessed the Sabbath day and made it holy."



これらの箇所で「日」と訳されている単語は同じ単語で、出エジプト記20章では、イスラエル人に週の七日目に休むように指示しているので、明らかに一週間7日の中の24時間の日のことを言っている。しかし、同じ「日」という言葉が、もっと長い期間を示すために比喩的に使われることもある。その代表的な例が創世記2章4節です。では、答えは何でしょうか。

これはお互いに寛大と忍耐をする問題ですが、天地創造は文字どおり24時間の6日間で成し遂げられたと僕は思います。同じ「日」という言葉でも、より長い時間を示すために使われる場合は、文脈上、その言葉の意味合いが異なることは明らかだと思います。

地球の年齢については様々な説があり、クリスチャンが地球を「古い」と信じるのも「若い」と信じるのも許容範囲です。アブラハムの生涯を紀元前2000年頃とすることができ、それからアダムとエバは彼の生涯から数千年以内にいたと考えるのが妥当でしょう。聖書の記述によれば、地球は1万年から2万年しか経っていない可能性が高いのです。

### 3番目の質問

アダムとエバは最初の人間でしょうか？

### 回答

聖書には、アダムとエバが架空の存在であるとか、私たちの子孫である文字通りの最初の人間でないなどと書かれている箇所はないのです。マルコ10:6で、イエスは人間が「創造の初めから」男と女に造られたとも言っています。ですから、最初の二人の人間（イエスが参照されている創世記1章によればアダムとエバです）は、創造の始まりから何十億年も後に創られたのではなく、本当に創造の始まりと同時に創られたのです。

さらに、イエスが新しいアダムであり、神の民である教会の契約の頭であるという役割は、アダムが最初の人間であり、全人類の頭であることに基づいています。(ルカ 3:23-38; ローマ 5:12-21; 1コリント 15:21-22, 47-49.)。

最初の人間がアダムとエバでなければなりません。なぜなら、もしそうでなければ、新約聖書は間違っており、イエスの契約上の責任者としての役割は本物ではなく、したがって、私たちは彼への信仰を通して彼の救いの利益を受けることができないからです。

The word translated “day” in these passages is the same word and in Exodus 20 it is obviously talking about 24 hour days in a seven-day week because it is instructing the Israelites to rest on the seventh day of the week. However, there are also times when the same word for “day” is used figuratively to indicate a longer period of time. One notable example is Genesis 2:4. So what is the answer?

This is an issue to have charity with one another, but it seems to me that creation was accomplished in six literal 24-hour days. When the same word for “day” is used to indicate a longer period of time it seems plain in the context that the word has a different connotation.

As to the age of the earth there are various theories and it is acceptable for Christians to believe the earth is “old” or “young.” We can date the life of Abraham to about 2000 B.C. and then make a reasonable guess that Adam and Eve were within a few thousand years of his lifetime. According to the information we have in Scripture it is very possible the earth is only 10,000-20,000 years old.

### Question 3:

Were Adam and Eve the first humans?

### Answer:

There is no place in Scripture where Adam and Eve are described as being fictional or anything less than the literal first humans from whom we have all descended. In Mark 10:6 Jesus also says that humans were made male and female “from the beginning of creation.” So the first two humans (who were Adam and Eve according to Genesis 1 that Jesus is referencing) were not created billions of years after the beginning of creation, but indeed at the same time as the beginning of creation.

Further, Jesus’ role as the new Adam and covenant head of God’s people, the church, is based on Adam’s being the first human and the head of all humanity. (Luke 3:23-38; Romans 5:12-21; 1 Corinthians 15:21-22, 47-49.)

The first humans have to be Adam and Eve because if not then the New Testament is wrong and Jesus’ role as covenant head is not real and thus we do not receive the benefits of his salvation through faith in him.

#### 4番目の質問

天地創造はどのような文章なのでしょう？ 文字通りに受け取ればいいのでしょうか？

#### 回答

創世記の他の部分と同様に、天地創造の記述も歴史の物語です。創世記1:1-2:3は、神が6日間で万物を創造し、7日目に休まれた経過を時系列的に報告しているのです。聖書の他の部分とイエス自身は、創造の物語を文字通りに扱っており、それ以外のものであると考える理由はありません。

#### **イエスの受肉の素晴らしさ**

天地創造は奇跡である。神は何も持たずにすべてをお造りになりました。しかし、さらに大きな奇跡は、神が被造物としてご自身の被造物の中に入ってこられたことです。神は人間の肉を身につけられました。人となられたのです。このこと以上に、イエス・キリストは偉大なアダムであるため、サタンの誘惑を受けたときでさえも、決して罪を犯しませんでした。しかし、永遠の神の子であるイエス様が被造物の中に入ってこられた理由は、人々の罪のために死ぬためでした。アダムの罪の罰を受け、私たちを救うために来られたのです。イエス様は死ぬために来られたのです。

イエス様は死んで葬られた後、3日目によみがえられました。その復活の力によって、すべての民の心の中に新しい創造が始まりました。イエスは再臨のとき、すべてを新しくし、神の住まいが再び地上の人間とともにあるのです。

Question 4:

What kind of writing is the creation account? Is it supposed to be taken literally?

Answer:

Like the rest of Genesis the account of creation is a narrative of history. Genesis 1:1-2:3 is reporting, chronologically, the progress of God's creation of all things in six days and his resting on the seventh. The rest of Scripture and Jesus himself treats the narrative of creation literally and there is no reason to think it is anything else.

**The Wonder of the Incarnation**

Creation is a miracle. God made everything without anything. But an even greater miracle is that God came into his own creation as creation. God put on human flesh. He became a man! Even more than this Jesus Christ, being the greater Adam, never sinned, even when he was tempted by Satan. However, the reason Jesus, the eternal Son of God, came into his creation was to die for the sins of his people. He came to save us through undergoing the punishment for Adam's sin. Jesus came to die.

After Jesus died and was buried, he rose on the third day. By his resurrection power the new creation has begun in the hearts of all his people. Jesus will make all things new when he returns and the dwelling place of God will again be with man on the earth.

# ディスカッション

以下の質問について考え、グループで話し合う準備をしましょう。

6. 詩篇24:1-2を読んでください。これは、私たちが自分自身、他人、そして世界をどのように扱うかについて、どのようなことを暗示していますか？
7. エペソ1:4-6を読んでください。神様の創造とすべての世界史の目的は、神様がその栄光ある恵みをほめたたえられることです。このことは、あなたが家族、隣人、同僚にどのように接するかに影響を与えますか？
8. 世界は偶然でできたものではなく、神が目的をもって創造されたものである以上、私たちが苦しみにどう対応するかは何を意味するのでしょうか。
9. 神がすべてを創造したとき、それは非常に良かった。神様はご自分の仕事を喜ばれました。あなたの仕事や家庭で、「非常に良い」状態にするために、もっと努力しなければならないことは何ですか？
10. 万物の創造主である神は唯一であるという事実は、ノンクリスチャンとの会話にどのような影響を与えますか？

一緒に祈りの時間を持ってください。特に祈り課題のために祈ってください。

# Discussion

**Think about these questions and be prepared to discuss together with your group.**

1. Read Psalm 24:1-2. What does this imply for how we treat ourselves, others, and the world?
2. Read Ephesians 1:4-6. The point of God's creation and all world history is that he would be praised for his glorious grace. How does this effect how you treat your family, neighbors, coworkers?
3. Since the world is not a product of chance, but God's purposeful creation, what does this mean for how we respond to suffering?
4. When God created everything it was very good. He was pleased with his work. What is one thing at your job or at your home that you need to work more on for it to be "very good"?
5. How does the fact that there is only one God who is the creator of all things effect your conversations with non-Christians?

**Spend some time praying together. Pray specifically for the requests that were mentioned.**

## **第4章：神のかたち**

**1:26-2:25**

## **Chapter 4: The Image of God**

**1:26-2:25**

# 事前の勉強

創世記1:26～2:25vを読んで、次の質問を考えてみてください。

- ・ 神様が人を造った時、他の生き物と比べたらどう違うでしょう？
- ・ 神様はなぜ人を造ったでしょう？
- ・ 謙虚さと理解のために祈りましょう

## 学び

### 「かたち」と「似姿」の定義

人が神のかたちとして創造されたとはどういう意味でしょうか？ 神の似姿に造られたとは？ 「かたち」と「似姿」は同じものなのか、それとも違うものなのか。

このことは、キリスト教界において、昔も今も議論される分野であります。ですから、私たちは謙虚な姿勢でこのテーマに取り組むべきです。

では、この文脈から、神のかたちに造られたとは、生き物を支配することと関係があると結論づけることができます（26節、28節）。あるいは、生めて、増えて、地に満ちて、支配すること（28節）かもしれないと結論づける人もいるかもしれない。

聖書を解釈するための非常に重要なルールの一つに、「信仰の類似」と呼ばれるものがあります。これは、聖書の解釈を聖書に委ねるということです。聖書の他の明確な部分に、他の不明確な部分や難しい部分を解釈させるのです。この学習では、人間が神のかたちに造られたということの意味を十分に理解するために、このようなことを何度も行います。

神のかたちに造られたとはどういうことかを理解するために、「かたち」と「似姿」について述べている次の最も近い箇所を見ましょう。創世記5:1-3に書いてありますから、遠くへ行く必要はありません。

「<sup>1</sup> これはアダムの歴史の記録である。神は、人を創造したとき、神の似姿として人を造り、<sup>2</sup> 男と女に彼らを創造された。彼らが創造された日に、神は彼らを祝福して、彼らの名を「人」と呼ばれた。<sup>3</sup> アダムは百三十年生きて、彼の似姿として、彼のかたちに男の子を生んだ。彼はその子をセツと名づけた。」

この箇所では、似姿が二度出てきます。つまり、アダムが神に似せて造られたことと、アダムがセツを自分の似姿に似せて父にしたことです。また、セツはアダムに似せて造られたことがわかります。このことから、「かたち」と「似姿」は同義であると考えられます。息子は父親に似ている、あるいは父親の似姿であります。



# Pre-Study

Read Genesis 1:26-2:25 and think about these questions:

- Think of some ways that man was created differently from the other creatures that God created?
- Why did God create man?
- Pray for humility and understanding

## Study

### Definition of “image” and “likeness”

What does it mean for man to be created in the image of God? To be created after God’s likeness? Is “image” and “likeness” the same thing or are they different?

This has been and still is an area of debate and discussion within Christendom. Therefore, we should approach this topic with humility.

From the immediate context, one can conclude that perhaps being made in God’s image has to do with having dominion over the living creatures (v.26, 28). Or another might conclude that it may mean being fruitful, multiplying, subduing the earth, and having dominion (v. 28).

One very important rule for interpreting the Bible is called the analogy of faith. This is simply letting Scripture interpret Scripture. Letting other, clearer parts of the Bible interpret other unclear or difficult parts. We will be doing this a lot in this study to help us fully understand what it means for man to be made in the image of God.

Let’s look at the next closest passage that talks about image and likeness to see if that will help us with what it means to be made in God’s image. We don’t have to go far because it is mentioned in Genesis 5:1-3, where it says,

“<sup>1</sup> This is the book of the generations of Adam. When God created man, he made him in the likeness of God. <sup>2</sup> Male and female he created them, and he blessed them and named them Man when they were created. <sup>3</sup> When Adam had lived 130 years, he fathered a son in his own likeness, after his image, and named him Seth.”

In this passage, we see likeness mentioned twice. That is, Adam being made in the likeness of God and Adam fathering Seth in his likeness. We also see that Seth is after Adam’s image. From this, it seems that image and likeness are synonymous. A son is like their father or they are an image of their father.

これは、私たちが息子や娘を親に例えるとき、「ああ、あなたはお父さんの鼻を持っている」とか、「あなたはお母さんに似ているね」と言うようなものです。このように、神のかたち、神の似姿に造られるということはどういうことなのか、私たちに教えてくれています。

少しの他の例を見ましょう。

かたちのために：

民数記33章51-52節

51 「イスラエルの子らに告げよ。

あなたがたがヨルダン川を渡ってカナンへの地に入るときには、<sup>52</sup> その地の住民をことごとくあなたがたの前から追い払って、彼らの石像をすべて粉碎し、彼らの鑄像をすべて粉碎し、彼らの高さ所をすべて打ち壊さなければならない。

サムエル記第一6章5節

<sup>5</sup> あなたがたの腫物の像、つまり、この地を破滅させようとしているねずみの像を造り、それらをイスラエルの神に貢ぎとして献げなさい。もしかしたら神は、あなたがたと、あなたがたの神々、そしてあなたがたの地の上にのしかかっている、その手を軽くされるかもしれません。

似姿のために：

エゼキエル書1章5節

<sup>5</sup> その中に生きもののようなものが四つ現れ、その姿は次のようであった。彼らは人間のような姿をしていたが、

これらの例から（他にもあるが）、かたちと似姿とは、何かが実際の物や人となよう、似ている、表している、または見たいが同一ではない場合を指します。

さらに、古代近東では、王が土地や人々を征服したとき、その土地が自分のものであり、自分の支配と統治の下にあることを示すために、自分の像やイメージ [かたち] を設置しました。

その例として、ネブカドネツアル王が自分のかたちとして金の像を造り、皆にひれ伏すようにと呼びかけたことが挙げられる。

ダニエル記3章1-2、4-5節

ネブカドネツアル王は金の像を造った。その高さは六十キュビト、その幅は六キュビトであった。彼はこれをバビロン州のドラの平野に建てた。<sup>2</sup> そして、ネブカドネツアル王は人を遣わして、太守、長官、総督、参議官、財務官、司法官、保安官、および諸州のすべての高官を召集し、ネブカドネツアル王が建てた像の奉獻式に出席させることにした。。。<sup>4</sup> 伝令官は力強く叫んだ。「諸民族、諸国民、諸言語の者たちよ。あなたがたはこう命じられている。<sup>5</sup> あなたがたが角笛、二管の笛、豎琴、三角琴、ハーブ、風笛、および、もろもろの楽器の音を聞いたときは、ひれ伏して、ネブカドネツアル王が建てた金の像を拝め。

This is like when we compare a son or daughter to their parents, we might say, "oh, you have your father's nose or you are kind like your mother."  
So this helps us give us an idea of what it means to be made in God's image and after his likeness.

Let's look at a few other examples.

For image:

Numbers 33:51-52

<sup>51</sup> "Speak to the people of Israel and say to them, When you pass over the Jordan into the land of Canaan, <sup>52</sup> then you shall drive out all the inhabitants of the land from before you and destroy all their figured stones and destroy all their metal images and demolish all their high places.

1 Samuel 6:5

<sup>5</sup> So you must make images of your tumors and images of your mice that ravage the land, and give glory to the God of Israel. Perhaps he will lighten his hand from off you and your gods and your land.

For likeness:

Ezekiel 1:5

And from the midst of it came the likeness of four living creatures. And this was their appearance: they had a human likeness

From these examples (and there are more), image and likeness is when something is similar to, resembles, represents, or is like, but not identical to, the actual thing or person.

Furthermore, in the ancient near east, when a king conquered a land or people, they would set up a statue or image of themselves, showing that the land belonged to them and is under their rule and reign.

We see an example of this, when King Nebuchadnezzar sets up a golden image after himself and calls everyone to bow down to it.

Daniel 3:1-2, 4-5

King Nebuchadnezzar made an image of gold, whose height was sixty cubits and its breadth sixty cubits. He set it up on the plain of Dura, in the province of Babylon. 2 Then King Nebuchadnezzar sent to gather the satraps, the prefects, and the governors, the counselors, the treasurers, the justices, the magistrates, and all the officials of the provinces to come to the dedication of the image that King Nebuchadnezzar had set up...4 And the herald proclaimed aloud, "You are commanded, O peoples, nations, and languages, 5 that when you hear the sound of the horn, pipe, lyre, trigon, harp, bagpipe, and every kind of music, you are to fall down and worship the golden image that King Nebuchadnezzar has set up

また、このような例は、イエスがパリサイ人たちに「カイサルのものはカイサルに与えなさい」と言ったときに見られます。

マタイの福音書22章19-21節はこう書かれています。

19 税として納めるお金を見せなさい。」そこで彼らはデナリ銀貨をイエスのもとに持って来た。20 イエスは彼らに言われた。「これはだれの肖像と銘ですか。」21 彼らは「カエサルのです」と言った。そのときイエスは言われた。「それなら、カエサルのものはカエサルに、神のものは神に返しなさい。」

イエスが言われたのは、デナリにカイサルの刻印があり、カイサルのものであるように、私たちが神のものを神に捧げなければならない、ということです。

**墮落の後、人間は完全に神のかたちや似姿を失ってしまったのでしょうか？**

さらに掘り下げて定義を捧げる前に、神の似姿であることの一つの側面について言及する必要があります。罪がこの世に入り込んだ墮落の後、人間はそのかたちを完全に失ったのでしょうか？

この次の二つの箇所を見ましょう。創世記9章6節はこうあります。

6 人の血を流す者は、  
人によって血を流される。  
神は人を神のかたちとして  
造ったからである。

そして、人の舌に関して話してる時に、ヤコブ3章9節はこう言っています。

9 私たちは、舌で、主であり父である方をほめたたえ、同じ舌で、神の似姿に造られた人間を呪います。

この2つの箇所から、人間は完全に神のかたちを失ったのではないと結論づけることができます。では、これは何を意味するのでしょうか。つまり、神がご自分に似せて人間をお造りになったという事実の中に、人間の中に生来の尊厳と価値があるのです。罪の影響によって、人間の命の価値が変わることはなかったのです。すべての人は神に似せて造られたので、固有の価値と尊厳を持っているのです。(これは、神に似せて造られなかったために食物として食べられるようになった動物とは異なる)。

さて、神のかたちの簡単で役に立つ定義として、ウェイン・グルーデムがその『系統的神学』の中で述べているものがあります。

「定義：人間が神に似せて造られたということは、人間が神に似ていて、神を表すということである。」

言い換えれば、人間は、子供が親にするように、神をイメージし、似せ、反映し、倣い、代表するように創造されたのです。

We see another example like this, when Jesus talks to the Pharisees about giving to Caesar what is Caesar's.

Matthew 22:19-21 says,  
19 Show me the coin for the tax." And they brought him a denarius. 20 And Jesus said to them, "Whose likeness and inscription is this?" 21 They said, "Caesar's." Then he said to them, "Therefore render to Caesar the things that are Caesar's, and to God the things that are God's."

What Jesus was saying is just as the coin had Caesar's imprint on it and belongs to him, so we must give to God what belongs to Him, which is all of creation, including man because God is the creator of everything and thus, owns everything.

### **Did man completely lose the image of God and likeness after the Fall?**

Before we dig in further and give a definition, there is one aspect of being in the image of God that needs to be mentioned. Did man lose his image completely after the Fall, when sin entered the world?

Let's look at these two passages. Genesis 9:6 says  
6 "Whoever sheds the blood of man, by man shall his blood be shed, for God made man in his own image.

When talking about the tongue, James 3:9 says  
9 With it we bless our Lord and Father, and with it we curse people who are made in the likeness of God.

From these two passages, we can conclude that man did not completely lose the image of God. So what does this mean? This means that there is in man an innate dignity and value in the fact that God made man in his image. The effect of sin did not change the value of human life. All persons are made in the image of God and thus, have inherent worth and dignity. (This is different from animals, who were not created in the image of God and thus, are able to be eaten as food.)

Now for a simple and helpful definition of the image of God, Wayne Grudem in his Systematic Theology gives us one.

**"Definition: The fact that man is in the image of God means that man is like God and represents God."**

In other words, man was created to image, to be like, to reflect, to resemble, to represent God, just as a child does their parents.

これは何を意味するのでしょうか。神のようになり、神を正確に神のかたちとなるということは、神が誰であり、どのような方であるかを知らなければならないということです。神をイメージするということは、神の子どもになることです。

もし私たちが神を知らなければ、神を完全にイメージすることはできません。なぜなら、神はすべての聖書の著者であり（第二テモテ3: 16）、御言葉を通して、また究極的には御子イエス・キリストを通して御自分を現されるからです（ヘブル人への手紙1: 1-2）。

**では、墮落と罪は、神に似せて造られた私たちにどのような影響を与えたのでしょうか？**

しかし、私たちの罪のゆえに、生まれながらにして御怒りを受けるべきの子ら、不従順の子ら、そして靈的に死んだ者です（エペソ人2: 2-3）。では、本当に神の子どもとなるために、そして神が意図した神のかたちとなるために、私たちは新しい心、変容を必要とし、神の子どもとして養子になる必要があるのです。

これは、悔い改めとイエスへの信仰によってのみ可能です。私たちが神に対して罪を犯し、神の完全な似姿になるまでには至らなかったという事実を悔い改めること。しかし、罪を犯さず、目に見えない神の完全な表現であり、似姿であるイエス様を信じることです。

### **神の完全なかたちであるイエス**

コロサイ人1章15節

**15** 御子は、見えない神のかたちであり、すべての造られたものより先に生まれた方です。

コリント人への手紙第二4章4節

**4** 彼らの場合は、この世の神が、信じない者たちの思いを暗くし、神のかたちであるキリストの栄光に関わる福音の光を、輝かせないようにしているのです。

### **聖霊によって神の完全な姿であるイエスに適合しているクリスチャンたち**

イエス様への信仰によって、私たちの古いものはイエス様と共に死に、私たちはイエス様と共に新しく造られたものとしてよみがえるのです（第二コリント人への手紙5: 17）。私たちは新しく生まれたのです。私たちは神の子として採用され、キリストと同じ相続人となります（ローマ人への手紙8: 16-17）。神は、私たちの姿を神のように回復させ、それが達成されるように聖霊を与えてくださったのです。これが聖化です。イエスのようになり、神が意図されたとおりの神の似姿にされることです。

このことを見るために、多くの箇所を見てみましょう。

エペソ人への手紙4章23-24節

**23** また、あなたがたが霊と心において新しくされ続け、**24** 真理に基づく義と聖をもって、神にかたどり造られた新しい人を着ることでした。

What does this imply? To be like God and image Him accurately means that we have to know who God is and what He is like. To image God is to be like His child.

If we don't know God, we can't image Him fully. This is why we need to read all of Scripture to know God because God is the divine author of all of it (2 Timothy 3:16) and reveals himself through His Word and ultimately, through his Son, Jesus Christ (Hebrews 1:1-2).

### **So how did the Fall and sin affect us being in the image of God?**

However, because of our sin, we are by nature, children of wrath, sons of disobedience, and spiritually dead (Ephesian 2:2-3). To truly be God's children then, and to be His image that He intended us to be, we need a new heart, a transformation, and we need to be adopted as God's child.

This is only possible through repentance and faith in Jesus! Repenting of the fact that we have sinned against God and have not lived up to being the perfect image of God. But having faith in Jesus, who never sinned and is the perfect representation and image of the invisible God!

### **Jesus, the perfect image of God**

Colossians 1:15

<sup>15</sup> He is the image of the invisible God, the firstborn of all creation.

2 Corinthians 4:4

<sup>4</sup> In their case the god of this world has blinded the minds of the unbelievers, to keep them from seeing the light of the gospel of the glory of Christ, who is the image of God.

### **Christians as conforming to Jesus, the perfect image of God through the Spirit**

Through faith in Jesus, our old self is put to death with Jesus and we rise with Jesus as new creations (2 Corinthians 5:17). We are born again. We are adopted as God's children and become fellow heirs with Christ (Romans 8:16-17). God restores our image to be like Him and gives us the Holy Spirit so that this is accomplished! This is what sanctification is. Becoming more like Jesus and being made into the image of God the way He intended us to be.

Let's look at many passages to see this.

Ephesians 4:23-24

“<sup>23</sup> and to be renewed in the spirit of your minds, <sup>24</sup> and to put on the new self, created after the likeness of God in true righteousness and holiness.”

### コロサイ人への手紙3章10節

**10** 新しい人を着たのです。新しい人は、それを造られた方のかたちにしたがって新しくされ続け、真の知識に至ります。

### エペソ人への手紙5章1節

**1** ですから、愛されている子どもらしく、神に倣う者となりなさい。

### ペテロの手紙第一1章15-16節

**15** むしろ、あなたがたを召された聖なる方に倣い、あなたがた自身、生活のすべてにおいて聖なる者となりなさい。 **16** 「あなたがたは聖なる者でなければならない。わたしが聖だからである」と書いてあるからです。

### コリント人への手紙第二3章14-18節

**14** しかし、イスラエルの子らの理解は鈍くなりました。今日に至るまで、古い契約が朗読されるときには、同じ覆いが掛けられたままで、取りのけられていません。それはキリストによって取り除かれるものだからです。 **15** 確かに今日まで、モーセの書が朗読されるときはいつでも、彼らの心には覆いが掛かっています。 **16** しかし、人が主に立ち返るなら、いつでもその覆いは除かれます。 **17** 主は御霊です。そして、主の御霊がおられるところには自由があります。 **18** 私たちはみな、覆いを取り除かれた顔に、鏡のように主の栄光を映しつつ、栄光から栄光へと、主と同じかたちに変えられていきます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。

神の姿に造られる過程はすでに始まっていますが、イエスが再臨し、私たちが栄光の体を受け取るまで、その過程は完了しません。

### ヨハネの手紙第一3章1-2節

**1** 私たちが神の子どもと呼ばれるために、御父がどんなにすばらしい愛を与えてくださったかを、考えなさい。事実、私たちは神の子どもです。世が私たちを知らないのは、御父を知らないからです。 **2** 愛する者たち、私たちは今すでに神の子どもです。やがてどのようになるのか、まだ明らかにされていません。しかし、私たちは、キリストが現れたときに、キリストに似た者になることは知っています。キリストをありのままに見るからです。

### コリント人への手紙第一15章49節

**49** 私たちは、土で造られた人のかたちを持っていたように、天に属する方のかたちも持つことになるのです。

### ピリピ人への手紙3章20-21節

**20** しかし、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、私たちは待ち望んでいます。 **21** キリストは、万物をご自分に従わせることさえできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自分の栄光に輝くからだと同じ姿に変えてくださいます。



Colossians 3:10

“<sup>10</sup> and have put on the new self, which is being renewed in knowledge after the image of its creator.”

Ephesian 5:1

“Therefore be imitators of God, as beloved children.

1 Peter 1:15-16

“but as he who called you is holy, you also be holy in all your conduct, <sup>16</sup> since it is written, “You shall be holy, for I am holy.”

2 Corinthians 3:14-18

<sup>14</sup> But their minds were hardened. For to this day, when they read the old covenant, that same veil remains unlifted, because only through Christ is it taken away. <sup>15</sup> Yes, to this day whenever Moses is read a veil lies over their hearts. <sup>16</sup> But when one turns to the Lord, the veil is removed. <sup>17</sup> Now the Lord is the Spirit, and where the Spirit of the Lord is, there is freedom. <sup>18</sup> And we all, with unveiled face, beholding the glory of the Lord, are being transformed into the same image from one degree of glory to another. For this comes from the Lord who is the Spirit.

Although the process of being made into God’s image has already begun, it won’t be complete until Jesus returns and we receive our glorified bodies.

1 John 3:1-2

<sup>1</sup> See what kind of love the Father has given to us, that we should be called children of God; and so we are. The reason why the world does not know us is that it did not know him. <sup>2</sup> Beloved, we are God’s children now, and what we will be has not yet appeared; but we know that when he appears we shall be like him, because we shall see him as he is.

1 Corinthians 15:49

<sup>49</sup> Just as we have borne the image of the man of dust, we shall also bear the image of the man of heaven.

Philippians 3:20-21

<sup>20</sup> But our citizenship is in heaven, and from it we await a Savior, the Lord Jesus Christ, <sup>21</sup> who will transform our lowly body to be like his glorious body, by the power that enables him even to subject all things to himself.

## まとめ

私たちが神様をイメージする方法には、この研究で語られなかった、私たちの精神的な推論能力、言語によるコミュニケーション能力、私たちが霊的な存在であることなど、さまざまなものがあります。

しかし、神様が人間に意図されたかたちの担い手とは、神様の子供として、神様を反映し、似せ、表すような生き方、行動をすることであり、それには、愛、義、聖、忠実など、神様に栄光を帰すような歩みが含まれると思われます。イエスはそのことを完璧に実行されました。そして私たちはイエスのように、神のかたちの担い手として、神がどれほど偉大であるかを世界に示す特権を得ているのです。そして、これこそが、神が設計し、意図されたとおりに真に人間になるということなのです。

### エペソ人への手紙1章3-5節

<sup>3</sup> 私たちの主イエス・キリストの父である神がほめたたえられますように。神はキリストにあって、天上にあるすべての霊的祝福をもって私たちを祝福してくださいました。<sup>4</sup> すなわち神は、世界の基が据えられる前から、この方にあって私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとされたのです。<sup>5</sup> 神は、みこころの良しとするところにしたがって、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ決めておられました。

## **Conclusion**

There are many ways we can image God that was not said in this study, such as our mental reasoning capabilities or our ability to communicate through language or us being spiritual beings.

However, it seems that what God intended for man to be His image bearers means to live and act in such a way as His children that reflects, resembles, and represents God, which includes walking in love, righteousness, holiness, and faithfulness, to name a few, to give God glory. We see that Jesus perfectly did just that and we get the privilege to show the world, like Jesus, how great God is as His image bearers. And this is what it means to truly be humans as God designed and intended it.

Ephesians 1:3-5

<sup>3</sup> Blessed be the God and Father of our Lord Jesus Christ, who has blessed us in Christ with every spiritual blessing in the heavenly places, <sup>4</sup> even as he chose us in him before the foundation of the world, that we should be holy and blameless before him. In love <sup>5</sup> he predestined us for adoption to himself as sons through Jesus Christ, according to the purpose of his will,

# ディスカッション

以下の質問について考え、グループで話し合う準備をしましょう。

6. 私たちが神をイメージしたり、神をよりよく表現したりする前に、神がどのような方であるかを知る必要があります。神様をより良くイメージするために、神様をもっと知るために、あなたの人生で変えられることは何ですか？
7. このような視点を持つことで、神様や自分自身、あるいは他の人に対する見方がどのように変わりますか？
8. 家族、友人、同僚に対して、あなたが神様をよりよく表すことができる実用的な方法を一つ考えてみてください。
9. 神様に似せて作られたということは、悪や罪に加担しないということの意味します。この文化では、神の似姿として神を表現するために、悪や罪を避ける方法がありますか？
10. 日本人がクリスチャンにならない言い訳として、「日本人だから」というのがよく言われます。神のかたちに造られたということは、それにどう反論するのでしょうか？

一緒に祈りの時間を持ってください。特に祈り課題のために祈ってください。

# Discussion

**Think about these questions and be prepared to discuss together with your group.**

1. Before we can image God or represent Him better, we need to know who God is. What is one thing you can change in your life so that you can know God more to image Him better?
2. How does having this perspective, if this was new to you, change how you view, God, yourself, or others?
3. Think of one practical way you can represent God better to your family, friends, or coworkers.
4. Being made in God's image and his likeness implies to not partake in evil or sin. Are there ways in this culture to abstain from evil or sin to represent God as His image?
5. A common excuse for Japanese people to not become Christian is, "Because I'm Japanese." How does being made in God's image refute that?

**Spend some time praying together. Pray specifically for the requests that were mentioned.**

**第5章：地球を支配する  
1:26-28**

**Chapter 5: Rule the Earth  
1:26-28**

# 事前の勉強

創世記1:26-28と詩篇8を読んで、次の質問を考えてみてください。

- 世の中で人間の役割はなんですか？
- この役割をどうやってできますか？
- 神様が私たちを栄光と誉れの冠でかぶらせてくださったことを祈りで感謝して、そして、この地球を神の御心に従って支配するように助けを求めましょう。

## 学び

### 神から与えられた人間の役割

創世記1:26-28で、神は天地創造の6日目に最初の人間を創造されました。神は彼らをご自身のかたちとして、男と女の両方で創造された。創造された直後、神は彼らを祝福し、他のすべての被造物の中で、地上での彼らの役割が何であるかを告げられた。支配し、増やし、従わせることです。

### 支配

まず、地球を支配することについてです。1:28では、ESVでは「支配せよ」という表現が使われています。支配権を持つというのは、王がすることです。王が支配し、権威を持つ領域があります。神様は、人間に全地球を支配する権威をお与えになった。地上にいる動物、空にいる鳥、海にいる魚すべてに対する権威を人間に与えたのです。

神様は万物の支配者です。これは、神が万物の創造者であるからです（イザヤ 37:16、使徒 4:24）。神はご自身のかたちとして人間を造られた時、私たちが地球の支配者とされました。私たちは究極の支配者ではないが、神の支配のもとで地球を支配するために造られたのです。

この神の王権下にある王と女王という概念は、聖書の中で神の民に一貫して流れているテーマです（創世記14章ではアブラムが王として描かれ、出エジプト記19章1-6ではイスラエルの国全体が祭司の王国とされています。マタイ5:3-10では、イエスがクリスチャンは天の国に入って地を受け継ぐので祝福されると語っています。また、黙示録1:6、5:10、20:6では、キリストを通して教会は永遠に地上を支配する祭司の国であると語っています。）

人類は地球上で自分自身の支配を行うのではなく、地球上で神のかたちとして造られたものとして、また神の命令を受けて、全地球を神の支配下に置くことを目的としているのです。つまり、私たちの支配の仕方は、神のみことばに従わなければならないのです。詩篇72篇には、ダビデの子孫がこのように支配することへの希望が記されている。

# Pre-Study

Read Genesis 1:26-28 and Psalm 8 and think about these questions:

- What is humanity's role on earth?
- How do we do that?
- Pray and thank God for the way he cares for us and has crowned us with glory and honor. Ask for his help to rule the earth according to his will.

## Study

### God's job for humans

In Genesis 1:26-28 God creates the first humans on the sixth day of creation. He made them in his image, both male and female. Immediately after creating them God blessed them and gave told them what their role is on the earth amongst all the other creatures. There are three parts of the job God gave to humans: rule, multiply, subdue.

#### Rule

First, let's talk about ruling the earth. In 1:28 the wording used in the ESV is "have dominion." Having dominion is something a king does. There is an area that the king rules over and has authority over. God gave humans authority over the whole earth. He gave humans authority over all the animals on the earth, in the sky, and in the sea.

God is the ruler of all things. This is true because God is the creator of all things (Isaiah 37:16; Acts 4:24). When he made humans in his image he made us to be rulers of the earth. We are not the ultimate ruler, but we were created to rule the earth under God's rule.

This concept of being kings and queens under the kingship of God is a theme that runs all through scripture for God's people (see Genesis 14 where Abram is depicted as a king; also Exodus 19:1-6 where all the nation of Israel is to be a kingdom of priests; Matthew 5:3-10 where Jesus tells Christians they are blessed because they will enter the kingdom of heaven and inherit the earth; Revelation 1:6, 5:10, and 20:6 that says through Christ the church is a kingdom of priests that reigns on the earth forever.)

Humanity is not supposed to exert its own rule on the earth, but as God's created images on earth, and commissioned by God we are meant to bring the whole earth under God's dominion. This means the way we rule should be in accord with God's Word. Psalm 72 describes the hope for the descendent of David to rule in this way.



## 詩篇72:1-4

ソロモンのために。

**1** 神よ あなたのさばきを王に

あなたの義を王の子に与えてください。**2** 彼が義をもって あなたの民をさばきますように。

公正をもって あなたの苦しむ民を。**3** 山も丘も 義によって

民に平和をもたらしますように。**4** 王が 民の苦しむ者たちを弁護し  
貧しい者の子らを救い  
虐げる者どもを打ち砕きますように。

創世記2:15で、神はアダムにエデンの園を「守る」ように命じられたのです。アダムは妻のかしらとして、侵入者（蛇など）から園を守る任務を特に与えられていた。しかし、残念なことに、この任務はアダムが失敗し、彼の子孫に甚大な影響を与えた。

ですから、人間として、私たちは神の支配に従って地球を、そのすべてを支配することになっているのです。私たちは、すべての場所、生き物、人、物を神の支配下に置くことを目的としています。このことは、私たちの日常生活の目的に深い意味を与えている。洗濯物をたたむとき、あなたは単に雑用をこなしているのではなく、地球を支配しているのです。あなたが仕事に行くとき、あなたは単に給料をもらうために会社のためにあることをやっているのではない。あなたは（もしあなたの仕事が売春や麻薬取引など本質的に罪深いものでなければ）神の栄光のために地上を支配しているのです。あなたは、「海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物」を支配しているのです。

### 増えること

次は「増えること」です。1:28の神の祝福は、「生めよ。増えよ。地に満ちよ。」で始まる。神がこの命令を下したとき、地球上には二人の人間しかいなかった。アダムとエバです。2:15-25には、神による男と女の創造についてのより詳細な記述がある。この箇所は、男女が互いに相補し合う関係であることを示す美しい箇所であり、最初の結婚の儀式でもある（2:24-25では、もはや男と女ではなく、男とその妻になっている）。

地球を効果的に従わせる、支配するためには、二人以上の人間が必要です。神はアダムとエバに子供を産ませ、その子供が子供を産み、その子供がまた子供を産むことで、地上が神のかたちで造られたもので満たされ、神が人間に与えた仕事、つまり地上を従わせ、支配する仕事をするようにと望まれた。

Psalm 72:1-4

Of Solomon.

- [1] Give the king your justice, O God,  
and your righteousness to the royal son!
- [2] May he judge your people with righteousness,  
and your poor with justice!
- [3] Let the mountains bear prosperity for the people,  
and the hills, in righteousness!
- [4] May he defend the cause of the poor of the people,  
give deliverance to the children of the needy,  
and crush the oppressor!

One way we see Adam being instructed to carry out this kingly task is in Genesis 2:15 when God tells him to “keep” (guard) the Garden of Eden. Adam, as the head of his wife, was specifically given the task of guarding the garden from intruders (i.e. snakes). This is, unfortunately, a task that Adam failed with disastrous effects for all his posterity.

So, as humans, we are meant to rule the earth, all of it, according to God’s rule. We are meant to bring all places and creatures and people and things under the dominion of God. This gives profound meaning to the purpose of our everyday lives. When you fold laundry you are not simply doing a chore, you are ruling the earth. When you go to work you are not simply getting some things done for a company so that you can get paid. No! You are (if your work is not inherently sinful, i.e. prostitution, drug dealing, etc.) ruling the earth to the glory of God. You are having dominion “over the fish of the sea and over the birds of the heavens and over every living thing that moves on the earth.”

### Multiply

Next is multiplying. God’s blessing in 1:28 begins, “Be fruitful and multiply and fill the earth....” When God gave this command there were only two humans on the earth: Adam and Eve. In 2:15-25 there is a more detailed account of God’s creation of the man and woman. This is a beautiful passage that shows the complementary relationship that men and women have to one another as well as being the first marriage ceremony (by 2:24-25 they are no longer a man and a woman, but a man and his wife).

In order to effectively subdue the earth and have dominion over it there needs to be more than just two people. God wanted Adam and Eve to have children and for those children to have children and those children to have children so that the earth is filled up with images of God all doing the task that God gave humans to do; namely subduing and ruling the earth.

結婚して子供を持つことは、単に好きだからすることではない。それは、神の支配の下に地上を治めるための努力の一部なのです。このことは、私たちが結婚や家族、特に子どもについてどのように考えるかについて、深い意味を与えています。

子どもは、成長して役に立つようになるまで相手にしておく、迷惑な存在ではない。子どもは弾薬だ！弾薬？そうです。詩篇127:3-5は、子どもたちを戦士の矢筒の矢に例えている。子供を産み、「主の教育と訓戒」（エペソ6: 4）を受けて育てることは、私たちが人間としての仕事を遂行する方法の一つなのです。

### 最後は従わせる事

1:28で、神はアダムとエバに「地を従えよ」と言われました。民数記32:22と32:29には、イスラエルの民がカナンの地をどのように征服するかが書かれている（ヘブル語は創世記1:28の「従え」と同じ）。これは、彼らがその土地を自分たちの目的のために役立つようにすることを意味している。

人間として、私たちは全地を征服するべきです。つまり、科学的な調査や研究、技術開発は、神にとって良いことであり、クリスチャンとして行うべきことなのです。地球は、そのすべてが私たちの権威の下にあり、地球における神の目的を実現するために地球を征服するよう、神から指示されているのです。

### **墮落が地球支配に及ぼした影響**

もちろん、これには問題があります。罪への墮落以来、地球は呪われ、私たちは存在し始めた瞬間から霊的に墮落している（詩篇51:5; 58:3-5）。創世記3:16-19で、神は罪に対する罰を与えているが、それは1:28の命令に従うことを非常に難しくしている。実際、私たちのすべての仕事は非常に困難であり、努力の実りは挫折によって特徴付けられるのです。

墮落は男と女に、地球を支配する役割に特有な影響を及ぼした。女にとって出産の苦しみは倍加し、夫との関係は、それぞれの役割に応じた自己犠牲的な互いに従うこと（エペソ5: 21-33）ではなく、それぞれの配偶者が相手に対して支配力をさせようとすることを特徴とするようになった。

男に対して、神は地面を呪い、苦痛を与えて食物を得るようにされた。私たちは苦勞して、果実の代わりに茨を得る。日々の糧さえも、汗を流して手に入れるのです。そして、これが私たちが死ぬまでの人生の道程です。そういえば、今、人間は死ぬ。

Getting married and having children is not simply something people do because they love each other. It is part of furthering the efforts to rule the earth under God's rule. This has profound implications for how we think about marriage, family, and especially children.

Children are not annoying things to deal with until they can grow up and be useful. Children are ammunition! Ammunition? Yes. Psalm 127:3-5 compares children to arrows in a warrior's quiver. Having children and bringing them up in "the discipline and instruction of the Lord" (Ephesians 6:4) is one of the ways that we carry out our job as humans.

### Last, Subdue

In 1:28 God told Adam and Eve to subdue the earth. In Numbers 32:22 and 32:29 describes how the Israelites are to subdue the land of Canaan. This implies they would make the land useful to them for their purposes.

As humans we are supposed to subdue the whole earth. This means scientific research and study and technological development are good, godly, Christian things to do. The earth, all of it is under our authority and we are instructed by God to subdue it for bringing about God's purposes on the earth.

### **How the fall has affected our ruling of the earth**

There is a problem of course, with all of this. Since the fall into sin the earth has been cursed and we are spiritually corrupt from the moment we begin to exist (Psalm 51:5; 58:3-5). In Genesis 3:16-19 God gives out punishments for sin that make obeying his command in 1:28 very difficult. In fact, all of our work is very difficult and the fruitfulness of our efforts is characterized by frustration.

The Fall affected the man and woman in ways peculiar to their role in ruling the earth. To the woman pain in childbearing has been multiplied and her relationship with her husband is not characterized by selfless mutual submission according to their roles (Ephesians 5:21-33) but by each spouse trying to exert dominance over the other.

To the man God curses the ground so that food is gotten through pain. We toil and get thorns instead of fruit. Even our daily bread is gotten through sweat. And this is the course of our life until we die. Speaking of which, now humans die.

また、新約聖書では、エペソ4:24とコロサイ3:10で、私たちの道徳が墮落し、愛によってではなく、罪によって支配し、服従していることを理解している。私たちは、墮落以前に持っていた本来の知識、義、聖を失ってしまったのです。さて、私たちがよく知っているように、人間が地上を支配し服従させるために費やす努力の多くは、悪い理由と悪い効果のために行われている。

**私たちの役割は、キリストによってどのように回復されたのでしょうか？**

イエスがこの地上に来られたのは、アダムができなかったことをすることによって、新しい創造を始めるためでした（2コリント5：14-21、コロサイ1：15-20、ヨハネの黙示録1：5-6）。イエスは神でありながらの人として、サタン誘惑に負けることなく（ルカ4:1-13）、むしろ積極的に神の支配を地上にもたらし始めた（ルカ4:43; 16:16; またイザヤ書9:1-7とマタイ4:1-17）。その完全な生涯、十字架上の死、復活、昇天を通してサタンを縛り（マタイ12：22-32、黙示録20：1-3と5：9-10）、今、教会の伝道活動を通して、地球全体のあらゆる民族の人間が福音を聞いて信じるに聖霊による再生を通して神の姿に造り変えられます（ヨハネ3：3-5、エペソ1:13-14、テトス3：3-7、第一ペテロ1：3-5）。

キリストにあって、私たちは墮落によって失われた知識と義と聖さを回復し始め（エペソ4:24、コロサイ3:10）、神の姿に作り変えられて、キリストの支配のもとに神の心に従って地上を支配し始めることができます（エペソ1:15-23）。

**地球の未来と、その上での私たちの役割とは？**

キリストが来られてから、キリストの王国は成長し、地球全体に広がっている。イエス様は、このようなことが起こると言われた。イエス様は、御国を、最初はとても小さいけれども大きな木になるからし種にたとえられた（マタイ13:31-32）。また、御国を、生地に作用する澱にたとえられた（マタイ13:33）。イエス様の王国、天の御国は、水が海を覆うように、地が主の知識に満ち溢れるまで成長し続ける（イザヤ11:9）。

イエス様の働きによって、新しい創造はすでに人々の心の中で始まっている。それは広がり、成長し、全地上に満ちていく。そしていつの日か、イエス様が戻って来て、その新しい創造を完成させ、すべてのものを新しくしてくださる（ローマ8:18-23）。

イエスが戻って来て、すべてのものを新しくしたら、私たちは何をするのでしょか？ 神は私たちと共に地上に住まわれるので（すごいと思わない？） 、 私たちは確かに神を礼拝するでしょう（黙示録5：21:1-5）。また、神が本来意図されたように、私たちが地球の支配者として働き続けるようです（マタイ25:14-30）。聖霊の満たしを受けて（ローマ8：23）、私たちは完全な聖さと知識と義と栄光と力と永遠性をもって地上を支配するでしょう（1コリント15：42-44; エペソ4：24; コロサイ3：10）。

Also, in the New Testament, in Ephesians 4:24 and Colossians 3:10 we understand that our morality is fallen and we do not rule and subdue in love, but in sin. We lost the original knowledge, righteousness, and holiness we had before the Fall. Now, as we all well know, so much of the efforts that humans spend in ruling and subduing the earth are done for evil reasons and to evil effects.

### **How is our role restored in Christ?**

When Jesus came to the earth he was coming to begin a new creation through doing what Adam failed to do (2 Corinthians 5:14-21; Colossians 1:15-20; Revelation 1:5-6). Jesus, as the God-man, did not fall to the temptation of Satan (Luke 4:1-13), but rather began to bring the rule of God on earth in an aggressive way (Luke 4:43; 16:16; also Isaiah 9:1-7 with Matthew 4:1-17). Through his perfect life, death on the cross, resurrection, and ascension, he bound Satan (Matthew 12:22-32 and Revelation 20:1-3 with 5:9-10) so that now, through the evangelistic efforts of the church, humans from all peoples throughout the whole earth can be remade in the image of God through the regeneration of the Holy Spirit (John 3:3-5; Titus 3:3-7; 1 Peter 1:3-5) when they hear the gospel and believe it (Ephesians 1:13-14).

In Christ, we begin to have the knowledge, righteousness, and holiness that was lost in the Fall restored to us (Ephesians 4:24; Colossians 3:10) so that, being remade into the image of God we can begin to rule the earth according to God's will under the rule of Christ (Ephesians 1:15-23).

### **What is the future of the earth and our role on it?**

Since Christ came, his kingdom has been growing and spreading throughout the earth. Jesus said this would happen. He compared the kingdom to a mustard seed that starts very small but produces a large tree (Matthew 13:31-32). He compared the kingdom to leaven that works through dough (Matthew 13:33). Jesus' kingdom, the kingdom of heaven will continue to grow until the earth is full of the knowledge of the Lord as the waters cover the sea (Isaiah 11:9).

Through Jesus' work, the new creation has already begun in the hearts of his people. It is spreading and growing and it will fill the whole earth. And one day he will come back and complete his new creation and make all things new (Romans 8:18-23).

What will we be doing when Jesus comes back and makes all things new? God will be dwelling with us, on earth(!) so we will certainly worship Him (Revelation 5; 21:1-5). It also seems like we will continue to work as rulers of the earth as God originally intended (Matthew 25:14-30). Having received the fullness of the Holy Spirit (Romans 8:23), we will subdue the earth in perfect holiness and knowledge and righteousness and glory and power and eternity (1 Corinthians 15:42-44; Ephesians 4:24; Colossians 3:10).

私たちは今、何をすべきでしょう？

イエス様が戻ってこられる前に、私たちには神の権威に服従して地上を支配するという仕事が残っている。私たちは仕事に行き、子供を育て、家庭や近所を耕すとき、これらすべての場所でキリストの支配を前進するよう努めなければならない。つまり、私たちが選択する仕事とそのやり方は、キリストの知識に基づく正しく聖なる方法でなければならない（エペソ4:23-24; コロサイ3:10）。私たちは、イエスがその死と復活によって始めた新しい創造に従って、今を生きるよう意図されているのです。エペソ4-6章で、パウロはクリスチャンがキリストの支配に服従して、この世に新しい創造の社会を始めるための指示を与えている。

もう一つ、私たちクリスチャンの主な仕事は、イエス様が死からよみがえられた後、私たちに与えられたものです。マタイによる福音書28章18～20節にこう書かれています。

イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」

イエスの弟子を作る働きによって、人々は新しく生まれ変わり、神の姿に似せて造られるのです。福音を聞き、信じることによって、彼らは天の御国に入り、また、水が海を覆うように、地が主の知識で満たされるまで、キリストの支配を地全体に広げ始めるのです。

## **What do we do now?**

Before Jesus comes back we still have the job of ruling the earth in submission to the authority of God. As we go to work and raise our children and cultivate our homes and neighborhoods we should seek to further the rule of Christ in all these places. This means the tasks we choose to do as well as the way we do them should be in righteous and holy ways according to the knowledge of Christ (Ephesians 4:23-24; Colossians 3:10). We are meant to live now according to the new creation that Jesus began through his death and resurrection. In Ephesians 4-6 Paul gave instructions for Christians to begin a new-creation society in this world in submission to the rule of Christ.

One other main task we have as Christians was given to us by Jesus after he rose from the dead. In Matthew 28:18-20 it says:

And Jesus came and said to them, "All authority in heaven and on earth has been given to me. Go therefore and make disciples of all nations, baptizing them in the name of the Father and of the Son and of the Holy Spirit, teaching them to observe all that I have commanded you. And behold, I am with you always, to the end of the age."

It is through the work of making disciples of Jesus that people are born again and made new in the image of God. Through hearing and believing the gospel they enter the kingdom of heaven and also begin extending the rule of Christ throughout the earth until the earth is full of the knowledge of the LORD as the waters cover the sea.



# ディスカッション

以下の質問について考え、グループで話し合う準備をしましょう。

6. 地上を支配することを考えるとき、私たちのクリスチャンとしての歩みに積極的な考え方が必要なのです。あなたはこれまで、イエス様に対して受動的で、信仰に対して能動的ではなかったところはなんですか？
7. あなたの家族、近所、あるいは街で、キリストの支配をさらに進めることができる方法は何ですか？
8. あなたの仕事や生き方には、義や聖に反するものがありますか？ あなたはどのように変わりますか？
9. 地を従わせるということはどういうことかを考えるとき、あなたの生活の中でそれをどのように行ってきたか。
10. この学びは、あなたが人間であることの意味、特にあなたが持っている役割（父親、母親、夫、妻、子供、上司、従業員、教会のメンバーなど）について考える方法にどのような影響を及ぼしましたか？

一緒に祈りの時間を持ってください。特に祈り課題のために祈ってください。

# Discussion

**Think about these questions and be prepared to discuss together with your group.**

1. When we think about having dominion over the earth this requires a proactive mindset for our Christian walk. What are ways you have been passive in following Jesus as opposed to being active in your faith?
2. What is one way you can further the rule of Christ in your family, neighborhood, or city?
3. Are there any ways you work or live that are not according to righteousness or holiness? How will you change?
4. As you think about what it means to subdue the earth, what are some ways you have done that in your life?
5. How has this study affected the ways you think about what it means to be a human, especially in the roles you have (i.e. father, mother, husband, wife, child, boss, employee, church member, etc.)?

**Spend some time praying together. Pray specifically for the requests that were mentioned.**

**第6章：結婚**  
**1:26-28; 2:15-25**

**Chapter 6: Marriage**  
**1:26-28; 2:15-25**

# 事前の勉強

創世記1:26-28； 2:15-25とエベソ人への手紙5:21-33を読んで、この質問を考えて見てください。

- ・ 結婚の目的はなんですか？
- ・ 2:24は「それゆえ」で始まるのはなぜ？

## 学び

創世記1:26-28で、人間は神からその仕事、役割を与えられました。地を満たし、地を従わせ、地と他のすべての生き物を支配するようにと言われたのです。創世記2:15-17では、天地創造の6日目に戻り、男と女の創造についてさらに詳しく説明されているようです。

15-17節で、神は人を取り、1:27-28の命令を実行するための出発点として、彼を園に置かれました。また、その人と契約を結ばれた（ホセア6:7）。「あなたは園のどの木からでも思いのまま食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べる時、あなたは必ず死ぬ。」と神はアダムに言われました。ここで神は、アダムを契約の関係に引き入れました。アダムに従うべき律法を与え、それに従わない場合の結果を告げられたのです。これが、その人が信仰をもって神と関わる方法でした。アダムは神様の言葉を信じて従うこともできますし、神様に対して罪を犯し、信仰に反して行動し、その命令に従わないこともできます。

もしアダムが神の命令に従うことを選ぶなら、彼は楽園で神との関係を維持します。しかし、もし彼が神の命令に従わないなら、彼は神との契約関係を失うという結果、つまり死を経験することになるのです。

つまり、アダムには神から与えられた仕事があり、その仕事をしながら従うべき神からの律法もあるのです。しかし、問題があります。18節で、神様はご自分の創造物とこの状況を見て、良くないと言われます。「人が一人であるのは良くない」（2:18）。

1:28を振り返ってみると、人間に与えられた仕事は、実は一人の人間では成し遂げられないことがわかります。「神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」

神はこの役割を男と女に一緒に与えました。人間が適切に実を結び、増やし、地を満たし、地を従わせ、地と他の生物を支配することができる唯一の方法は、男女の補完的な役割によるものです。

# Pre-Study

Read Genesis 1:26-28, 2:15-25, and Ephesians 5:21-33 and think about these questions:

- What is the purpose of marriage?
- Why does 2:24 begin with the word “Therefore”?

# Study

In Genesis 1:26-28 humans were given their job, their role, by God. They were told to fill the earth and subdue it and have dominion over it and all other creatures. In Genesis 2:15-17 it seems we are taken back to day 6 of creation and given a more in-depth look at the creation of man and woman.

In verses 15-17 God takes man, places him in the garden as the starting point for carrying out his command from 1:27-28. He also made a covenant with the man (Hosea 6:7). God told Adam “You may surely eat of every tree of the garden, but of the tree of the knowledge of good and evil you shall not eat, for in the day that you eat of it you shall surely die.” Here God has brought Adam into a covenant relationship with him. He gave Adam a law to obey and told him the consequences if he does not obey it. This was the way the man would relate to God in faith. Adam can trust God’s word by obeying it, or he can sin against God—act contrary to faith—and disobey his command.

If Adam chooses to obey God’s command he maintains his relationship with God in paradise. But if he disobeys God’s command then he will experience the consequences of losing his covenant relationship with God, which is death.

So Adam has a job given to him by God and a law from God to obey as he carries out his work. But, there is a problem. In verse 18 God looks at his creation and this situation and he says it is not good. “It is not good that the man should be alone” (2:18).

If we look back at 1:28 we see that the job man was given to do actually cannot be accomplished by one person. “And God blessed them. And God said to them, ‘Be fruitful and multiply and fill the earth and subdue it, and have dominion over the fish of the sea and over the birds of the heavens and over every living thing that moves on the earth.’”

God gave this role to the man and the woman *together*. The only way humans can properly be fruitful and multiply and fill the earth and subdue it and have dominion over it and the other creatures is through the complementary roles of men and women.

2:19-20では、アダムが動物の支配者であることから、神はアダムにすべての動物の名前を付けさせました。これは、アダムが神から与えられた役割を果たすのに適した助け手を探すためでもあるようです。明らかに、動物たちの中で、「ふさわしい助け手が見つからなかった」。ある動物はいいペットになるし、仕事を片付けるのに使えるが、人間同士の交わりにはかなわない。

アダムは何らかの形で支配権を行使していましたが、地を満たし、従わせ、適切に支配権を行使するためには、助け手が必要なのです。

## 女

2:21-22で、神はアダムを深い眠りにつかせ、彼に手術を施される。神はアダムの脇腹から肋骨を一本取り、その肋骨から女性を創造される。2:22-23で、神はその女を男の前に連れて来られ、男はその女を見て詩人になった。「これこそ、ついに私の骨からの骨、私の肉からの肉。これを女と名づけよう。男から取られたのだから。」

男には自分のマッチがいる。女は完全に彼に適合している。そして今、最後に女が加わることで、創造は完成した。女の創造以前は、創造は欠けていた。神はそれを見て、「良くない」と言われました。しかし今、神はご自分のすべての被造物を見て、「非常に良かった」と宣言された (1:31)。

女性は、男性にふさわしい「助け手」として創られています。「助け手」は侮蔑的な言葉ではありません。聖書の中でも、神は私たちの「助け手」と呼ばれています。例えば、詩篇54編4節、「見よ 神は私を助ける方。主は私のいのちを支える方。」です。「助け手」はまた、戦いの援軍を表す言葉でもあります (イザヤ31:3)。

聖書の教えは、男性は一人ではダメで、神が与えた役割を果たすために助けが必要だということです。神が創られた助けは女性です。これは輝かしい役割であり、神への喜びと感謝をもって受け入れられなければなりません。神が女性にお造りになった役割を果たすことができるのは、男性も、地球上の他のいかなる被造物もないのです。実際、地上を支配せよという命令は、女性なしには達成できません。

## 結婚

2:22と2:25の間に、非常に注目すべきことが起こります。男と女は単なる同僚ではありません。男と妻なのです。2:24は「それゆえ」で始まっています。これは、その後続く言葉が、その前の言葉に基づいていることを意味します。

2:24-25には、「それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。そのとき、人とその妻はふたりとも裸であったが、恥ずかしいとは思わなかった。」

In 2:19-20, since Adam is the ruler of the animals, God has him name all the animals. Also, this seems to be a search for a suitable helper for Adam to carry out the role God has given him. Obviously, among the animals, “there was not found a helper fit for him.” Some animals can make nice pets and can be used for getting work done, but they do not compare to the companionship that humans have between each other.

Adam was, in some form, exercising dominion, but he needs a helper to fill the earth, subdue it and properly exercise dominion.

### **Woman**

In 2:21-22 God causes Adam to fall into a deep sleep and performs surgery on him. God takes one rib from Adam’s side and from that rib God creates a woman. In 2:22-23 God brings the woman to the man and upon seeing her the man becomes a poet. He says, “This at last is bone of my bones and flesh of my flesh; she shall be called Woman, because she was taken out of Man.”

The man has his match. The woman is perfectly fit for him. And now, with the final addition of Woman, creation is complete. Before the creation of woman creation was lacking. God looked at it and said, “Not good.” But now he looks at all of his creation and declares it to be “very good” (1:31).

Woman is created to be a “helper fit for” the man. “Helper” is not a derogatory term. God is also called our “helper” in Scripture. For example, Psalm 54:4, “Behold, God is my *helper*; the Lord is the upholder of my life.” “Helper” is also a word used to describe reinforcements in battle (Isaiah 31:3).

The teaching of Scripture is that man by himself is not good and that he needs help in order to fulfill the role God has given to him. The help that God has created is woman. This is a glorious role and should be embraced with gladness and gratitude to God. No man and no other creature on earth can fulfill the role that God has created in women. In fact, the command to rule the earth cannot be accomplished without woman.

### **Marriage**

Something very noteworthy takes place between 2:22 and 2:25. The man and the woman are not simply coworkers. They are man and wife. 2:24 begins with “Therefore.” This means the words following are based on what came before.

2:24-25 says, “Therefore a man shall leave his father and his mother and hold fast to his wife, and they shall become one flesh. And the man and his wife were both naked and were not ashamed.”

この男とこの女は「男と妻」である。これは男と女の創造ではありません。これは結婚の創造でもあったのです。つまり、神のデザインによって、人間が地球を支配するためには、結婚が不可欠であるということです。

結婚とは何でしょうか？ 私はここで聖書の結婚には9つの側面を見ています。

1. 結婚は一人の男性と一人の女性の間で行われるものです。つまり、異性間であり、一夫一婦制であることが定義されています。
2. 結婚は、新しい家族単位の始まりです。男は自分の家庭を離れ、妻と結ばれる。二人は一体となり、新しい家庭を築き始めるのです。
3. 結婚は契約的なものです。ここでも、16節と17節と同じように、神はこの男と妻の関係を定義し、この関係に規則を課しています。「それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。」と言われるのです。結婚は神が創られた男女の関係であり、私たちが解消することが許されるものではない（マラキ書2: 14、マタイの福音書19: 4-6）。
4. 結婚とは、私たちの一生を左右するものです。男は「妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである」のです。別れることはない。結婚の期間は、夫婦のどちらかが死ぬまでです（ローマ7:2-3、第1コリント7:39）。
5. 結婚生活においては、男女は平等であるが、男は女に対して権威を持ち、女はその権威に服従する。地球を支配する役割の一部として、アダムは動物に名前を付けました。また、アダムは女にも名前を付けました（2:23; 3:20）。このことは、二人は神のかたちに造られたものであるため、価値と尊厳において完全に平等であるが（1:27-28）、男は妻のかしらであることを示しています。エペソ5:22-33で、パウロは夫と妻の関係について説明しています。妻は、夫が自分の頭であることから、夫に従い、尊敬しなければなりません。夫は妻を愛し、妻のために自分を捨てなければなりません。
6. 結婚とは結合である。男と女は一体になるのです。エペソ5:31でパウロは、夫と妻は、私たちがキリストに結ばれているのと同じように、互いに結ばれていると言っています。私たちとキリストの一致は聖霊によるものです（エペソ2:18-22; 3:16; 4:3）。同様に、神ご自身も聖霊を通して夫と妻を互いに一致しています（マラキ2:14-15; マタイ19:4-6）。



This man and this woman are “man and wife.” This was not only the creation of man and woman. This was also the creation of marriage. This means that, by God’s design, marriage is integral to humans ruling the earth.

What is marriage? There are 9 aspects to Biblical marriage that I see here:

1. Marriage is between one man and one woman. This means it is by definition heterosexual and monogamous.
2. Marriage is the beginning of a new family unit. The man leaves his household and holds fast to his wife. They become one flesh and begin a new household together.
3. Marriage is covenantal. Again, just as in verses 16 and 17 God defines this relationship between a man and his wife and imposes rules on this relationship. He says, “Therefore a man shall leave his father and his mother and hold fast to his wife, and they shall become one flesh.” Marriage is a relationship between a man and his wife that God creates and it is not something we are allowed to dissolve (Malachi 2:14; Matthew 19:4-6).
4. Marriage is for our whole life. The man is to “hold fast to his wife, and they shall become one flesh.” There is no separating. The duration of a marriage is until one of the spouses dies (Romans 7:2-3; 1 Corinthians 7:39).
5. Within marriage, men and women are equal, but the man has authority over the woman and she submits to his authority. As part of his role of ruling the earth Adam named the animals. Adam also named the woman (2:23; 3:20). This shows that although they are completely equal in value and dignity because they are both made in the image of God (1:27-28), the man is the head of the wife. In Ephesians 5:22-33 Paul explains the relationship between a husband and wife. The wife is to submit to and respect her husband because he is her head. The husband is to love his wife and give himself up for her.
6. Marriage is a union. The man and woman become one flesh. In Ephesians 5:31 Paul says that husbands and wives are united to one another similar to how we are united to Christ. Our union with Christ is through the Holy Spirit (Ephesians 2:18-22; 3:16; 4:3). Similarly, God himself joins husbands and wives to one another through the Holy Spirit (Malachi 2:14-15; Matthew 19:4-6).

7. 結婚の関係はセックスのための唯一の文脈です。神が人間に与えた役割（創世記1:27-28）を遂行するために、神は女性を創造し、同時に結婚を創造されました。地上を神のかたちで満たす唯一の方法は、夫と妻が結婚生活の中で楽しむ性的結合です。もちろん、墮落のために性はゆがめられ、今では欲しいものを手に入れるための道具として使われています（創世記3:16）。クリスチャンがセックスについて考えるべきことは、このようなことではありません。セックスは子供を作るためのものであり（創世記1: 28）、夫と妻が互いに楽しむためのものです（箴言5: 15-19; 雅歌）。女性は利用される対象ではありません。女性は栄光の存在であり（詩篇8: 5、第1コリント11: 7）、名誉ある存在であり（詩篇8: 5）、神の国を男とともに受け継ぐものであり（1ペテロ3: 7）、夫によって大切に扱われるべきものです（1ペテロ3: 7、エペソ5: 29）。
8. 墮落以前の夫婦関係の中では、恥じることはなかったのです。創世記2章25節には、「人とその妻はふたりとも裸であったが、恥ずかしいとは思わなかった」と書かれています。結婚関係は、キリストを通しての神との関係の絵であることを意味しています。ですから、理想的には、結婚生活において恥じることがないようにすることです。お互いに完全に心を開いて正直になることができ、配偶者の愛を失う恐れは全くありません。文字通りお互いに裸であることができ、恥ずかしがったり、関係を失うことを恐れたりすることはないのです。
9. 今言ったように、結婚とは福音の絵なのです。エペソ5: 31-32でパウロは創世記2: 24を引用して、こう言っています。「『それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。』この奥義は偉大です。私は、キリストと教会を指して言っているのです。」結婚は、創世記2章において、キリストとその民である教会との関係を表すために、創造されたのです。

## キリストと教会

この意味をもっと考えてみよう。

ちょうど、男が率先して父と母を離れ、妻と結ばれるように、キリストはご自分のものとしての民を得るために、天を離れて地上に來られました（テトス2:14）。

夫が妻のかしらであるように、キリストは教会のかしらです（エペソ1: 22、5: 23）。

夫と妻が神によって一体として結ばれているように、キリストは御霊によってご自分の体である教会と結ばれているのです。

ちょうど男があばら骨を失うことで花嫁を得たように、キリストは命を捧げることで花嫁を得たのです。キリストは十字架で脇腹と心臓を貫かれました（ヨハネ19: 34）。イエスの血によって、私たちは彼の花嫁となるために買い取られたのです（黙示録5:9-10）。

7. Marriage is the only context for sex. For the purpose of carrying out the role that God gave to mankind (Genesis 1:27-28) he created woman and, at the same time, he created marriage. The only way to fill the earth with images of God is through the sexual union that husbands and wives enjoy in marriage. Of course, because of the Fall sex has been distorted and is now used as a tool to get things that we want (Genesis 3:16). This is not how Christians are to think about sex. Sex is for creating children (Genesis 1:28) and for husbands and wives to enjoy one another (Proverbs 5:15-19; Song of Solomon). Women are not objects to be used. They are glorious (Psalm 8:5; 1 Corinthians 11:7), honorable (Psalm 8:5), coheirs of the kingdom of God (1 Peter 3:7), to be treated with honor and to be cherished by their husbands (1 Peter 3:7; Ephesians 5:29).
8. Within the marriage relationship, before the Fall, there was no shame. Genesis 2:25 says, "And the man and his wife were both naked and were not ashamed." The marriage relationship is meant to be a picture of our relationship with God through Christ. Thus, ideally within marriage there will be no shame. You can be totally open and honest with each other and not have any fear of losing the love of your spouse. You can literally be naked with each other and not be embarrassed or scared that you will lose your relationship.
9. As I just said, marriage is a picture of the gospel. In Ephesians 5:31-32 Paul quotes Genesis 2:24 and says this: "Therefore a man shall leave his father and mother and hold fast to his wife, and the two shall become one flesh.' This mystery is profound, and I am saying that it refers to Christ and the church." Marriage was created, in Genesis 2, in order to be a picture of Christ's relationship to his people, the church.

### **Christ and the Church**

Let's think about this more.

Just as the man is meant to take the initiative and leave his father and mother and hold fast to his wife, so Christ left heaven and came to earth to get for himself a people for his own possession (Titus 2:14).

Just as the husband is head of the wife, so Christ is head of the church (Ephesians 1:22; 5:23).

Just as husbands and wives are joined together by God as one flesh so Christ is united to the church, his body, by the Spirit.

Just as the man only got his bride through the loss of his rib so Christ got his bride by giving up his life. Christ was pierced through his side and into his heart on the cross (John 19:34). By Jesus' blood we are purchased for him to be his bride (Revelation 5:9-10).

夫が聖書を教えることによって妻の聖別を求めるように（エペソ5: 25-26）、キリストはご自身の血によって私たちを洗い清め（1ヨハネ1: 7）、御言葉によって聖別してくださいます（エペソ5: 25-26）。

墮落前のアダムとエバの結婚に恥じるところがなかったように、キリストの花嫁である教会にも、正しい行いを身にまとい、キリストに自分を差し出すのに恥じることがないようにすることが認められます（黙示録19:6-9）。キリストが十字架上で買い取られたので、教会の完全な聖化は保証されています（第1ペテロ2:24）。

Just as the husband is to seek the sanctification of his wife through teaching Scripture (Ephesians 5:25-26), so Christ washes us clean by his own blood (1 John 1:7) and sanctifies us by his word (Ephesians 5:25-26).

Just as there was no shame in Adam and Eve's marriage before the Fall so it will be granted to the church, the Bride of Christ to clothe herself in her righteous deeds so she will not be ashamed to present herself to Christ (Revelation 19:6-9). The perfect sanctification of the church is guaranteed because Christ purchased it on the cross (1 Peter 2:24).

# ディスカッション

以下の質問について考え、グループで話し合う準備をしましょう。

1. 日本で結婚や子どもを増やすためにできることは何ですか？
2. 男女の役割について、世の中にはどのようなウソがあるのでしょうか。
3. 創世記2:18-22で、女性は男性の助け手として創造されたとありますが、あなたはこれを読むときにどのような反応を示しますか？なぜですか？
4. あなたの結婚生活（結婚している場合）や他の結婚生活を豊かにするためにできることは何ですか？
5. 神様が設計された男女の役割に従って、独身者がどのように関わり合えばよいのでしょうか。

一緒に祈りの時間を持ってください。特に祈り課題のために祈ってください。

# Discussion

**Think about these questions and be prepared to discuss together with your group.**

1. What are ways that you can encourage more marriages and children in Japan?
2. What are some lies the world tells about the roles of men and women?
3. What reactions do you have when you read in Genesis 2:18-22 that the woman was created as a helper for the man? Why?
4. What are ways you can help your marriage (if you are married) and other marriages flourish?
5. How can unmarried people relate to one another according to the roles God has designed for the man and the woman?

**Spend some time praying together. Pray specifically for the requests that were mentioned.**

**第7章：ジェンダーロール（性別の違い）**  
**1:26-28、2:15-3:24**

**Chapter 7: Gender Roles**  
**1:26-28; 2:15-3:24**



# 事前の勉強

創世記1:26-28; 2:15-3:24を読んで、この質問を考えてみてください。

- ・ 男性であるということはどういうことなのか?
- ・ 女性であるということはどういうことなのか?

## 学び

2022年、日本の出生率は過去最低を更新した。平均結婚年齢の高齢化が進み、婚姻件数も減少しています。また、男性と女性の違いに対する戸惑いが増すとともに、異なる2つの性別は交換可能で柔軟であるというメッセージも広まっています。

何が問題でしょうか? なぜ、このような問題が社会で起こっているのでしょうか。箴言29章18節に、「幻がなければ、民は好き勝手にふるまう。しかし、みおしえを守る者は幸いである。」とあります。

どんなに痛ったところで、聖書の命令や導きに従うように人々を動機づけることはできません。性別や結婚や子供の意味や目的について混乱があるのは、神の言葉である聖書が本来あるべき姿で宣べ伝えられ、従われていないからです。

神は人類を創造されたとき、男と女の2つの性で創造されました。男と女をご自分のかたちとして造られたのです。そして、この男と女「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」と命じられたのです(創世記1:28)。

神は、平等でありながら異なる二つの性を創造されました。そして、それぞれの女性性、男性性に合わせて、地を満らし、従わせ、支配するという神の命令を果たすよう意図されています。この学びでは、男性と女性の役割について聖書が述べていることを見ていきます。特に、結婚における男女の役割について見ていきます。そして、結婚しているかどうかにかかわらず、一般的な男女の役割について見ていきます。

### まず、夫たち

夫は家庭の頭。

創世記2:24-25では、夫は自分が育った家を出て、妻と共に新しい家庭を始めることが書かれている。

家庭の頭であるということは、その家庭のリーダーであるということです。キリストが教会のかしらであるように、夫は妻のかしらです(エペソ1: 20-23と5: 22-24を比較してください)。テモテ第一の3章では、長老と執事は「自分自身の家庭をよく治め」ことが要求されています。この「治め」という言葉は、「指導」とも訳されることもできます(ローマ12: 8)。

# Pre-Study

Read Genesis 1:26-28, 2:15-3:24, and think about these questions:

- What are the characteristics of manhood?
- What are the characteristics of womanhood?

## Study

2022 was a new record low for the birth rate in Japan. The average age at marriage is getting older and the amount of marriages is decreasing. Also, there is increasing confusion about the differences between males and females as well as a widespread message that says that the two different sexes are interchangeable and flexible.

What is the problem? Why are these problems occurring in society? Proverbs 29:18 says, "Where there is no prophetic vision the people cast off restraint, but blessed is he who keeps the law."

No amount of incentive can motivate people to obey the commands and guidance of Scripture. The reason there is confusion about gender and the meaning and purpose of marriage and children is because God's Word, Scripture, is not being proclaimed and obeyed as it ought to be.

When God created humanity, he created them in two sexes: male and female. He made the man and the woman in his own image. He commanded the man and the woman, and thus all their offspring, to "be fruitful and multiply and fill the earth and subdue it, and have dominion over the fish of the sea and over the birds of the heavens and over every living thing that moves on the earth," (Genesis 1:28).

God created two distinct sexes that are equal, but different and are meant to fulfill His command to fill, subdue, and have dominion over the earth in ways conforming to their femaleness or maleness. In this study we will look at what the Bible says about the roles of men and women. We will look specifically at their roles in marriage and then see what this says about men and women in general, whether married or not.

### **First, Husbands**

A Husband is the Head of the Household.

In Genesis 2:24-25 we see that the husband leaves his home where he was brought up and begins a new one with his wife.

To be the head of the household means he is the leader of it. As Christ is head of the church so a husband is the head of his wife (compare Ephesians 1:20-23 and 5:22-24). In 1 Timothy 3 elders and deacons are required to "manage their household well." This word manage can also be translated "lead" and "superintend" (Romans 12:8).

これは、夫が家庭のリーダーであることを意味します。家庭の方向性を決め、率先してリーダーシップをする。

夫は、家庭における権威を神から託されています。この権威は、先に述べた聖書箇所や、創世記2:23と3:20でアダムが自分の妻に名をつけているところにも見ることができます。

これはどういう権威なのでしょう。確かに、男性が率先して家族を導くということです。しかし、それ以外にどんな意味があるのでしょうか。

### 責任のあること

創世記3章では、エバが蛇に惑わされ、男と女が共に罪に陥った後、神はまずエバに「なぜそのようなことをしたのか」と尋ねに来られたのではありません。まずアダムのところに来て、「あなたは、食べてはならない、とわたしが命じた木から食べたのか。」(創世記3:11)と問われたのである。アダムは妻の罪の責任を負います。男性は家庭の主ですから、神は私たちの妻や子供に対する管理責任を問われることとなります(マタイ25: 14-30; 1コリント4: 2)。

### 守ること

創世記2章15節には、「神である主は人を連れて来て、エデンの園に置き、そこを耕させ、また守らせた。」と書かれている。アダムは、自分の家庭を攻撃してくるものに対する自衛隊であった。

第一ペテロ3章7節には、夫は「同じように、夫たちよ、妻が自分より弱い器であることを理解して妻とともに暮らさない。」とあります。一般に、男性は女性より大きく、強く、速い。神様は、私たちがその大きさ、強さ、速さを生かして妻や子どもを守ることができるように、男性をこのようにお造りになりました。

また、私たちは家族に対してより大きな力を利用することは決してありません。むしろ、私たちは妻に「尊敬」すべきなのです(第一ペテロ3: 7)。私たちは妻や子供たちに優しく接し、決して厳しい態度をとったり、肉体を使って傷つけたり脅したりしてはいけません(エペソ5:26-28; 6:4; コロサイ3:19; 3:21)。

### 養い育てること

創世記2:15に戻ると、結婚する前、男は仕事を持っていました。彼は庭を耕していたのです。エペソ5:29には、夫は妻を「養い育てる」べきであると書かれています。家庭のために収入を得る第一の責任は、男性にあるのです。男性は成長し、職業を学び、家を出て、主が望まれるなら、妻を見つけ、新しい家庭を始めなければなりません。

### 愛すること

結婚の目的のひとつは、伴侶を得ることです。創世記2章18節で、神はこう言われた。「人がひとりているのは良くない。わたしは人のために、ふさわしい助け手を造ろう。」。女が男のもとに連れてこられると、男は歌い出す。「これこそ、ついに私の骨からの骨、私の肉からの肉」アダムは自分の妻をとて喜んで。2:24では、男が家庭を離れ、率先して妻を追い求める姿が描かれている。彼は彼女を求めている。

This means the husband is the leader of the home. He determines the direction for the family and takes the initiative to carry out his leadership.

Husbands have been entrusted by God with authority in the home. We see this authority in the previously mentioned texts as well as in Genesis 2:23 and 3:20 where Adam names his wife.

What kind of authority is this? It certainly means the man takes the initiative to lead his family. But what else does it mean?

#### Responsible

In Genesis 3, after Eve was deceived by the serpent and both the man and the woman fell into sin, God did not first come to ask Eve why she did what she did. He first came to Adam and asked, "Have you eaten of the tree of which I commanded you not to eat?" (Genesis 3:11). Adam is responsible for his wife's sins. Because men are the head of their household that means God will require an accounting of our stewardship of our wives and children (Matthew 25:14-30; 1 Corinthians 4:2).

#### Protector

In Genesis 2:15 it says, "The LORD God took the man and put him in the garden of Eden to work it and keep it." Keeping the garden means guarding the garden. Adam was the defense force against anything that might attack his household.

In 1 Peter 3:7 husbands are told to "live with your wives in an understanding way, showing honor to the woman as the weaker vessel...." In general, men are bigger, stronger, and faster than women. God made men this way so that we would use our size, strength, and speed to protect our wives and children.

We are also not ever meant to use our greater power against our family. Rather we must "show honor" to our wives. We should treat our wives and children with gentleness, never being harsh or using our physicality to hurt or threaten (Ephesians 5:26-28; 6:4; Colossians 3:19; 3:21).

#### Provider

Going back to Genesis 2:15, before the man was married he had a job. He was working the garden. In Ephesians 5:29 it says that husbands are to "nourish" their wives. The primary responsibility for earning income for the home is on the man. Men should grow up, learn or develop a trade, leave their home, and Lord willing, find a wife and start a new home.

#### Lover

Part of the purpose of marriage is companionship. In Genesis 2:18 God said, "It is not good that the man should be alone; I will make a helper fit for him." When the woman is brought to the man he erupts into singing: "This at last is bone of my bones and flesh of my flesh...." Adam was so pleased with his wife. 2:24 shows the man leaving his household and taking initiative to pursue a wife. He seeks her.

エペソ人への手紙5章25節では、夫はまず第一に妻を愛しなさいと言われていました。妻を愛しなさい! 5:29 で、パウロは夫に妻を「養う」ように言っています。この言葉は、第一テサロニケ2:7でも使われていて、母親が乳飲み子を世話する様を表現しています。夫は、親愛の情と優しい心で妻を愛さなければなりません。

ペテロ第一の3章7節では、夫に対して「妻が自分より弱い器であることを理解して妻とともに暮らさなさい」と語っています。これは少なくとも、夫は妻を知り、理解しようと努めるべきだということです。妻を求めましょう。妻を愛しましょう。妻を大事にしよう。妻をもっともっと知るようにしましょう。

#### ともに受け継ぐものとして生きること

創世記1:26-28で、神はご自分に似せて男と女を創造し、二人を祝福し、二人に地球を支配するように命じられます。第一ペテロ3:7では、男性は妻に「いのちの恵みとともに受け継ぐ者として尊敬しなさい。そうすれば、あなたがたの祈りは妨げられません。」

男性と女性は、価値、尊厳においてまったく平等です。そして、私たちが見ているように、男性と女性は異なるように作られています。その違いは不平等を意味するものではありません。むしろ、相補を意味するのです。神は男性を、指導者としての責任を担う者として造られました。私たちは、守る人であり、養い育てる人であり、愛する人であるように意図されています。

#### 箴言31の男?

箴言31:10-31は、理想の女性像が描かれていることで有名です。しかし、箴言31章の男性はどうでしょうか。箴言31章には、この女性の夫について3つの言及がありません。

31:11には、「夫の心は彼女を信頼し、彼は収益に欠けることがない。」とあります。たしかにこれは、妻が信頼に足る人物であることを意味しているが、同時に夫が妻を疑っていないことも意味している。家庭を管理するための適切な仕事を任せ、その能力を対等の立場で尊重しているのです。妻を非常に高く評価している。

31:23には、「夫は町囲みの中で人々によく知られ、土地の長老たちとともに座に着く。」とあります。古代の都市の門（町囲み）は、市政を決定する場所であった。リーダーシップを発揮する場所であった。門は商取引の場であった。また、敵から身を守る場所でもあった。ですから、箴言31章の女性の夫は、地域社会のリーダーなのです。彼は尊敬に値します。賢い。彼は信頼できることで知られているので、その土地の長老たちの中に座っているのです。

31:28-29には、「その子たちは立ち上がって彼女をたたえ、夫も彼女をほめたたえて言う。『力ある働きをする女は多いが、あなたは、そのすべてにまさっている』と。」とある。この夫は本当に妻を喜んでいる。彼女を愛している。他のすべての女性は彼女に追い越され、比べるものはいないので。彼は言葉巧みに妻をほめ、子供たちと一緒に励まします。

In Ephesians 5:25 husbands are told first and foremost to love their wives. Love her! In 5:29 Paul tells husbands to “cherish” their wives. This word is also used in 1 Thessalonians 2:7 to describe the way a mother will care for her nursing infant. Husbands should love their wives with dear affection and tender care.

In 1 Peter 3:7 he tells husbands to “live with your wives in an understanding way.” This at least means husbands should seek to know and understand their wives! Seek her. Love her. Care for her. Continually get to know her better and better.

#### Co-heir

In Genesis 1:26-28 God creates man and woman both in his image and blesses both of them and gives both of them the command to rule the earth. In 1 Peter 3:7 we are told that men should show honor to their wife because “they are heirs with you of the grace of life, so that your prayers may not be hindered.”

Men and women are totally equal in value, dignity, and worth. And, as we are seeing, men and women are made differently. The differences do not mean inequality. Rather, they mean complementarity. God has made men to bear the weight of responsibility in leadership. We are meant to be protectors, providers and lovers.

#### Proverbs 31 Man?

Proverbs 31:10-31 is well-known for its description of the ideal woman. But what about the Proverbs 31 man? There are three mentions of the husband of this woman in Proverbs 31.

31:11 says, “The heart of her husband trusts in her, and he will have no lack of gain.” Yes, this does mean that his wife is trustworthy, but it also means the husband is not suspecting of his wife. He is trusting her with appropriate tasks for managing the household and he is respecting her ability to do it as his equal. He thinks very highly of his wife.

31:23 says, “Her husband is known in the gates when he sits among the elders of the land.” The gate of a city in ancient times was the place where city government decisions were made. It was the place of leadership. The gate was the place to make business transactions. It was also the place of defense against enemies. So the husband of the Proverbs 31 woman is a leader in his community. He is respectable. He is wise. He is known for his trustworthiness and thus he sits among the elders of the land.

31:28-29 says, “Her children rise up and call her blessed; her husband also, and he praises her: ‘Many women have done excellently, but you surpass them all.’” This husband truly rejoices in his wife. He delights in her. All other women are surpassed by her; no one compares. He verbally praises and encourages his wife with his children.

## 妻たち

妻は夫にふさわしい助け手です。

創世記1:26-28で、神は男と女を創造され、地を支配する使命を与えられました。この任務を達成するためには、男とは異なる女の役割が不可欠である。創世記2:18で、神は男だけでは「良くない」と見て、男にふさわしい「助け手」である女を造られました。女の助けなしには、男は地を満たし、従わせ、支配することを成し遂げることができないのです。

女はどんなかたちで男の助け手であるでしょうか？

### 従うこと

男が導き、指導するように、女はその指導に服従し、それを受けるように造られたのです。創世記2:24は、男が家庭を離れ、妻と結ぶことを示しています。彼女はその追求を受け（彼女が望むなら）、二人は一体となります。

エペソ5:21-24でパウロは、教会がキリストに従うのと同じように、妻も自分の夫に従うようにと語っています。つまり、妻は夫のリーダーシップのあらゆる部分を受け入れるべきなのです。夫がリーダーシップを発揮している部分は、すべて妻が受けるべきなのです。

1ペテロ3:1-2は、不信仰な夫のいる妻に、神への従順さによって彼らを神に引き渡せと指示しています。妻の尊敬に満ちた清い行いは、夫の伝道のために神の御手にある強力な道具なのです。

(聖書には、愚かな非神聖な男性に服従しなかった知的で正しい女性の例が数多くあります。これは女性の責任の一部でもあります。キリストは私たちの究極的な頭ですから、女性はキリストの権威の下で彼らを導く限りにおいてのみ、男性のリーダーシップに服従するのです。サムエル記第一25章に登場するアビガイルがその良い例です。)

### 尊敬すること

従うことは、妻が夫に関わる方法と関係があるかもしれませんが、尊敬は、夫に対する心の態度と関係があるのかもしれませんが。パウロもペテロも、女性には外見的に夫に服従するだけでなく、内面的に、心から夫を尊敬するようにと教えています。

第一ペテロ3章2節では、妻の行いは尊敬に値すると記されています。また、エペソ5:33でパウロは、「妻もまた、自分の夫を敬いなさい」と言っています。行いは、私たちの心から流れ出てくるものです。従順さは、夫を尊敬する心から生まれます。また、パウロはこの命令を妻にだけ与えていることを見るのが重要です。「自分の夫を敬いなさい」と。妻がちゃんと自分を尊敬しているかどうかを確認するのは、夫の責任ではありません。夫の責任は自分が尊敬をされることに値する存在になることです。

## **Wives**

A wife is a helper fit for her husband.

In Genesis 1:26-28 God created man and woman and he gave them the task of ruling the earth. The woman's role, which is different from the man's, is integral to accomplishing this task. In Genesis 2:18 God saw that the man alone was "not good" so he made woman, a "helper" fit for the man. Without woman's help man cannot accomplish the filling, subduing, and ruling of the earth.

How is a woman a helper to the man?

### Submissive

As the man was made to lead and initiate, so the woman was made to submit to and receive that leadership. Genesis 2:24 shows the man leaving his household and holding fast to his wife. She receives that pursuit (if she so desires) and the two become one flesh.

In Ephesians 5:21-24 Paul tells wives to submit to their own husbands to the same extent that the church submits to Christ. This means the wife should embrace every part of the leadership her husband gives. Any area that the husband is taking leadership in should be received by the wife.

1 Peter 3:1-2 instructs wives who have unbelieving husbands to win them over to God through godly submissiveness. The respectful and pure conduct of wives is a powerful tool in the hand of God for the evangelism of their husbands.

(There are numerous examples in Scripture of intelligent, godly women who did not submit to foolish ungodly men. This is also part of the responsibility of women. Christ is our ultimate head, so women only submit to the leadership of other men in as much as they are leading them under the authority of Christ. For a great example take a look at Abigail in 1 Samuel 25.)

### Respectful

As being submissive might relate more to the way wives relate to their husbands, respect might be more of a heart attitude toward their husbands. Paul and Peter both instruct women to not just outwardly submit to their husbands, but inwardly, from their hearts, respect them.

In 1 Peter 3:2 the conduct of the wives is described as respectful. And in Ephesians 5:33 Paul says, "and let the wife see that she respects her husband." Conduct will flow out of our heart. Submissiveness comes from a heart that respects your husband. It is also important to see that Paul only gives this command to the wife. "Let the wife see that she respects her husband." It is not the husband's responsibility to make sure his wife respects him. It is the husband's responsibility to make sure he is respectable.



## 家庭を治めること

創世記2章では、夫が妻をしっかりと守ることで、新しい家庭、新しい家族が始まるのです。夫は家庭のリーダー（指導）ですが、妻は管理者（治め）です。これはどういうことでしょうか。それは、妻が、夫の決めた方向に従いながら、家庭のリーダーシップをするということです。

地球を支配せよという命令は、男と女の両方に与えられています。ですから、男と女が一緒にこの任務に就くことで、重なり合い、相互作用が生まれます。

エペソ6:1-3とコロサイ3:20に、子育てにおいてこのことが明確に示されています。父親は子供を育てる第一の責任を与えられていますが、子供はキリストの権威の下で、何事も両親の言うことに従わなくてはなりません。つまり、お父さんが家にいない時もあるでしょうが、お母さんが家庭を管理しているので、子供たちはお父さんと同じようにお母さんに敬意を払いながら言うことを聞かなければなりません。

また、第一テモテ5:14とテトス2:4-5では、パウロは複合語を使って、家庭における妻の役割を説明しています。第一テモテ5:14は*oikodespoteō*（オイコデスポテオ）で、「家庭を治め」と訳されています。妻は家庭の女王です。家庭の主婦です。妻は「ここで手を洗いなさい」「ここに食器を置きなさい」「そこに座ってはいけません」「この部屋はこのためにあるのです」と言うことができ、他の家族（父親も含めて）は、うまく管理された家庭を持ちたいなら、耳を傾けなければならないのです。

アダムは庭で耕し、守る仕事を与えられました。アダムはいつも家にいるわけではありません。しかし、アダムは自分の労働の成果をエバのもとに持ち帰り、エバがその成果から何か使えるものを作り出すようにしたのです。結婚生活における聖書の男女の役割は、今日でも同じです。テトス2章5節で、パウロは年配の女性に、若い女性が「家事に励み」ように訓練するように言っています。妻や母親の主な仕事の領域は、家庭です。

現代では（おそらくパウロが執筆していた当時もそうです。でなければパウロはこの教えをしなかったでしょう。）、このような教えは不快に聞こえるかもしれません。しかし、この教えは私たちに何を教えてくれるのでしょうか。一つは、家庭は非常に重要であるということです。もし神が人類の半分を創造して、家庭の幸福に主な注意を向けさせたとすれば、それは神が女性の才能、知性、能力を評価しないということではありません。つまり、神は家庭を非常に大切にされているのです。

## 女の人は飾りつけられている守る人

飾りつけられている守る人？ という意味？

ペテロの手紙の第一3:3-6、「あなたがたの飾りは...外面的なものであってはいけません。むしろ、柔和で穏やかな霊という朽ちることのないものを持つ、心の中の隠れた人を飾りとしなさい。それこそ、神の御前で価値あるものです。かつて、神に望みを置いた敬虔な女の人たちも、そのように自分を飾って、夫に従ったのです。たとえば、サラはアブラハムを主と呼んで従いました。どんなことをも恐れないう善を行うなら、あなたがたはサラの子です。」

### Home Manager

In Genesis 2, when the husband holds fast to his wife, a new household, a new family is begun. The husband is the leader of the household, but the wife is the manager. What does this mean? It means the wife exercises a leadership of the home that is in submission to the direction set by the husband.

The command to rule the earth was given to both the man and the woman. So there will be overlap and interaction between the man and the woman as they set to this task together.

We see this clearly in parenting in Ephesians 6:1-3 and Colossians 3:20. Fathers are given the primary responsibility of bringing up their children, but the children must obey both their parents in everything under the authority of Christ. This means there will be times when Dad is not home, but Mom is managing the home and the children need to listen to Mom with the same respect they would give to Dad.

Also in 1 Timothy 5:14 and Titus 2:4-5 Paul uses compound words to describe the wife's role in the home. 1 Timothy 5:14 is *oikodespoteō* and is translated "manage their households." A wife is the household master. She is the homemaker. She can say "wash your hands here" "put your dishes here" "don't sit there" "this room is for this purpose" and the rest of the family (including Dad) should listen if they want to have a well-run home.

Adam was given the job of working and keeping the garden. He would not always be at home. But, he would bring the fruit of his labor back to Eve for her to produce something usable out of it. Biblical gender roles within marriage are still the same today. In Titus 2:5 Paul tells older women to train younger women to be "working at home." The main realm of work for wives and mothers is their home.

In today's world (and probably also when Paul was writing, otherwise he would not have had to give these instructions) these kind of teachings can sound offensive. But what should this tell us? One thing this should definitely tell us is that the home is VERY important. If God created half the human race to focus their main attention on the well-being of the home then that does not mean God doesn't value the gifting and intelligence and the ability of women. It means God values the home tremendously.

### Adorned Protectors

Women are to be adorned protectors. What does this mean?

1 Peter 3:3-6 says "Do not let your adorning be external...but let your adorning be the imperishable beauty of a gentle and quiet spirit, which in God's sight is very precious. For this is how the holy women used to adorn themselves, by submitting to their own husbands, as Sarah obeyed Abraham, calling him Lord. And you are her children, if you do good and do not fear anything that is frightening."

テトスへの手紙2: 4-5「そうすれば、彼女たちは若い女の人に、夫を愛し、子どもを愛し、慎み深く、貞潔で、家事に励み、善良で、自分の夫に従順であるように諭すことができます。神のことが悪く言われることのないようにするためです。」

テモテへの手紙第一5: 14「ですから、私が願うのは、若いやもめは結婚し、子を産み、家庭を治め、反対者にそしる機会をいっさい与えないことです。」

妻や母親は、夫に従順に、敬意をもって、恐れずに従い、家庭を治めることによって、自分自身を神にとって非常に価値あるものとし、神の言葉である聖書の評判と、神の花嫁である教会の評判を守ることができるのです。

つまり、家庭と夫と子供の世話役である妻と母の役割は、教会の使命に不可欠なものなのです。もし妻や母親が夫の助け手として神から与えられた役割を放棄するならば、神の言葉と神の教会はあざけられ、女性自身も神に喜ばれることはないでしょう。つまり、家庭とその治めは神にとって非常に重要なのです。

### 命を生み出す

「地に満ちよ」という命令に従うためには、男と女がいなければならず、彼らは結婚しなければなりません。創世記1章と2章には、このような神様の働きが書かれています。

これは女性としての驚くべき才能です。女性は夫から受けるものを何も考えずに、自分の胎内に赤ん坊を作り、出産することができます。神は女性の体をこのように美しく創造され、神の力によって、神のこころに従って、女性は生命を生み出すのです。

創世記3章20節に、アダムは「人は妻の名をエバと呼んだ。彼女が、生きるものすべての母だからであった」とあります。このことを考えてみてください。私たちはこのことを当然のこととっていますが、アダムとエバを除くすべての人間は、女性から生まれているのです。救い主イエス・キリストも処女マリアから生まれました。神の永遠の御子が女から生まれることは、神のこころであり、神の計画でした。

創世記3章15節で蛇に向かって、「わたしは敵意を、おまえと女の間、おまえの子孫と女の子孫の間に置く。彼はおまえの頭を打ち、おまえは彼のかかとを打つ。」と言ったのは、まさにこのことなのだ。神は、「女の子孫」と言って、救いにおける女の役割を強調された。

私たちは、キリストが新しいアダムであることを知っていますが、神が男性と女性を相互依存関係で創造されたことを見えています。第一コリント11:11-12には、「とはいえ、主にあっては、女は男なしにあるものではなく、男も女なしにあるものではありません。女が男から出たのと同様に、男も女によって生まれるのだからです。しかし、すべては神から出ています。」

Titus 2:4-5 says Older women should “train the young women to love their husbands and children, to be self-controlled, pure, working at home, kind, and submissive to their own husbands, that the word of God may not be reviled.”

1 Timothy 5:14 says, “So I would have younger widows marry, bear children, manage their households, and give the adversary no occasion for slander.”

Through submissive, respectful, fearless following of their husbands and managing of their homes, wives and mothers make themselves extremely precious to God as well as defend the reputation of God’s Word—the Bible, and the reputation of God’s Bride—the church.

This means the role of the wife and mother as caretakers of their homes, husbands, and children is indispensable to the mission of the church. If wives and mothers forsake their God-given role as helpers to their husbands then God’s Word and God’s church will be mocked and the women themselves will not be pleasing to God. In other words, the home and its management is VERY important to God!

#### Life-giver

In order to obey the command to fill the earth there had to be a man and a woman and they had to be married. This is what we see God do in Genesis 1 and 2.

This is an incredible gift of womanhood. Women take what they receive from their husband and, without even thinking about it, create a human baby in their womb and give birth to them! God has created women’s bodies in such a beautiful way that, by his power and according to his will, women create life.

In Genesis 3:20 it says that Adam “called his wife Eve, because she was the mother of all living.” Think about this! We take this for granted, but every single human that has ever lived (with the exception of Adam and Eve) has been born from a woman! Even, Jesus Christ, the savior of the world was born from the virgin, Mary. It was God’s will, his plan that the eternal Son of God would be born of a woman.

This is exactly what he said in Genesis 3:15 speaking to the serpent, “I will put enmity between you and the woman, and between your offspring and her offspring; he shall bruise your head, and you shall bruise his heel.” God highlights the role of the woman in salvation by saying, “her offspring.”

We know that Christ is the new Adam, but we see that God has created men and women with a mutual interdependence. 1 Corinthians 11:11-12 says, “Nevertheless, in the Lord woman is not independent of man nor man of woman; for as woman was made from man, so man is now born of woman. And all things are from God.”

### 箴言31の女

箴言31:10-31に理想の妻像の記述がある。その冒頭には、「しっかりした妻をだれが見つけられるだろう。」とあります。もう、これは威圧的です。これは、卓越した基準について述べているのです。しかし、聖霊の力によって、私たちは義と聖を追求し、その目標に近づいていくことができるのです。この箇所のすべてを見ることができませんが、一般的に、私たちはここで何がわかるのでしょうか？

この女性は夫から信頼されています。彼女は毎日、夫のために良いことをしようとします。彼女は非常に勤勉で実りある働き手であり、財を生産する人です。彼女は家庭内の人々を大切にします。彼女は、財政とビジネスに関して、賢明で洞察力に富んでいる。彼女は自分の仕事を遂行するために、自分自身を肉体的に強くしている。困っている人に思いやりがある。困難なときにも不安や恐れを抱かず、未知の未来に笑いかける。生徒を親切に導く賢い教師である。子供や夫に褒められる。そして、これらすべての基礎となるのは、彼女が世俗的な承認を求めるのではなく、主を恐れていることです。彼女の労働の果実は、彼女の価値を証明するものです。

### 結婚しても、しなくても男女の役割

意外と聞こえるかもしれませんが、一般的には、結婚しているかどうかにかかわらず、上記の説明はすべての男女に当てはまります。男性は、指導し、提供し、保護するために神によって創造されました。男性は、地を治め、支配するために働く技術を身につけようとするはずでありません。女性との関わり方は、親切、優しさ、自己犠牲であるべきです。男性がこれらの特徴をどの程度女性に示すかは、その女性との関係によって決まります。ある男性は、同僚の女性に対して、自分の母親や姉妹や友人に対してとは異なる方法で、親切で優しい態度を示すでしょう。

一般的に、女性は結婚しているかどうかにかかわらず、男性のリーダーシップを受け入れ、尊重するように造られています。女性は（知恵を持って）男性から養いと保護を受けなければなりません。女性は、男性が持ってくる原材料を使い、そこから美しいものを作り出すように造られています。女性は命を与える存在です。繰り返しになりますが、女性が男性のリーダーシップに服従する方法は、その関係性によって異なります。職場で先輩の女性が、後輩の男性同僚に接するのと、父親や友人、兄弟に接するのでは、関わり方が違って来るでしょう。

墮落では、男性と女性（そして動物も）の役割が完全に逆転しているのがわかります。動物が女に話しかけ、女は夫に食べ物を与え、夫は女が与えたものを食べます。そして、神が何が起こったかを見に来たとき、男は妻を守るところが責め、女は蛇に騙されたと告白します。

イエスは、罪のない新しい人類を創造する新しいアダムとして来られました。また、神の民である教会の花婿としても描かれています。イエスは唯一の完全な人でした。イエスの死と復活を通して、私たちは聖霊によって、男女というユニークで相補的な役割の中で、神が意図したとおりの神の姿を反映する力を与えられます。

### Proverbs 31 Woman

In Proverbs 31:10-31 there is the description of the ideal wife. It begins, "An excellent wife who can find?" Already, this is intimidating. This is talking about a standard of excellence. Because of the effect of sin in our lives we know that we cannot attain any standard with perfection, but by the power of the Holy Spirit we can pursue righteousness and holiness with ever-increasing nearness to our goal. There is not space to look at every line of this proverb, but in general, what do we see?

This woman is trusted by her husband. She seeks to do good to her husband every day. She's a very diligent and fruitful worker and producer of goods. She cares for those in her household. She is wise and perceptive with finances and business. She makes herself physically strong so as to carry out her work. She is compassionate toward the needy. She is not anxious or fearful in times of difficulty but laughs at the unknown future. She is a wise teacher that leads her students toward kindness. She is praised by her children and husband. And above and foundational to all this she fears the LORD rather than seeking worldly approval. The fruit of her labor is a testament to her quality.

### **Men and Women whether married or not:**

This may be surprising, but in general, the above descriptions still apply to all men and women whether or not you are married. Men are created by God to lead, provide, and protect. Men should seek to gain skills for working to subdue the earth and rule over it. The way they relate to women should be with gentleness, kindness, tenderness and self-sacrifice. The degree to which men show these qualities toward the women in their lives will depend on their relationship to those women. A man will be kind and tender toward his female coworker in a different way than he will toward his own mother or sister or friend.

In general, women, whether married or not, are created to be receptive to and respectful of the leadership of men in their lives. Women should (with wisdom) receive the provision and protection of men. Women are created to take the raw materials that men bring and create something beautiful out of it. Women are life-givers. Again, the way a woman submits to the leadership of the men in her life will differ depending on their relationship. A female superior in the workplace will relate to her inferior male coworker differently than she will to her father, her friend, or her brother.

In the Fall we see the roles of men and women (and even animals) totally inverted. The animal talks to the woman, the woman gives the food to her husband and he eats what she gives to him. Then, when God comes to see what has happened, the man, rather than protecting his wife, blames her, and the woman confesses she was deceived by the serpent.

Jesus came as the new Adam who would create a new humanity with no sin. He is also depicted as the bridegroom of God's people, the church. Jesus was the only perfect man. Through his death and resurrection we are empowered by the Holy Spirit to reflect the image of God as he intended for us in our unique and complementary roles as men and women.

# ディスカッション

以下の質問について考え、グループで話し合う準備をしましょう。

1. この学びの中で、あなたにとって新しい情報はありましたか？ もしあれば、どの部分ですか？
  2. これを読んで、男であること / 女であることの意味について、聖書に反するような世の中のメッセージがあなたの見方に影響を与えていることに気づきましたか？
  3. 男性 / 女性として、どのような点がおろそかになっていて、改善する必要があると感じていますか？
  4. 私たちの文化には、聖書的な男らしさ、女らしさのどのような側面が欠けているのでしょうか。これを変えるために、私たちは何ができるのでしょうか？
  5. あなたのためにどのように祈ればいいですか？
- 一緒に祈りの時間を持ってください。特に祈り課題のために祈ってください。

# Discussion

**Think about these questions and be prepared to discuss together with your group.**

1. Was any of this study new information for you? If so which part?
2. After reading this, do you recognize any messages from the world that have affected your view on the meaning of being a man/woman in a way that is contrary to Scripture?
3. What aspect of being a man/woman do you feel you have neglected and need to improve?
4. What aspects of biblical manhood and womanhood are lacking in our culture? What can we do to change this?
5. How can we pray for you?

**Spend some time praying together. Pray specifically for the requests that were mentioned.**



## **第8章：働くこと**

**1:26-28、 2:15、 18； 3:8-24**

## **Chapter 8: Work**

**1:26-28, 2:15, 18; 3:8-24**

# 事前の勉強

創世記1:26-28; 2:15、18; 3:8-24を読んで、この質問を考えてみてください。

- ・ 仕事というと、どんなことが思い浮かべますか？ どんな感情？
- ・ あなたの生活の中で、さまざまな種類の仕事や役割を考えてみてください。その中で、あなたはどのような責任を負っているのでしょうか？

## 学び

### 働くために創造された（神のかたち）

私たちがこの地球上で行う仕事は、単なる手段であると考えるのは非常に簡単です。これは、楽しむためのお金を手に入れるために働くというように見えるかもしれませんが。あるいは、家族を養うためにお金を持つという、あまり利己的でない考え方もありません（1テモテ5:8）。仕事はこれだけではありません。私たちのこの地上での時間は、単に天国に行くための手段ではありません。私たちの地上での時間は、ただ嫌々ながらやり過ごすための時間ではありません。私たちにはこの地上での目的があるのです。その目的を知るにはどうしたらいいのでしょうか。それは、私たちがどのように、そしてなぜ創造されたのかを見ることから始まります。

数回前のレッスンで、私たちは神のかたちに創造されたことを学びました。つまり、人間は神に似ていて、神を象徴しているということです。言い換えれば、人は、子供が親にするように、神をイメージし、似せ、反映させ、似せ、表現するように創造されたのです。

私たちは、神様がどのような方なのかを見ることで、目的を知ることができます。聖書を読むと、神様は行動と仕事の神様であることがわかります。創世記では、神様の最初の仕事は、創造であることがわかります。神様は、世界とそこにあるすべてのものを創造されました。創世記2:1-3にそう書かれているので、これが仕事であることがわかります。

「こうして天と地とその万象が完成した。神は第七日に、なさっていたわざを完成し、第七日に、なさっていたすべてのわざをやめられた。神は第七日を祝福し、この日を聖なるものとされた。その日に神が、なさっていたすべての創造のわざをやめられたからである。」

神は、私たちが生きるためのパターンを定めているのです。仕事と休息です。休息については、別の勉強でもっと詳しく見ていきます。また、働くことは人生の良い一部であることは、聖書の至る所に書かれているので、私たちは知っています。いくつかの聖句を紹介しましょう。創世記では、神様が毎日を創造し終わった後、「良かった」と言われました。

# Pre-Study

Read Genesis 1:26-28; 2:15,18; 3:8-24, and think about these questions:

- When you think of work, what goes through your mind? Thoughts? Feelings?
- Think of the different types of work or roles that you have in your life. What are your responsibilities within those?

# Study

## Created to work (Image of God)

It is very easy for people to believe that our work here on this earth is just a means to an end. This could look like working so that you can have money to have fun. Or maybe it's a less selfish mindset of having money to provide for your family, which we should do. (1 Timothy 5:8) Work is more than just this. Our time on this earth is not just a means to get to heaven. Our time on earth is not just time to begrudgingly get through. We have a purpose on this earth. How can we figure out this purpose? It starts by looking at how and why we were created.

A couple of lessons ago we learned that we were created in the image of God. This means that man is like God and represents God. In other words, man was created to image, to be like, to reflect, to resemble, to represent God, just as a child does their parents.

We can learn our purpose by seeing what God is like. As we look through the Bible we can see that God is a God of action and work. Here in Genesis, we see that his first work is one of creation. God created the world and everything in it. We know this is work because it says so in Genesis 2:1-3.

“Thus the heavens and the earth were finished, and all the host of them. And on the seventh day God finished **his work** that he had done, and he rested on the seventh day from all **his work** that he had done. So God blessed the seventh day and made it holy, because on it God rested from all **his work** that he had done in creation.”

God is setting up a pattern for us to live by. Work and rest. We will be looking at rest more thoroughly in another study. We also know that work is a good part of life because it says so throughout the Bible. We will look at several of these verses in a moment. Here in Genesis, after God finished creating each day He said that it was good.

家庭や仕事で仕事を終えたとき、同じようなことを考えることがありますか？ タスクを終えて、「良かった」と言うことはありますか？ もしかしたら、ある種のタスクのときだけポジティブな感情を抱くのかもかもしれませんね。私の場合、大変なことや楽しいことをやり遂げたときに達成感を感じます。また、「やってよかった」と思うこともあります。私たちの感情は、その時々には起きていることに左右されることがあります。ある時は家族のために夕食を作るのが好きだったのに、今はそれが嫌になる。もしかしたら、仕事を始めた頃は大好きだったのに、今は満たされない気持ちになっているかもしれません。

### **働くことについて何を言っているかを聖書全体で見てみましょう**

コロサイ人への手紙3: 23 「何をすることも、人に対してではなく、主に對してするように、心から行いなさい。」

箴言16:3 「あなたのわざを主にゆだねよ。 そうすれば、あなたの計画は堅く立つ。」

伝道者の書3:12-13 「私は知った。人は生きている間に喜び楽しむほか、何も良いことがないのを。 また、人がみな食べたり飲んだりして、すべての労苦の中に幸せを見出すことも、神の賜物であることを。」

伝道者の書5:18-20 「見よ。私が良いと見たこと、好ましいこととは、こうだ。神がその人に与えたいのちの日数の間、日の下で骨折るすべての労苦にあって、良き物を楽しみ、食べたり飲んだりすることだ。これが人の受ける分なのだ。 実に神は、すべての人間に富と財を与えてこれを楽しむことを許し、各自が受ける分を受けて自分の労苦を喜ぶようにされた。これこそが神の賜物である。 こういう人は、自分の生涯のことをあれこれ思い返さない。神が彼の心を喜びで満たされるからだ。」

箴言18: 9 「自分の仕事をさえ怠ける者は、 滅びをもたらず者の兄弟である。」

エペソ人への手紙4: 28 「盗みをしている者は、もう盗んではいけません。むしろ、困っている人に分け与えるため、自分の手で正しい仕事をし、労苦して働きなさい。」

テサロニケ人への手紙 第二3: 10 「あなたがたのところに行ったとき、働きたくない者は食べるな、と私たちは命じました。」

詩篇90: 17 「私たちの神 主の慈愛が 私たちの上にありますように。 私たちのために 私たちの手のわざを 確かなものにしてください。 どうか 私たちの手のわざを 確かなものにしてください。」

ヨハネの福音書6: 27 「なくなってしまう食べ物のためではなく、いつまでもなくなる、永遠のいのちに至る食べ物のために働きなさい。それは、人の子が与える食べ物です。この人の子に、神である父が証印を押されたのです。」

Do you have similar thoughts when you finish a task at home or at your job? Do you finish a task and say that it is good? Maybe you only have positive feelings when it is a certain type of task. As for me, I feel accomplished when I completed something really hard or something that I enjoy. There are other times when I am just glad I finished. Our emotions towards the things we do can often be swayed by what's happening during that time of our life. At one point I may have loved cooking dinner for my family, but now I dread it. Maybe, I loved my job when I started, but now I feel unfulfilled.

**Let's see what the rest of the bible says about work.**

Colossians 3:23 says, "Whatever you do, work heartily, as for the Lord and not for men."

Proverbs 16:3 says, "Commit your work to the Lord, and your plans will be established."

Ecclesiastes 3:12-13 says, "I perceived that there is nothing better for them than to be joyful and to do good as long as they live; also that everyone should eat and drink and take pleasure in all his toil—this is God's gift to man."

Ecclesiastes 5:18-20 says, "Behold, what I have seen to be good and fitting is to eat and drink and find enjoyment in all the toil with which one toils under the sun the few days of his life that God has given him, for this is his lot. Everyone also to whom God has given wealth and possessions and power to enjoy them, and to accept his lot and rejoice in his toil—this is the gift of God. For he will not much remember the days of his life because God keeps him occupied with joy in his heart."

Proverbs 18:9 says, "Whoever is slack in his work is a brother to him who destroys."

Ephesians 4:28 says, "Let the thief no longer steal, but rather let him labor, doing honest work with his own hands, so that he may have something to share with anyone in need."

2 Thessalonians 3:10 says, "For even when we were with you, we would give you this command: If anyone is not willing to work, let him not eat."

Psalms 90:17 says, "Let the favor of the Lord our God be upon us, and establish the work of our hands upon us; yes, establish the work of our hands!"

John 6:27 says, "Do not work for the food that perishes, but for the food that endures to eternal life, which the Son of Man will give to you. For on him, God the Father has set his seal."

箴言21: 5 「勤勉な人の計画は利益をもたらし、すべて慌てる者は損失を招くだけだ。」

箴言12: 11 「自分の畑を耕す者は食に満足するが、空しいものを追い求める者は良識がない。」

聖書は、仕事について、私たちの生活の悪い面であるかのように語ってはいません。聖書は、労働が必要なものであることを示しています。私たちは神様に似せて造られたのですから、仕事は私たちの人生にとって重要な部分であるべきです。神は、仕事によって人生を創造されました。創世記1:28と2:15では、神様が創造されたものを大切にすることを人類に与えています。そしてそれは、神が創造したものを維持するだけでなく、創造し続け、従わせ続けることでもあるのです。

イエス様はマタイ25章で、お金を預けた主人に3人の労働者がつくといたとえ話をされました。2人の労働者はそのお金を取って、さらにお金を作った。一人の労働者はお金を隠し、何もしなかった。その労働者は、そのお金で何も良いことをしなかったので、非難された。

私たちのこの地上での目的は、自分や家族に何も起こらないように隠れることよりも、もっと大きなものです。それは、神が庭でアダムとエバに与えた責任を果たすことです。創世記1: 28 「神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。『生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。』」創世記2: 15 「神である主は人を連れて来て、エデンの園に置き、そこを耕させ、また守らせた。」

### 働くことの種類

私たちの生活における仕事とはどのようなものなのか、聖書をもとに見ていきましょう。

創世記が私たちの義務を表す言葉には、「従わせる」、「支配する」、「生む」、「増える」、「耕す」、「守る」といったものがあります。これらの義務は、現代の私たちにとってどのようなものでしょうか。最初の3つは以前の学習で説明したので、最後の2つを見てみましょう。この2つは、創世記1:28の最初の3つの義務から派生したものです。

耕すと守るは、「準備する」「手入れする」の意味を持つ。その後、民数記3:8で、この二つの動詞は再び一緒に使われています。神様はレビ人に、ご自分の神殿をどのように世話する必要があるかを語っておられます。神殿に仕え、神殿を守る必要があると言っています。

Proverbs 21:5 says, “The plans of the diligent lead surely to abundance, but everyone who is hasty comes only to poverty.”

Proverbs 12:11 says, “Whoever works his land will have plenty of bread, but he who follows worthless pursuits lacks sense.”

The Bible does not talk about work like it is a bad aspect of our life. The Bible shows it to be a necessity. Since we are created in the image of God, then work should be a vital part of our life. God created life with his work. In Genesis 1:28 and 2:15, God is giving responsibility to mankind to take care of what he created. And this is not just to maintain what God has created, but to continue creating and subduing.

Jesus tells a parable in Matthew 25 about 3 workers to a master who entrusted money. Two workers took the money and made more money. One worker hid the money and did nothing with it. That worker was condemned for doing nothing positive with it.

Our purpose on this earth is greater than hiding away so that nothing ever happens to you or your family. It is living out the responsibility that God gave Adam and Eve in the Garden. Genesis 1:28 says, “God blessed them and said to them, “Be fruitful and increase in number; fill the earth and subdue it. Rule over the fish in the sea and the birds in the sky and over every living creature that moves on the ground.” Genesis 2:15 says, “The Lord God took the man and put him in the Garden of Eden to work it and take care of it.”

### **Types of Work**

Let’s take a look at what work in our lives looks like based on the Bible.

Some of the words Genesis uses for our duties are “to subdue,” “have dominion,” “be fruitful and multiply,” “to work and keep.” What do these duties look like for us today? Since the first three were discussed in a previous study, let’s take a look at the last two. These two flow from the duties of the first three in Genesis 1:28.

To work and to keep give meanings of to prepare and to tend. Later on, in Numbers 3:8 these two verbs are used again together. God is telling the Levites how they need to care for his temple. He says they need to serve it and guard it.

園が神からアダムに与えられて世話をし、神殿が祭司に与えられて世話をしたのだから、私たちも神から与えられたものを大切にしなければならない。コロサイ3:17には、私たちが行うことが何であれ、主の御名によって行うべきであるとあります。教えること、会計、農業、建築、牧師、園芸、母親、父親など、どんな仕事が目の前にあっても、この地球の管理人（耕す）、働き手（守る）としての役割を果たすために行うべきなのです。

人生の中で、配偶者、親、教会のメンバーなど、同じような責任を負う局面があるでしょう。私たちは、人間ではなく、神様に敬意を表するような形で、それらの役割を守る必要があります。イエスが地上で奉仕されたように、私たちもそのような役割を果たす必要があるのです。

あなたが置かれている生活の状況によって、仕事の内容は違ってきます。アダムとエバは、そこに住んでいる間、耕し、守りました。彼らが去ったとき、彼らの仕事は違うものに見えるでしょう。彼らはそこに住んでいなかったのも、もはやエデンの園を手入れしていない。彼らは引越した先で地面を耕す必要があったのだろう。農作物を奪おうとする動物から守らなければならないかもしれない。

前職が東京で、今は仙台で仕事をしているのであれば、目の前の仕事に集中し、注意を払うべきでしょう。過去や未来を夢見るために、現在の職務をおろそかにしてはならないのです。箴言12章11節に、私たちは今いる土地で懸命に働く必要があり、価値のない追求に従わないようにしなければならない、とありました。

しかし、私たちには問題があります。それは罪と呼ばれるものです。罪はアダムとエバを通してこの世に入り込みました。このため、私たちの住む世界は呪われています。この呪いによって、私たちの仕事はより困難になりました。創世記3章では、私たちの外での仕事、家庭での仕事はより困難になったと書かれています。

そして、罪のために、私たちは今、救い主を必要としています。神様の息子であるイエス様は、私たちのためにその救い主となってくださいました。救われた人たちは、教会と呼ばれています。教会には、この地上において、もう一つの責任が与えられています。マタイ28章に、クリスチャンである私たちの前に置かれたこの責務が記されています。これは「大宣教命令」と呼ばれています。

「ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」



Since the Garden was given by God to Adam to take care of and the temple was given to the priest to take care of, then we need to take care of what God has given us. We see in Colossians 3:17 that whatever it is that we do, we should do it in the name of the Lord. Whatever work is before us, whether it is teaching, accounting, farming, building, ministering, gardening, mothering, fathering, etc., we should do it to fulfill our role as keepers and workers of this earth.

There will be some aspects of life in which we have the same responsibilities like being a spouse, a parent, or a church member. We need to make sure that we guard those in such a way that honors God and not man. We need to serve in those roles like Jesus served during his time on earth.

Depending on the situation of life you are in, your work will look different. Adam and Eve worked and tended the Garden while they lived there. Their work would look different when they left. They no longer tended the garden of Eden because they didn't live there. They likely had to work the ground where they moved to. They had to likely protect from animals that try to take produce.

If you had a previous job in Tokyo, but now you have a job in Sendai, your focus and attention should be on the work that is in front of you. We should not neglect our duties in the present to dream about the past or the future. We saw in Proverbs 12:11 that we need to work hard in the land we are in and not follow worthless pursuits.

We have a problem though. It is called sin. Sin entered the world through Adam and Eve. Because of this, the world we live in is cursed. This curse made our work more difficult. Genesis 3 says our work outside and in the home is now more difficult.

And because of sin, we now need a savior. God's son, Jesus became that savior for us. Those who have been saved are called the church. The church has been given another responsibility on this earth. This duty that is placed before us as Christians are found in Mathew 28. This is called the Great Commission.

“Go therefore and make disciples of all nations, baptizing them in[a] the name of the Father and of the Son and of the Holy Spirit, teaching them to observe all that I have commanded you. And behold, I am with you always, to the end of the age.”

私たちは今、霊的な仕事もしなければならぬのです。重要性はこちらの方が高いのですが、創世記1章と2章で神様が与えてくださった仕事をおろそかにするわけにはいきません。神様は、私たちを霊的にも肉体的にも創造されました。つまり、私たちの人生には、その両方の側面があるということです。しかし、これらは互いに相反するものであってはなりません。私たちが持つ仕事は、神の国のための仕事を助けるものでなければなりません。そして、より多くの弟子を作ることが、人生をより良く、より豊かなものにします。しかし、クリスチャンになれば、お金持ちになり、有名になり、夢のようなものをすべて手に入れることができるというわけではありません。私たちの人生には、まだ罪の影響が残っているのです。そして、私たちの夢の問題は、しばしば、罪によって汚染されているか、完全に腐敗していることです。私は、裕福であることや成功することが本質的に間違っているとは言っていません。それらをどのように使うかによって、罪が決まるのです。もし、成功や富が自分勝手に得られたり、自分勝手に使われたりするのであれば、神はそのようなものが王国に入る余地はないとはっきり言っています。もし、それらが神の御心に従って使われるのであれば、神はその成果を大成功で祝福されるでしょう。

では、私たちはどうすればいいのでしょうか。1コリント16章にはこうあります:「目を覚ましていなさい。堅く信仰に立ちなさい。雄々しく、強くありなさい。」

私たちがこの人生で行うことは、すべて愛によってなされるべきです。父親として、夫として、息子として、私は家族を愛しているので、家族を扶養し、保護します。母として、妻として、娘として、私は家族を愛しているので、家族のために支え、養い、創造します。私は労働者として、主のために懸命に働きます。クリスチャンとして、私は福音を伝え、励まし、暗闇の世界の光となることで、人々を愛します。神のかたちとして、私は神の創造物を従わせ、耕し、増え、そして神がこの世でなさっている働きのイエスの模範に従うことで神の創造を愛することができます。

We now have spiritual work to do as well. The importance is greater here, but we cannot neglect the work that God gave us in Genesis 1 and 2. God created us both spiritually and physically. This means that our lives will have aspects of both. These should not be in conflict with one another. The jobs we have should aid our work for the kingdom of God. Making more disciples will then make life better and more prosperous. This does not mean that if you are a Christian then you will be rich, famous, and own all your eyes could dream up. We still have sin's effects in our lives. And often the problem with our dreams is that they are tainted or completely corrupted with sin. I am not saying that being wealthy or having success is inherently wrong. How we use those things determines sin. If success or wealth is selfishly gained or selfishly used, then God is clear that there is no room in the kingdom for such things. If they are used according to the will of God, then he will bless the outcomes with great success.

So what are we to do? 1 Corinthians 16 says,  
"13 Be watchful, stand firm in the faith, act like men, be strong. 14 Let all that you do be done in love."

Everything we do in this life should be done in love. As a dad, a husband, and a son, I love my family so I provide for and protect them. As a mom, a wife, and a daughter, I love my family so I support, nourish, and create for them. As a worker, I work hard as a worker for the Lord. As a Christian, I love others by sharing the gospel, being encouraging, and being a light in a world of darkness. As an image bearer, I love God's creation by subduing, tending, multiplying, and looking to the example of Jesus of what God does here on this earth.

# ディスカッション

以下の質問について考え、グループで話し合う準備をしましょう。

1. 私たちのこの地上での生活は、肉体的なものと霊的なものの両方があります。私たちは、その両方に対して責任を負っています。創世記1~3章の働きとマタイ28章の働きをさらに進めるために、神様はあなたにどのような役割を与えておられるのでしょうか。
2. 多くの人は、自分の仕事を単なる手段としてしか見ていません。家の外での仕事は、ただお金のためかもしれません。家庭内での仕事は、個人的な快適さのため、あるいは子供を成人させるためだけかもしれません。神の国のために自分の仕事を活用するにはどうしたらいいのでしょうか。
3. 人のためだけでなく、主のために働くにはどうしたらいいのでしょうか。
4. 恐れや不安は、神の働きに心や体を注がない要因になりがちです。あなたの人生において、このことをどのように見えましたか？
5. この世の快樂ではなく、永遠の光に照らされて働くために、何を変えればいいのでしょうか？ (例えば、「人にどう思われるか心配で、福音を伝えるのが怖い」。あるいは、「神様が私のような者を使えるとは思えないので、家庭や職場、地域社会での責任から身を引いてしまう」)

一緒に祈りの時間を持ってください。特に祈り課題のために祈ってください。

# Discussion

**Think about these questions and be prepared to discuss together with your group.**

1. Our life here on earth is both physical and spiritual. We have responsibilities for both. What roles has God put you in to further the work from Genesis 1-3 and the work in Matthew 28?
2. Many people look at their job as just a means to an end. A job outside the home may just be for money. Working in the home may just be for personal comfort or for getting kids to adulthood. How can you leverage your work for the kingdom of God?
3. How can you work for the Lord and not just for people?
4. Fear and insecurities are often factors of not putting hearts and bodies into the work of God. How have you seen this in your life?
5. What can you change to work in the light of eternity instead of the pleasures of this world? (For example, "I am afraid to share the gospel with others because of what they may think of me." Or "I don't feel like God can use someone like me, so I cower from responsibilities in my home, my workplace, or my community.")

**Spend some time praying together. Pray specifically for the requests that were mentioned.**

**第9章：安息日の休み  
2:1-3**

**Chapter 9: Sabbath Rest  
2:1-3**

# 事前の勉強

創世記 2:1-3、出エジプト記 20:8-11、マタイの福音書 12:1-4、ヘブル人への手紙 3:7-4:14を読んでみてください。これらの質問を考えましょう。

- 安息日の目的は何ですか？
- クリスマンである私はどう安息日に従えばいいでしょうか？

## 学び

創世記における休み 1:31-2:3

神は6日間で創造の業を終えられた。その創造物はすべて非常に良いものであった。7日目、つまり土曜日、神はその仕事を休まれました。最初の6日間で行っていた創造の業を止められたのです。神はこの日を他の日とは異なるものとして扱われたので、この日を祝福し、聖なる日とされた。

安息日の実践は、天地創造からの神の模範に基づくものです。それは神によって確立され、後述するように、その民が永遠に守るように神によって命じられたものである。

旧約聖書の残りの部分における安息日

出エジプト記20章と申命記5章には、安息日は10戒めのうちの第4の戒めとして記録されています。出エジプト記20章11節で、モーセはイスラエルの民に、安息日を守らなければならないのは、主が6日間で創造の業を行い、7日目に休まれたからだと言っています。神の民であるイスラエル人は、6日間働き、7日目に休むという神の模範に従わなければならない。

申命記5:12-15でモーセが安息日を守る理由として挙げているのは、神が命じたからであり、エジプトの奴隷状態から贖われたことを思い出すための特別な日である。つまり、イスラエルが土曜日に休む理由の一つは、神がもたらした自分たちの救いを思い出すための時間を取るためだったのです。

出エジプト記31:12-18で、神はイスラエルをエジプトから連れ出した後、シナイ山でモーセに律法を授けているとき、モーセに言った、「イスラエルの子らはこの安息を守り、永遠の契約として、代々にわたり、この安息を守らなければならない。これは永遠に、わたしとイスラエルの子らとの間のしるしである。それは主が六日間で天と地を造り、七日目にやめて、休息したからである。」

# Pre-Study

Read Genesis 2:1-3; Exodus 20:8-11; Matthew 12:1-14; Hebrews 3:7-4:14. Think about these questions:

- What is the intent of the Sabbath?
- How does the Sabbath apply to me as a Christian?

# Study

## Rest in Genesis 1:31-2:3

God finished his work of creation in six days. All his creation was very good. On the seventh day, what would be Saturday, God rested from his work. He stopped doing his work of creation that he had been doing the first six days. Because God treated this day differently from the other days he blessed it and made it holy.

The practice of Sabbath is founded in God's example from creation. It was established by God and, as we will see, commanded by him to be kept by his people forever.

## Sabbath in the rest of the the Old Testament

In Exodus 20 and Deuteronomy 5 the Sabbath is recorded as the fourth commandment of the 10 commandments. In Exodus 20:11 Moses tells the Israelites the reason they must keep the Sabbath is because the LORD did his work of creation in six days and rested on the seventh. The Israelites, being God's people must follow God's example of working six days and resting on the seventh.

In Deuteronomy 5:12-15 the reason Moses gives for keeping the Sabbath is because God commanded it and it is a special day to remember that they have been redeemed from slavery in Egypt. So part of the reason for Israel to rest on Saturday was to take time to remember their salvation that God brought about.

In Exodus 31:12-18 as God is giving the law to Moses on Mount Sinai after he brought Israel out of Egypt he tells him, "Therefore the people of Israel shall keep the Sabbath, observing the Sabbath throughout their generations, as a covenant forever. It is a sign forever between me and the people of Israel that in six days the LORD made heaven and earth, and on the seventh day he rested and was refreshed."



安息日はモーセの契約の外側のしるしでした。それは、イスラエルが神の聖なる民であることを識別するために行うものでした。それはイスラエルに永遠に与えられたしるしであった。旧約で安息日を破ることは、死の罰に値するものでした。

レビ記26章2-35節で、神はイスラエルが安息日を守って神に忠実でないなら、その地が安息日を楽しめるように、彼らを追放すると警告しています。レビ記26:34にはこうあります、「そのとき、その地が荒れ果て、あなたがたが敵の国にいる間、その地は休む。そのとき地はその安息を享受する。」

しかし、残念ながら、第2歴代誌36:20-21を見ると、イスラエルは神の警告を聞かなかったため、バビロンに流されたことがわかります。21節にはこうあります、「これは、エレミヤによって告げられた主のことばが成就して、この地が安息を取り戻すためであった。その荒廃の全期間が七十年を満すまで、この地は安息を得た。」

神がイスラエルを流刑地から連れ戻した後も、彼らは安息日を破った。彼らは律法に従うことを学んでいなかったのです。ネヘミヤ13:15-22でネヘミヤは、人々がまだ安息日に働いていたことと、それを防ぐためにとった手段を記録しています。

最後に、エレミヤ31:31-34で、神はご自分の民のために新しい契約を約束されました。約束されたのはわたしは、わたしの律法を彼らのただ中に置き、彼らの心にこれを書き記す。」ですから、新しい契約では、神の民は、私たちのうちに住んでおられる聖霊の力によって、心から律法を守ることができるようになるのです。

### イエスと安息日

イエスは律法を廃止するために来られたものではありません。律法を成就させるために来られたのです。マタイ5:17で、イエスはこのように言われました、「わたしが律法や預言者を廃棄するために来た、と思っはなりません。廃棄するためではなく成就するために来たのです。」

1世紀のユダヤ教の指導者たちは、安息日を守るために多くの余分な規則を作り出しましたが、それによって安息日を重荷にしてしまったのです。彼らは安息日の真の意味、つまり神の民のための休息とリフレッシュを忘れてしまったのです。マルコ2:27-28で、イエスは言われた、「安息日は人のために設けられたのです。人が安息日のために造られたものではありません。ですから、人の子は安息日にも主です。」

イエスは安息日の真の意味を示すために、安息日に頻繁に癒しを行いました。ルカ13:12-17の例を挙げます：イエスは彼女を見ると、呼び寄せて、「女の方、あなたは病から解放されました」と言われた。

The Sabbath was the outward sign of the Mosaic covenant. It was something that Israel did that identified them as God's holy people. It was a sign given to Israel forever. To break the Sabbath in the old covenant was worthy of the penalty of death.

In Leviticus 26:2-35 God warns Israel that if they do not remain faithful to him by keeping the Sabbath then he will send them into exile so that the land can enjoy its Sabbath rest. Leviticus 26:34 says, "Then the land shall enjoy its Sabbaths as long as it lies desolate, while you are in your enemies' land; then the land shall rest, and enjoy its Sabbaths."

However, unfortunately, we see in 2 Chronicles 36:20-21 that Israel did not listen to God's warning so they were taken into exile in Babylon. Verse 21 says, "All the days that it lay desolate it kept Sabbath, to fulfill seventy years."

Even after God brought Israel back from Exile they still broke the Sabbath. They had not learned to obey the law. In Nehemiah 13:15-22 Nehemiah records how the people were still working on the Sabbath and the steps he took to prevent this from happening.

Finally in Jeremiah 31:31-34 God promises a new covenant for his people. He promises "I will put my law within them, and I will write it on their hearts." So in the new covenant God's people will be able to obey the law from their hearts by the power of the Holy Spirit who lives in us.

### Jesus and the Sabbath

Jesus did not come to abolish the law. He came to fulfill it. In Matthew 5:17 Jesus said this, "Do not think that I have come to abolish the Law or the Prophets; I have not come to abolish them but to fulfill them."

The Jewish leaders in the first century had created a lot of extra rules to ensure the keeping of the Sabbath, but through this they had made Sabbath a burden. They forgot the true meaning of the Sabbath, which is rest and refreshment for God's people. In Mark 2:27-28 Jesus said, "The Sabbath was made for man, not man for the Sabbath. So the Son of Man is lord even of the Sabbath."

Jesus frequently healed on the Sabbath to show the true meaning of the Sabbath. Here is an example from Luke 13:12-17:

<sup>12</sup> イエスは彼女を見ると、呼び寄せて、「女の方、あなたは病から解放されました」と言われた。<sup>13</sup> そして手を置かれると、彼女はただちに腰が伸びて、神をあがめた。<sup>14</sup> すると、会堂司はイエスが安息日に癒やしを行ったことに憤って、群衆に言った。「働くべき日は六日ある。だから、その間に来て治してもらいなさい。安息日にはいけない。」<sup>15</sup> しかし、主は彼に答えられた。「偽善者たち。あなたがたはそれぞれ、安息日に、自分の牛やろばを飼葉桶からほどき、連れて行って水を飲ませるではありませんか。<sup>16</sup> この人はアブラハムの娘です。それを十八年もの間サタンが縛っていたのです。安息日に、この束縛を解いてやるべきではありませんか。」<sup>17</sup> イエスがこう話されると、反対していた者たちはみな恥じ入り、群衆はみな、イエスがなされたすべての輝かしいみわざを喜んだ。

マタイ12:1-13でイエスは、安息日に必要な行為や慈悲を行うことは合法であると教えられました。弟子たちは空腹だったが、空腹を満たすために穀物を収穫し、それを食べた。また、同じ日に会堂に礼拝に行き、手が枯れている人を癒した。12:5-8で彼は教えた：

また、安息日に宮にいる祭司たちは安息日を汚しても咎を免れる、ということを経法で読んだことがないのですか。<sup>6</sup> あなたがたに言いますが、ここに宮よりも大いなるものがあります。<sup>7</sup> 『わたしが喜びとするのは真実の愛。いけにえではない』とはどういう意味かを知っていたら、あなたがたは、咎のない者たちを不義に定めはしなかったでしょう。<sup>8</sup> 人の子は安息日の主です。」

イエスは安息日を廃止されたわけではありません。神殿を成就させたように、安息日を成就させたのです。神殿制度は過ぎ去り、十字架上のキリストの犠牲によって成就したのです。土曜日に礼拝する日であったユダヤ教の安息日は、キリストにおいて成就し、イエスが死からよみがえられた日であるため、日曜日の礼拝に取って代わられました。日曜日の朝、イエスはご自身の新しい栄光の体で新しい創造を始められ、十字架上の死が本当に贖いを達成したことを示されました。

マタイ28章1~10節には、イエスの復活が記録されており、それがユダヤ教の安息日の後、日曜日の朝であったことが記されている：

Now he was teaching in one of the synagogues on the Sabbath.<sup>11</sup> And behold, there was a woman who had had a disabling spirit for eighteen years. She was bent over and could not fully straighten herself.<sup>12</sup> When Jesus saw her, he called her over and said to her, "Woman, you are freed from your disability."<sup>13</sup> And he laid his hands on her, and immediately she was made straight, and she glorified God.<sup>14</sup> But the ruler of the synagogue, indignant because Jesus had healed on the Sabbath, said to the people, "There are six days in which work ought to be done. Come on those days and be healed, and not on the Sabbath day."<sup>15</sup> Then the Lord answered him, "You hypocrites! Does not each of you on the Sabbath untie his ox or his donkey from the manger and lead it away to water it?<sup>16</sup> And ought not this woman, a daughter of Abraham whom Satan bound for eighteen years, be loosed from this bond on the Sabbath day?"<sup>17</sup> As he said these things, all his adversaries were put to shame, and all the people rejoiced at all the glorious things that were done by him.

In Matthew 12:1-13 Jesus taught that it is lawful to do acts of necessity and mercy on the Sabbath. His disciples were hungry, but they harvested grain and ate it in order to satisfy their hunger. On the same day he went to worship at the synagogue and healed a man with a withered hand. In 12:5-8 he taught:

Or have you not read in the Law how on the Sabbath the priests in the temple profane the Sabbath and are guiltless?<sup>6</sup> I tell you, something greater than the temple is here.<sup>7</sup> And if you had known what this means, 'I desire mercy, and not sacrifice,' you would not have condemned the guiltless.<sup>8</sup> For the Son of Man is lord of the Sabbath."

Jesus did not abolish the Sabbath. He fulfilled it just as he fulfilled the temple. The temple system passed away and was fulfilled in Christ's sacrifice on the cross. The Jewish Sabbath that was a day of worship on Saturday was fulfilled in Christ and replaced with worship on Sunday because that is the day Jesus rose from the dead. On Sunday morning Jesus began the new creation with his own new glorious body and he showed that his death on the cross really did accomplish redemption.

Matthew 28:1-10 records Jesus' resurrection and makes note that it was after the Jewish Sabbath on Sunday morning:

さて、安息日が終わって週の初めの日の明け方、マグダラのマリアともう一人のマリアが墓を見に行った。<sup>2</sup>すると見よ、大きな地震が起こった。主の使いが天から降りて来て石をわきに転がし、その上に座ったからである。<sup>3</sup>その姿は稲妻のようで、衣は雪のように白かった。<sup>4</sup>その恐ろしさに番兵たちは震え上がり、死人のようになった。<sup>5</sup>御使いは女たちに言った。「あなたがたは、恐れることはありません。十字架につけられたイエスを捜しているのは分かっています。<sup>6</sup>ここにはおられません。前から言っておられたとおり、よみがえられたのです。さあ、納められていた場所を見なさい。<sup>7</sup>そして、急いで行って弟子たちに伝えなさい。『イエスは死人の中からよみがえられました。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれます。そこでお会いできます』と。いいですか、私は確かにあなたがたに伝えました。」<sup>8</sup>彼女たちは恐ろしくはあったが大いに喜んで、急いで墓から立ち去り、弟子たちに知らせようと走って行った。<sup>9</sup>すると見よ、イエスが「おはよう」と言って彼女たちの前に現れた。彼女たちは近寄ってその足を抱き、イエスを拝した。<sup>10</sup>イエスは言われた。「恐れることはありません。行って、わたしの兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこでわたしに会えます。」

この時から、教会は日曜日の朝に礼拝のために集まるようになりました。この日は「主の日」と呼ばれるようになった。

使徒の働き20:7はこう書かれています：「週の初めの日に、私たちはパンを裂くために集まった。パウロは翌日に出発することになっていたので、人々と語り合い、夜中まで語り続けた。」

第一コリント人への手紙16:1-2、「さて、聖徒たちのための献金については、ガラテヤの諸教会に命じたとおりに、あなたがたも行いなさい。私がそちらに行ってから献金を集めることがないように、あなたがたはそれぞれ、いつも週の初めの日に、収入に応じて、いくらかでも手もとに蓄えておきなさい。」

ヨハネの黙示録1:9-11、

「私ヨハネは、あなたがたの兄弟で、あなたがたとともにイエスにある苦難と御国と忍耐にあずかっている者であり、神のことばとイエスの証しのゆえに、パトモスという島にいた。<sup>10</sup>私は主の日に御霊に捕らえられ、私のうしろにラッパのような大きな声を聞いた。<sup>11</sup>その声はこう言った。「『あなたが見たことを巻物に記して、七つの教会、すなわち、エペソ、スミルナ、ペルガモン、ティアティラ、サルディス、フィラデルフィア、ラオディキアに送きなさい。』」

Now after the Sabbath, toward the dawn of the first day of the week, Mary Magdalene and the other Mary went to see the tomb. <sup>2</sup> And behold, there was a great earthquake, for an angel of the Lord descended from heaven and came and rolled back the stone and sat on it. <sup>3</sup> His appearance was like lightning, and his clothing white as snow. <sup>4</sup> And for fear of him the guards trembled and became like dead men. <sup>5</sup> But the angel said to the women, "Do not be afraid, for I know that you seek Jesus who was crucified. <sup>6</sup> He is not here, for he has risen, as he said. Come, see the place where he lay. <sup>7</sup> Then go quickly and tell his disciples that he has risen from the dead, and behold, he is going before you to Galilee; there you will see him. See, I have told you." <sup>8</sup> So they departed quickly from the tomb with fear and great joy, and ran to tell his disciples. <sup>9</sup> And behold, Jesus met them and said, "Greetings!" And they came up and took hold of his feet and worshiped him. <sup>10</sup> Then Jesus said to them, "Do not be afraid; go and tell my brothers to go to Galilee, and there they will see me."

From that point the church began meeting on Sunday morning for worship. This day began to be called "the Lord's day."

Acts 20:7 says, "On the first day of the week, when we were gathered together to break bread, Paul talked with them, intending to depart on the next day, and he prolonged his speech until midnight."

1 Corinthians 16:1-2 says, "Now concerning the collection for the saints: as I directed the churches of Galatia, so you also are to do. On the first day of every week, each of you is to put something aside and store it up, as he may prosper, so that there will be no collecting when I come."

And Revelation 1:9-11 says:

"I, John, your brother and partner in the tribulation and the kingdom and the patient endurance that are in Jesus, was on the island called Patmos on account of the word of God and the testimony of Jesus. <sup>10</sup> I was in the Spirit on the Lord's day, and I heard behind me a loud voice like a trumpet <sup>11</sup> saying, "Write what you see in a book and send it to the seven churches, to Ephesus and to Smyrna and to Pergamum and to Thyatira and to Sardis and to Philadelphia and to Laodicea."

## 使徒パウロの安息日についての教え

ローマ人への手紙14章で、パウロはクリスチャン同士が意見の相違でどう接するべきかを教えています。おそらく、教会ローマには、安息日は休むべきであり、日曜日の朝は教会で礼拝をするべきだと考えているユダヤ人クリスチャンがいたのでしょう。異邦人クリスチャンは、そんなことは必要ないと思っていたかもしれません。これに対してパウロは言った、

他人のしもべをさばくあなたは何者ですか。しもべが立つか倒れるか、それは主人次第です。しかし、しもべは立ちます。主は、彼を立たせることがおできになるからです。ある日を別の日よりも大事だと考える人もいれば、どの日も大事だと考える人もいます。それぞれ自分の心の中で確信を持ちなさい。

コロサイ2:16-17では、逆の状況だったのかもしれませんが、誰かが、クリスチャンはユダヤ教の安息日を守らなければならないと教えていた可能性があります。これに対してパウロはこう言った、「こういうわけですから、食べ物と飲み物について、あるいは祭りや新月や安息日のことで、だれかがあなたがたを批判することがあってはなりません。<sup>17</sup> これらは、来たるべきものの影であって、本体はキリストにあります。」

ユダヤ人の祭りや安息日を、ユダヤ人に定められたとおりに守る必要はありません。なぜなら、それらはすべて、キリストを預言的に見据えていたからです。それらは影であるが、キリストは実体である。イエスは安息日である。神の民にとって、神の安息である。イエスが私たちのために救いを成し遂げてくださったので、今、私たちはイエスを信じる信仰によって、その恵みによって自由に救いを受けることができます。それは、私たちが一生懸命働いて得たからではなく、イエスが私たちの代わりに働いてくださったからです。

## 最後にヘブル人への手紙の安息日の教え

安息日は、ヘブル人への手紙の大きなテーマです。3章では詩篇95篇を引用し、約束の地はイスラエルの民にとって安息の地と考えられていたが、荒野で反逆して死んだため、神の安息に入れなかった世代がいたことを説明している。ヘブル3:7-11にはこう書かれています：

ですから、聖霊が言われるとおりです。「今日、もし御声を聞くなら、<sup>8</sup> あなたがたの心を頑なにしてはならない。荒野での試みの日に神に逆らったときのように。<sup>9</sup> あなたがたの先祖はそこでわたしを試み、

わたしを試し、四十年の間、わたしのわざを見た。<sup>10</sup> だから、わたしはその世代に憤って言った。

『彼らは常に心が迷っている。彼らはわたしの道を知らない。』

<sup>11</sup> わたしは怒りをもって誓った。『彼らは決して、わたしの安息に入れない。』」

### Paul on the Sabbath

In Romans 14 Paul is teaching on how Christians should treat one another in matters of opinion. Probably, in the church Rome there were Jewish Christians who still felt they should rest on the Sabbath as well as worshipping with the church on Sunday morning. The Gentile Christians may have felt that this was unnecessary. To this Paul said,

Who are you to pass judgment on the servant of another? It is before his own master that he stands or falls. And he will be upheld, for the Lord is able to make him stand.

One person esteems one day as better than another, while another esteems all days alike. Each one should be fully convinced in his own mind.

In Colossians 2:16-17 it may have been the opposite situation. It is possible someone was teaching that Christian must still observe the Jewish Sabbath. To this Paul said, "Therefore let no one pass judgment on you in questions of food and drink, or with regard to a festival or a new moon or a Sabbath. <sup>17</sup> These are a shadow of the things to come, but the substance belongs to Christ."

It is not necessary to observe the Jewish festivals and Sabbath days as they were prescribed for the Jewish people because all of those were prophetically looking forward to Christ. They are the shadow, but Christ is the substance. Jesus is the Sabbath. He is the rest of God for God's people. Jesus accomplished salvation for us so now, through faith in him we receive salvation freely by his grace. It is not because we have worked hard and earned it, but because Jesus did the work on our behalf.

### Last, the Letter to the Hebrews on Sabbath

Sabbath is a big theme in the letter to the Hebrews. In chapter 3 the writer quotes Psalm 95 and explains how the Promised Land was thought to be a place of rest for the Israelites, but there was a whole generation that did not enter into God's rest because they rebelled and died in the wilderness. Hebrews 3:7-11 says:

Therefore, as the Holy Spirit says,

8 "Today, if you hear his voice,  
do not harden your hearts as in the rebellion,  
on the day of testing in the wilderness,  
9 where your fathers put me to the test  
and saw my works for forty years.  
10 Therefore I was provoked with that generation,  
and said, 'They always go astray in their heart;  
they have not known my ways.'  
11 As I swore in my wrath,  
'They shall not enter my rest.'"



そして、イスラエルの民が約束の地に入った数百年後にダビデが書いた詩篇95篇には、「今日」と書かれていることを筆者は指摘しています。つまりこれは、約束の地に入ったイスラエルの人々も、本当に神の安息に入ったわけではなく、もっと先があったということです。私たちは、キリストを信じる信仰によって、神の安息に入ることができます。しかし、クリスチャンにとっても、神の安息に入ったとはいえ、まだまだ先があるのです。そして、私たちがその中に入るためには、最後まで信仰で忍耐しなければなりません。ヘブル人への手紙3章12節～4章13節にはこう書かれています：

兄弟たち。あなたがたのうちに、不信仰な悪い心になって、生ける神から離れる者がないように気をつけなさい。<sup>13</sup> 「今日」と言われている間、日々互いに励まし合って、だれも罪に惑わされて頑なにならないようにしなさい。<sup>14</sup> 私たちはキリストにあずかる者となっているのです。もし最初の確信を終わりまでしっかり保ちさえすれば、です。<sup>15</sup> 「今日、もし御声を聞くなら、  
あなたがたの心を頑なにしてはならない。  
神に逆らったときのように」

と言われているとおりです。<sup>16</sup> では、聞いていながら反抗したのは、だれでしたか。モーセに率いられてエジプトを出た、すべての者たちではありませんか。<sup>17</sup> 神が四十年の間、憤っておられたのは、だれに対してですか。罪を犯して、荒野に屍をさらした者たちに対してではありませんか。

<sup>18</sup> また、神がご自分の安息に入らせないと誓われたのは、だれに対してですか。ほかでもない、従わなかった者たちに対してではありませんか。<sup>19</sup> このように、彼らが安息に入れなかったのは、不信仰のためであったことが分かります。

4:1 こういうわけで、私たちは恐れる心を持つてではありませんか。神の安息に入るための約束がまだ残っているのに、あなたがたのうちのだれかが、そこに入れなかったということのないようにしましょう。<sup>2</sup> というのも、私たちにも良い知らせが伝えられていて、あの人たちと同じなのです。けれども彼らには、聞いたみことばが益となりませんでした。みことばが、聞いた人たちに信仰によって結びつけられなかったからです。<sup>3</sup> 信じた私たちは安息に入りますが、

「わたしは怒りをもって誓った。  
『彼らは決して、わたしの安息に入れぬ』」

Then the writer points out that in Psalm 95, which was written by David hundreds of years after the Israelites entered the Promised Land, says “Today.” So this means that even those Israelites that entered the Promised Land did not truly enter the rest of God, but there was more to come. We enter into God’s rest through faith in Christ. But even for Christians, although we have entered into God’s rest, there is more to come. And in order for us to have entered into it we must persevere in faith until the end. Hebrews 3:12-4:13 says:

Take care, brothers, lest there be in any of you an evil, unbelieving heart, leading you to fall away from the living God.<sup>13</sup> But exhort one another every day, as long as it is called “today,” that none of you may be hardened by the deceitfulness of sin.<sup>14</sup> For we have come to share in Christ, if indeed we hold our original confidence firm to the end.<sup>15</sup> As it is said, “Today, if you hear his voice, do not harden your hearts as in the rebellion.”

3:16 For who were those who heard and yet rebelled? Was it not all those who left Egypt led by Moses?<sup>17</sup> And with whom was he provoked for forty years? Was it not with those who sinned, whose bodies fell in the wilderness?<sup>18</sup> And to whom did he swear that they would not enter his rest, but to those who were disobedient?<sup>19</sup> So we see that they were unable to enter because of unbelief.

4:1 Therefore, while the promise of entering his rest still stands, let us fear lest any of you should seem to have failed to reach it.<sup>2</sup> For good news came to us just as to them, but the message they heard did not benefit them, because they were not united by faith with those who listened.<sup>3</sup> For we who have believed enter that rest, as he has said,

“As I swore in my wrath,  
“They shall not enter my rest,”

と神が言われたとおりなのです。もっとも、世界の基が据えられたときから、みわざはすでに成し遂げられています。<sup>4</sup> なぜなら、神は第七日について、あるところで「そして神は、第七日に、すべてのわざを終えて休まれた」と言われ、<sup>5</sup> そのうえで、この箇所で、「彼らは決して、わたしの安息に入れない」と言われたからです。<sup>6</sup> ですから、その安息に入る人々がまだ残っていて、また、以前に良い知らせを聞いた人々が不従順のゆえに入れなかったので、<sup>7</sup> 神は再び、ある日を「今日」と定め、長い年月の後、前に言われたのと同じように、ダビデを通して、

「今日、もし御声を聞くなら、  
あなたがたの心を頑なにしてはならない」

と語られたのです。<sup>8</sup> もしヨシュアが彼らに安息を与えたのであれば、神はその後に別の日のことを話されることはなかったでしょう。<sup>9</sup> したがって、安息日の休みは、神の民のためにまだ残されています。<sup>10</sup> 神の安息に入る人は、神がご自分のわざを休まれたように、自分のわざを休むのです。<sup>11</sup> ですから、だれも、あの不従順の悪い例に倣って落伍しないように、この安息に入るように努めようではありませんか。<sup>12</sup> 神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができます。<sup>13</sup> 神の御前にあらわでない被造物はありません。神の目にはすべてが裸であり、さらけ出されています。この神に対して、私たちは申し開きをするのです。

ここには、信仰を持続させる、忍耐するための2つの主要な手段が記されています。3:13には、「日々互いに励まし合って」と書かれています。そして、4:12-13では、聖書が持つ「見分ける」力と「曝け出されている」力について書かれています。つまり、信仰で続くためには、教会と神の言葉が私たちの罪を暴き、それを悔い改めて、自分の行いではなく、イエスに救いを求め続けることができるようにする必要があります。

イエス様は、私たちがどれほど弱く、罪深い存在であるかをご存知です。私たちが自分の罪をもっと知り、助けを求めて教会に来ることができるよう、教会と御言葉を備えてくださったのです。ヘブル人への手紙4章14～16節はこう続きます：

although his works were finished from the foundation of the world. <sup>4</sup> For he has somewhere spoken of the seventh day in this way: "And God rested on the seventh day from all his works." <sup>5</sup> And again in this passage he said,

"They shall not enter my rest."

4:6 Since therefore it remains for some to enter it, and those who formerly received the good news failed to enter because of disobedience, <sup>7</sup> again he appoints a certain day, "Today," saying through David so long afterward, in the words already quoted,

"Today, if you hear his voice,  
do not harden your hearts."

4:8 For if Joshua had given them rest, God would not have spoken of another day later on. <sup>9</sup> So then, there remains a Sabbath rest for the people of God, <sup>10</sup> for whoever has entered God's rest has also rested from his works as God did from his.

4:11 Let us therefore strive to enter that rest, so that no one may fall by the same sort of disobedience. <sup>12</sup> For the word of God is living and active, sharper than any two-edged sword, piercing to the division of soul and of spirit, of joints and of marrow, and discerning the thoughts and intentions of the heart. <sup>13</sup> And no creature is hidden from his sight, but all are naked and exposed to the eyes of him to whom we must give account.

Here we see two main avenues for persevering in our faith. In 3:13 it says, "exhort one another every day." And in 4:12-13 the writer tells us of the discerning and exposing power of Scripture. So in order to persevere in our faith we need the church and God's Word to expose our sin so we can repent of it and continue to trust in Jesus for salvation and not in our own works.

Jesus knows how weak and sinful we are. He has provided the church and his Word so that we can see more of our sin and come to him for help. Hebrews 4:14-16 continues:

さて、私たちには、もろもろの天を通られた、神の子イエスという偉大な大祭司がおられるのですから、信仰の告白を堅く保とうではありませんか。<sup>15</sup> 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんでした。すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。<sup>16</sup> ですから私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、折にかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。

これは、神の安息にあることであり、イエスが再臨されるときに神の完全な安息に入る方法です。イザヤ書30章15節は、悔い改めを、落ち着くこと、静かにすること、信頼することと特徴づけています：

イスラエルの聖なる方、神である主は

こう言われた。

「立ち返って落ち着いていれば、

あなたがたは救われ、

静かにして信頼すれば、

あなたがたは力を得る。」

しかし、あなたがたはこれを望まなかった。

救い、その全ては、私たちの行いによるものではありません。信仰によって受ける、イエス・キリストの恵みによるものです。ですから、自分の罪が見えたら、大胆さを持って、憐れみを受け、必要な時に助けられる恵みを見つけるために、その恵みの座に近づいてください。

Since then we have a great high priest who has passed through the heavens, Jesus, the Son of God, let us hold fast our confession. <sup>15</sup> For we do not have a high priest who is unable to sympathize with our weaknesses, but one who in every respect has been tempted as we are, yet without sin. <sup>16</sup> Let us then with confidence draw near to the throne of grace, that we may receive mercy and find grace to help in time of need.

This is the way of being in God's rest and entering into his full rest when Jesus returns. Isaiah 30:15 characterizes repentance as rest, quietness, and trust:

For thus said the Lord GOD, the Holy One of Israel,  
"In returning and rest you shall be saved;  
in quietness and in trust shall be your strength."  
But you were unwilling,

Salvation, all of it, is not by our works. It is by the grace of Jesus Christ, received by faith. So when you see your sin, confidently draw near to his throne of grace to receive mercy and find grace to help in time of need.

### クリスチャンたちのための安息日の意味:

この章には、神学が詰まっています。実践的にはどのような意味があるのでしょうか。ここでは、実践的な意味をいくつか紹介します:

1. クリスチャンの礼拝の日が日曜日に移りました。イエスが日曜日に死からよみがえったので、クリスチャンは日曜日の朝に礼拝します。ですから、日曜日の朝の礼拝は、クリスチャンにとって非常に優先されるべきものです。私たちは教会と集まって、イエスが私たちのために成し遂げてくださったことを祝い、一緒にイエスを礼拝すべきです。それが主の日だからです。
2. クリスチャンは、日曜日を普段の仕事から解放される休日として優先させるべきです。教会で礼拝をし、聖書を読み、祈り、休息して過ごす。昼寝をする! 屋外で楽しむ! 子供と一緒に遊びましょう! 友人と一緒においしい食事をしましょう! 楽しんでください!
3. クリスチャンは、日曜日に休むことを、困っている人を助けられない言い訳にはいけません。また、自分や他人のために必要なことを怠ってはならない。
4. クリスチャンは、救いを得ようとするべきではありません。絶対しない! イエス様は私たちのためにそれを獲得してくださいました。私たちは、信仰によってそれを受け取らなければなりません。信仰によって義認を受けるのです。信仰によって、聖化と栄光を受けるのです。それは、あなたのためになされた神の業です。自分の働きではなく、イエス様を信頼して続けましょう。

### Implications of Sabbath for Christians:

This chapter is packed with theology. What does it mean practically? Here's a few practical implications:

1. The day of worship for Christians has moved to Sunday. Christians worship on Sunday morning because Jesus rose from the dead on Sunday. So Sunday morning worship should be prioritized highly by Christians. We should gather with the church to celebrate what Jesus has accomplished for us and worship him together. It is the Lord's Day.
2. Christians should prioritize Sunday as a day of rest from their regular work. Spend the day worshipping with the church, reading Scripture, praying, and resting. Take a nap! Enjoy the outdoors! Play with your children! Have a good meal together with friends! Enjoy it!
3. Christians should not use resting on Sunday as an excuse to not help people in need. Nor should we neglect what is necessary to do for ourselves or others.
4. Christians should not try to earn salvation. EVER! Jesus has earned it for us. We must receive it by faith. Receive justification by faith. Receive sanctification and glorification by faith. It is a work of God done on your behalf. Persevere in trusting Jesus and not your own works.



# ディスカッション

以下の質問について考え、グループで話し合う準備をしましょう。

1. もし、みんなが週6日働いて、日曜日に休んだら、日本の文化はどう変わるのでしょうか？
2. この勉強で、日曜日の過ごし方がどう変わるでしょうか？
3. 日曜日に教会に行ったり休んだりすることを妨げる誘惑の一つは何ですか？
4. 日曜日の礼拝と休息を、自分自身や家族、そして一緒に参加するために招待できるノンクリスチャンにとっても楽しいイベントにするにはどうしたらいいでしょうか？
5. 教会でのキリスト教の交わりや聖書を読むことは、私たちが自分を信じることを悔い改め、キリストへの信仰を貫くために、私たちの罪深さを明らかにするためにあります。自分の罪深さを知ったとき、私たちは祈りによって神様のもとに行き、憐れみと恵みを求めていくべきです。このことは、あなたの祈り方をどのように変えるのでしょうか？

一緒に祈りの時間を持ってください。特に祈り課題のために祈ってください。

# Discussion

**Think about these questions and be prepared to discuss together with your group.**

1. How would the culture of Japan change if everyone worked six days a week and rested on Sunday?
2. How will this study change the way you spend your time on Sunday?
3. What is one temptation that keeps you from going to church and resting on Sunday?
4. How can you make worship and rest on Sunday an enjoyable event for yourself, your family, and even non-Christians that you could invite to participate with you?
5. Christian fellowship in the church and reading the Bible are meant to expose our sinfulness so that we can repent of trusting in ourselves and persevere in faith in Christ. When we see our sinfulness we should go to God in prayer and ask for mercy and grace to help. How will this change the way you pray?

**Spend some time praying together. Pray specifically for the requests that were mentioned.**

**第10章： サタン、罪、と誘惑**  
**3:1-7**

**Chapter 10: Satan, Sin, and Temptation**  
**3:1-7**

# 事前の勉強

創世記3:1-7を読んで、この質問について考えてみてください。

- ・ サタンや悪魔と聞くと、何を思い浮かべますか？
- ・ 蛇と女の言っていることが、神様の言ったこととどう違うか考えてみてください。

## 学び

サタン、または悪魔について、世の中にはいろいろな考えやイメージ、思い込みがあるようです。西洋の多くの人々は、全身が赤く、禿げ頭に角があり、背中に羽があり、手に投石器を持っている存在に慣れているか、そういったイメージを目にすることがあるかもしれません。一方、東洋では、漫画やアニメ、人気ゲーム「ストリートファイター」に登場する「悪魔」という名前を持つキャラクターを思い浮かべるかもしれません。あるいは、そのような人物は存在せず、人間の想像力が生み出されたものに過ぎないと考える人もいるかもしれません。

この学びでは、サタンについて詳しく説明することはしませんが、創世記3章1～7節に焦点を当て、サタンとは何者か、彼の策略は何かという問いに答えていきたいと考えています。

読み続ける前に、今まで学んできた内容：神様が六日間で世界を創造されたこと、神様が七日目に休まれたこと、神様が男と女を創造されたこと、神様が人間をエデンの園に置いて働かせ、それを守らせたこと、神様が男から女を創造して最初の結婚が始まったことを思い出してください。

### 蛇とは何者か？

3章1節では、蛇が紹介されています。この蛇は、「ほかのどれよりも賢かった」と言われています。このヘブライ語の「アルム」という言葉は、「慎重な」、「思慮深い」とも訳せます。箴言12:16、13:16、14:8、22:3では、肯定的に使われています。また、ヨブ記にある2つの箇所のように、否定的に使われることもあります：

「神は悪賢い者たちの企みを打ち砕かれ、彼らの手は良い成果を得られない。」ヨブ5:12

「それは、あなたの咎があなたの口に教え、あなたが悪賢い人の舌を選んでいるからだ。」ヨブ15:5

この蛇がいかに賢いかは、すぐに明らかになる。

1節でもう一つ蛇について気づくことがあります。この蛇も、主である神が造られた地の獣の一つであるということです(1:24)。実際、蛇は造られた存在であった。蛇は、霊的な存在や比喩的な存在ではありませんでした。

# Pre-Study

Read Genesis 3:1-7, and think about these questions:

- What comes to mind when you think about Satan or the devil?
- Think about how what the serpent and the woman says is different than what God said.

## Study

There are many ideas, images, or assumptions in the world when it comes to Satan or the devil. In the West, you may be used to or have seen a being that is all red, has a bald head and horns, has wings on the back, and has a pitchfork in his hand. Or in the East, you may think of characters that have the name, devil, in manga/anime or in the popular game, Street Fighter. Or some may think there is no such being and it is just a creation of human imagination.

Although we won't go through every detail about Satan in this study, we will focus on Genesis 3:1-7 and answer the questions, who he is and what are his tactics.

Before that, remember that we have just learned about God creating the world in six days, God resting on the seventh day, God creating man and woman, God placing man in the garden of Eden to work it and keep it, and God creating woman from man and bringing them together in the first marriage.

### **Who is the serpent?**

In chapter 3 verse 1, we are introduced to a serpent. This serpent is said to be “more crafty.” This word in Hebrew, arum, can also be translated “clever” or “prudent.” It is used in a positive way in Proverbs 12:16, 13:16, 14:8, or 22:3. It can also be used negatively, as in these two passages from Job:

“He frustrates the devices of the crafty, so that their hands achieve no success.” Job 5:12

“For your iniquity teaches your mouth, and you choose the tongue of the crafty.” Job 15:5

We will soon see just how crafty this serpent is.

Another thing we notice in verse 1 is that it is also part of the beast of the field that the LORD God had made (1:24). Thus, the serpent was a real, created being. The serpent was not a spiritual or metaphorical being.

しかし、蛇とはいったい誰なのか、という疑問に戻ります。創世記を読むと、実はその答えは出ていません。獣、被造物、蛇がいることはわかります。では、どうやって知るのでしょうか？

ヨハネの黙示録12章9節では、こうあります。

「こうして、その大きな竜、すなわち、古い蛇、悪魔とかサタンとか呼ばれる者、全世界を惑わす者が地に投げ落とされた。また、彼の使いたちも彼とともに投げ落とされた。」

そしてヨハネの黙示録20章2節では、「彼は、竜、すなわち、悪魔でありサタンである古い蛇を捕らえて、これを千年の間縛り、」

これらの箇所から、蛇は悪魔でありサタンであることがわかります。(ここから先は、悪魔とサタンを使い分けていきます)。悪魔は「中傷する者」、サタンは「敵対者」、「反対する者」を意味する。

さて、サタンは物理的に蛇になったのでしょうか？ 創世記3:14-15で神が蛇に対応したことから、おそらくそうではないと考えられます。もしサタンが物理的に蛇になったのであれば、その蛇・サタンはずっと前に死んだのか、神によって滅ぼされるまで今でもどこかで生きているかと考えるしかありません。サタンは蛇になったというより、サタンは蛇を通して人間に影響し、人間に話しかけたと考えることはできません。これは、民数記22:28で、神がバラムにロバを通して話したのと似ています。それでは、この蛇がどれほど賢いかを見ていきましょう。

### 蛇の策略

1節の後半では、蛇が女のところにやってきて質問しています。「蛇は女に言った。「園の木のどれからも食べてはならないと、神は本当に言われたのですか。」」

この質問を具体的に見る前に、「この蛇はどうやって話しているのだろう？ なぜ女はしゃべる蛇に驚かないのだろう？ これはあり得ないでしょう。」という疑問が湧き上がった人もいるかもしれません。

さて、罪がこの世に入り込む前に動物が話す能力を持っていたかどうかは証明できません。そして、創世記が伝えようとしていたところはそこではないと思います(不思議に思うのは当然で楽しいですが)。神が創造した世界はまだ完璧で良い世界だったので、女性は驚かなかったのかもしれませんが。女性は神の創造の最後であったことを忘れないでください。彼女はすでに存在する世界にやってきたのです。もしかしたら、しゃべる蛇は普通だったのかもしれない？あるいは、人間には動物を理解する能力があったのかもしれない？または、すべてが非常に良かったから、人間が驚いたり恐れたりすることはなかった。いずれにせよ、神は初めからそこにおられ(ヨブ記38章)、すべての聖書は神の靈感によるものである(2テモテ3章16節)ので、神の言葉を信頼することができるのです。

さて、続けて、蛇が言ったことと、創世記2:16-17で神がアダムに告げたことを比較してみましょう。

But back to the question, who exactly is the serpent? From Genesis, we are not actually given the answer. We know that there is a beast, a creature, a serpent. Then how do we know?

To find the answer, we clearly see who it is in Revelation 12:9 and 20:2. Revelation 12:9 says, "And the great dragon was thrown down, that ancient serpent, who is called the devil and Satan, the deceiver of the whole world—he was thrown down to the earth, and his angels were thrown down with him."

And Revelation 20:2,

"And he seized the dragon, that ancient serpent, who is the devil and Satan, and bound him for a thousand years,"

From these passages, we see that the serpent is the devil and Satan. (From here on out, I will use the devil and Satan interchangeably). The devil means "slanderer" and Satan means "adversary" or "one who opposes."

Now, did Satan physically turn into the serpent? Probably not because of God's response to the serpent in Genesis 3:14-15. Also, if Satan was the serpent, physically, then either that original serpent or Satan died a long time ago, OR it must still be alive until it will be destroyed by God in the future!

However, instead of Satan being the serpent, Satan probably influenced and spoke through the serpent. This is similar to how God spoke through a donkey to Balaam, in Numbers 22:28. So let's continue on and see just how crafty this serpent was.

### **The serpent's tactics**

In the latter half of verse 1, the serpent comes to the woman and asks her a question.

"Did God actually say, 'You shall not eat of any tree in the garden'?"

Before we dig into this question, you may have other questions and thoughts in your mind. "How is this serpent talking? Why isn't the woman surprised by a talking serpent? I'm not sure if I can believe this."

Now we can't prove if animals had the ability to speak before sin entered the world. And I don't think that is the point of what Genesis is supposed to be about (although it is fun to wonder). And the woman might have not been surprised because it was a perfect, good world that God created still. Remember, the woman was the last of God's creation. She came to an already existing world. Maybe a talking serpent was normal? Or perhaps man had the ability to understand animals? Or because everything was good, there was nothing to be surprised or afraid of. Whatever the case, we can trust God's Word because God was there from the beginning (Job 38) and all Scripture is breathed out by God (2 Timothy 3:16).

Now continuing on, let's compare what the serpent said, to what God told Adam in Genesis 2:16-17.

創世記 3:1	創世記 2:16-17
蛇は女に言った。「園の木のどれからも食べてはならないと、神は本当に言われたのですか。」	16 神である主は人に命じられた。「あなたは園のどの木からでも思いのまま食べてよい。17 しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」

まず、蛇が「神である主」の「主」を省いていることに気づきます。これは、神様の御名を認めたくない、神様自身への直接的な攻撃なのかもしれません。

そして、続けて質問を捻じ曲げてしまうのです。肯定的な命令に対して否定的な解釈をします。アダムは、1本の木を除いて、すべての木を楽しむことができたのです。それは、たくさんの木と自由です！しかし、蛇は、「すべての木から食べることはできないでしょう」と言ったのです。蛇は実際に神様の命令を否定したり、矛盾したりはしていないのですが、だからこそ、これはとても悪賢いのです。蛇が質問を変えたのは、女に疑いを抱かせるためだったことがわかります。

女性の反応と神様の反応を比べてみましょう。

創世記 3:2-3	創世記 2:16-17
2 女は蛇に言った。「私たちは園の木の実を食べてもよいのです。3 しかし、園の中央にある木の实については、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ』と神は仰せられました。」	16 神である主は人に命じられた。「あなたは園のどの木からでも思いのまま食べてよい。17 しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」

まず、この女が省いていることがあります：

- 「どの木からも」を省かれ、神の自由と恵みが省かれている。
- 庭の真ん中の木に名前をつけない
- 「必ず」死ぬを省かれる

また、彼女は神が言ったことに加え、「それに触れてもいけない」と言っていることもわかります。



Genesis 3:1	Genesis 2:16-17
Did God actually say, 'You shall not eat of any tree in the garden'?	<sup>16</sup> And the LORD God commanded the man, saying, "You may surely eat of every tree of the garden, <sup>17</sup> but of the tree of the knowledge of good and evil you shall not eat, for in the day that you eat of it you shall surely die."

First of all, we notice the serpent leaving out "LORD" in "LORD God." This may be a direct attack on God Himself, not attributing His divine name.

He then twists the question. He puts a negative spin to a positive command. Adam could have enjoyed every tree, except one. That is a lot of trees and freedom! But we see the serpent, in essence, saying, "you can't eat of all the trees, can you"? The serpent didn't actually deny or contradict God's command, which is why this is so crafty. We see that the way the serpent changed the question was to cause doubt in the woman.

Let's compare the woman's response to God's.

Genesis 3:2-3	Genesis 2:16-17
<sup>2</sup> And the woman said to the serpent, "We may eat of the fruit of the trees in the garden, <sup>3</sup> but God said, 'You shall not eat of the fruit of the tree that is in the midst of the garden, neither shall you touch it, lest you die.'"	<sup>16</sup> And the LORD God commanded the man, saying, "You may surely eat of every tree of the garden, <sup>17</sup> but of the tree of the knowledge of good and evil you shall not eat, for in the day that you eat of it you shall surely die."

First, here are things that the woman leaves out:

- she leaves out "every" tree, which leaves out God's freedom and graciousness
- she doesn't name the tree in the midst of the garden
- she leaves out the result, "shall surely" die

We also see that she adds to what God says, "neither shall you touch it."

この命令は、女性が造られる前にアダムに与えられたものであることを忘れないでください。つまり、アダムは女に神の命令を教え、伝えるべきだったのです。このことから、現在の夫や父親が、妻や子供に神様の御言葉を教えることに、どんな責任があるかということがわかります！また、私たちは神様の御言葉を知り、そこから言葉を消したり付け加えたりしてはいけないということは大事です！

この女の反応から、疑念を抱かせる蛇の戦略はすでに効果を発揮していたのです。

### 罪と誘惑

蛇は4節でこう答えている。

4 すると、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。5 それを食べるそのとき、目が開かれて、あなたがたが神のようになって善悪を知る者となることを、神は知っているのです。」

ここで、蛇が神の言葉に反して、真っ赤なウソをついているのがわかります。彼は神を嘘つきにしているのです。神は「あなたは必ず死ぬ」と言われたのに、蛇は「あなたがたは決して死にません」と言い始めたのです。これがサタンの正体であり、サタンが行うことなのです。イエス様でさえ、ヨハネの福音書8:44で、悪魔・サタンについて話しています、

「44 あなたがたは、悪魔である父から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと思っています。悪魔は初めから人殺しで、真理に立っていません。彼のうちには真理がないからです。悪魔は、偽りを言うとき、自分の本性から話します。なぜなら彼は偽り者、また偽りの父だからです。」

蛇は続けて、女は神のようになる、「目が開かれる」、つまり、善と悪を意識し、知ることができるようになると言います。要するに、蛇は、もっと多くのものを手に入れられる、神は、彼らが本当になれるものに対して、我慢させたり、妨げたり、制限したりしているんだと言っているのです。これが、悪魔、罪、誘惑が行うことです。悪魔は、私たちを神から遠ざけようとし、決して叶えることのできない（私たちは叶えられると思っていますが）何かを約束します。もし私たちが平和、喜び、希望、愛、善、あるいはあらゆる良いものを望むなら、それは最終的に結婚、映画、お金、物質的なもの、あるいは私たち自身に見出すことはできず、神ご自身の中にしか存在しないのです。

女の反応は次の節に書かれている、

「6 そこで、女が見ると、その木は食べるのに良さそうで、目に慕わしく、またその木は賢くしてくれそうで好ましかった。それで、女はその実を取って食べ、ともにいた夫にも与えたので、夫も食べた。7 こうして、ふたりの目は開かれ、自分たちが裸であることを知った。そこで彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちのために腰の覆いを作った。」

Remember, this command was given to Adam before the woman was created. This means that Adam should have taught and told the woman God's command. What responsibility this is for husbands and fathers today, to teach God's Word to their wife and child(ren)! Another implication of this is that we should know God's Word and not take away from or add to it!

From these things in the woman's response, the serpent's tactic of causing doubt was already taking effect.

### **Sin and Temptation**

The serpent responds in verse 4, "But the serpent said to the woman, "You shall not surely die. <sup>5</sup> For God knows that when you eat of it your eyes will be opened, and you will be like God, knowing good and evil."

Here, we see the serpent outright lying and going against God's Word. He is making God a liar. God said "you shall surely die," whereas the serpent starts off by saying "you shall not surely die." This is who Satan is and what he does. Even Jesus talks about the devil/Satan, in John 8:44,

"You are of your father the devil, and your will is to do your father's desires. He was a murderer from the beginning, and does not stand in the truth, because there is no truth in him. When he lies, he speaks out of his own character, for he is a liar and the father of lies."

The serpent goes on with his temptation, saying that the woman will be like God and her "eyes will be opened", meaning, being aware of and knowing, good and evil. In essence, the serpent is saying that there is more to be had and God is holding out, preventing, or restricting them to what they truly can be. This is what the devil, sin, and temptation does. It seeks to lead us away from God and promise us something that it can never fulfill (though we think it will), because the fulfillment is always in God. If we want peace, joy, hope, love, goodness, or any good thing, it cannot be ultimately found in marriage, movies, money, material things, or myself, but only in God Himself.

The response of the woman is described in the next verses, "<sup>6</sup> So when the woman saw that the tree was good for food, and that it was a delight to the eyes, and that the tree was to be desired to make one wise, she took of its fruit and ate, and she also gave some to her husband who was with her, and he ate. <sup>7</sup> Then the eyes of both were opened, and they knew that they were naked. And they sewed fig leaves together and made themselves loincloths."

ここで注目すべき点は3つあります。

1. 「女が見ると、その木は食べるのに良さそう」 - 女は自分の体を喜ばせようとした。満足したい。
2. 「目に慕わしく」 - その果実は好ましく、目を喜ばせるものであったので、女はそれを求めた。
3. 「賢くしてくれそうで好ましかった」 - 女性は、本当に賢い方である神のようにになりたいと思い、神に信頼するのではなく、実を食べれば自分が賢くなれると信じていました。彼女は自律を望み、神を望まず、神に従おうとしなかったのです。

蛇やサタンのこの策略は、聖書の他の場所でも同じです。マタイの福音書4章のイエスの誘惑を思い出してください。

悪魔はイエスのもとにやってきて、自分の肉を満足させるために、石がパンになるように変えなさいとイエスを誘惑した。

そして、悪魔はイエスを神殿の屋根の端に立たせ、聖書を使ってイエスは必ず救われることを示すために下に身を投げるように言いました。命は必ず助かると聖書を使って誘惑したのです。

そして悪魔は、イエスに王国とその栄華を見せ、十字架と罪に対する神の怒りに耐えなくても、今ならそれを手に入れられると誘惑したのです。

この3つの誘惑には、女に対して使われた策略と同じ戦略が見られます。第一ヨハネ2:16では、これらの誘惑をこう要約しています、

「<sup>16</sup> すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢は、御父から出るものではなく、世から出るものだからです。」

## 結論

蛇の正体や戦い方を知ること、蛇に対抗する上で大きな助けとなります。私たちはサタンを恐れる必要はありません。サタンは神のサタンです。というのは、神が許可しない限り、サタンは何もできないことを忘れないでください。

ペテロの手紙第一5章8-9節にこう書かれています。

「<sup>8</sup> 身を慎み、目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、吼えたい獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています。<sup>9</sup> 堅く信仰に立って、この悪魔に対抗しなさい。ご存じのように、世界中で、あなたがたの兄弟たちが同じ苦難を通ってきているのです。」

これはサタンが行い、求めていることです。彼は私たちを食い尽くしたいと思っています。しかし、サタンは、神の支配のもとでしか、そうすることができません。だから、この節の前後に、神こそが主権を持つお方だということが書かれています！

There are three things to note here.

1. "the woman saw that the tree was good for food" - the woman wanted to please her flesh. to be satisfied by this fruit.
2. "it was a delight to the eyes" - the fruit was desirable, pleasing, and she wanted it
3. "desired to make one wise" - the woman wanted to be like God, the truly wise one, and trusted that eating the fruit can lead to being wise, instead of trusting in God. She wanted to be autonomous and didn't want God and follow Him.

This tactic of the serpent or Satan is the same elsewhere in Scripture. Remember the temptation of Jesus in Matthew 4.

The devil came to Jesus and tempted Jesus to change the stones to bread, to satisfy his flesh.

The devil then took Jesus to the top of the temple and told him to jump, using Scripture to show that he would be saved. That his life would be spared.

The devil then showed Jesus kingdoms and its glory and tempted him that he can have that now, without enduring the cross and God's wrath for sin.

These three temptations are the same tactics used against the woman. In 1 John 2:16, these tactics are summarized as so,

"For all that is in the world—the desires of the flesh and the desires of the eyes and pride of life—is not from the Father but is from the world."

### **Conclusion**

Knowing who the serpent is and the way he fights, helps us tremendously in countering him. We need not be afraid of Satan. Remember, Satan is God's Satan, meaning Satan can't do anything unless God allows him.

In 1 Peter 5:8-9, it says,

"<sup>8</sup> Be sober-minded; be watchful. Your adversary the devil prowls around like a roaring lion, seeking someone to devour. <sup>9</sup> Resist him, firm in your faith, knowing that the same kinds of suffering are being experienced by your brotherhood throughout the world."

This is what Satan does and seeks. He wants to devour us. However, he can only do so under God's dominion. That is why it talks about God having dominion before and after this verse!

ペテロの手紙第一4章11節

「<sup>11</sup> 語るのであれば、神のことばにふさわしく語り、奉仕するのであれば、神が備えてくださる力によって、ふさわしく奉仕しなさい。すべてにおいて、イエス・キリストを通して神があめられるためです。この方に栄光と力が世々限りなくありますように。アーメン。」

と、ペテロの手紙第一5章11節

「<sup>11</sup> どうか、神のご支配が世々限りなくありますように。アーメン。」

クリスチャンである私たちは、イエスを信じる信仰によって自由かつ寛大に与えられた神の武具を用いて、悪魔の策略に立ち向かいます（エペソ6章）。悪魔を対抗しながら、心を尽くして主に信頼し、堅く信仰に立ちましょ。

アダムは、蛇に対して声を出すことも、蛇を追出すことも、女を守ることもせず、「ともにいた夫にも与えたので、夫も食べた」という受動的な行動をとったが、それに対し、イエスは悪魔の誘惑に勝利し（ヘブル4：15）、十字架上で悪魔を倒し（コロサイ2：13-16）、最終的には悪魔を火の池で滅ぼす（黙示録20：10）こととなります。

私たちは、すでに持っているものではなく、持っていないもののことを考えがちです。持っていないものを切望するとき、私たちは簡単に失望し、感謝せず、不幸になり、不満になり、本当に幸せになるためには、求めているものが必要だと思うようになります。このことを悔い改め、右の座に永遠の楽しみがある生ける神に立ち返り、信頼しましょう（詩篇16：11）。

1 Peter 4:11

“whoever speaks, as one who speaks oracles of God; whoever serves, as one who serves by the strength that God supplies—in order that in everything God may be glorified through Jesus Christ. To him belong glory and dominion forever and ever. Amen.”

And 1 Peter 5:11

“To him be the dominion forever and ever. Amen.”

As Christians, we stand against the schemes of the devil by using the armor of God, freely and graciously given to us through faith in Jesus (Ephesians 6). Trust in the Lord with all your heart and stand firm in your faith as we resist the devil.

Where Adam was passive and didn't speak out against the serpent or throw the serpent out or protect the woman, but “was with her, and he ate,” Jesus was victorious against the devil's temptations (Hebrews 4:15) and defeated him on the cross (Colossians 2:13-16) and will ultimately destroy him in the lake of fire (Revelation 20:10).

It is easy to think of what we don't have, instead of what we already have. When we crave for something we don't have, we can easily be disappointed, ungrateful, unhappy, dissatisfied and we think that to be truly happy, we need whatever we're seeking. Let us repent of this and turn to and trust in the living God, who at His right hand are pleasures forevermore (Psalm 16:11).

# ディスカッション

以下の質問について考え、グループで話し合う準備をしましょう。

1. サタンについて誤解していたことはありますか？ もしそうなら、分かち合ってください。
  2. 神様の御言葉を疑うように仕向けられたことがあれば、教えてください。
  3. あなたは具体的にどのようなことで、現在持っている自由や祝福ではなく、持っていないものに焦点を当てがちですか。
  4. あなたが神様に感謝できること・方法はなんですか？
  5. あなたは、どのような点で神様を疑ったり、不信感を抱いたりする傾向がありますか？ そのようなことに対して、神様の御言葉はなんと仰っていますか？
- 一緒に祈りの時間を持ってください。特に祈り課題のために祈ってください。



# Discussion

**Think about these questions and be prepared to discuss together with your group.**

1. Have you had any misconceptions about Satan? If so, please share.
2. Share a time, if you have any, where someone led you to doubt God's Word.
3. In what specific ways can you tend to focus on what you don't have, instead of the freedom and blessings that you currently do have?
4. What blessings or ways can you be thankful to God for?
5. In what ways do you tend to doubt and distrust God? What does God's Word say to those things?

**Spend some time praying together. Pray specifically for the requests that were mentioned.**

## 第11章：墮落

3

## Chapter 11: The Fall

3

# 事前の勉強

創世記3章を読んで、これらの質問を考えてください：

- アダムとエバの罪は何でしたか？
- なんでその罪は悪いのでしょうか？
- その結果は何でしたか？

## 学び

前の章では、サタンについて学び、サタンがエデンの園に入り込んでエバを欺き、エバとアダムに最初の罪を犯させたことを知りました。この章では、その罪の瞬間に何が起こったのか、そしてその結果はどうなったのかを見ていきます。蛇が入り込むまで、創世記1-2の内容はすべて「非常に良かった」、幸せでさえあった。全能の創造主である神は太陽、月、星、そして今男と女が共に良い支配をするもとで生きとし生けるものすべてを創造しました。

それは美しかった。今日も私たちは、創造の美しさ、男女の関係の美しさ、そして神の権威の下に人類によって満たされ、服従され、支配される創造の美しさを垣間見ることができます。しかし、私たちが目にする美しさでさえも、罪によって汚され、壊れています。すべては罪のもとで壊れているのです。パウロは、ローマ8:20-21で、「被造物は虚無に服した」、「滅びの束縛」の状態だと述べています。

これはなぜでしょうか。ローマ人への手紙8章20節には、「被造物が虚無に服したのは、自分の意志からではなく、服従させた方によるものなので」と書かれています。しかし、なぜ神は被造物を虚無に従わせたのでしょうか。ローマ8:20-21はこう続けます。「...被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由にあずかります。」

このことについて、もっと詳しく学びましょう。

### 墮落はどのように起こったのか？

創世記3: 6-8

そこで、女が見ると、その木は食べるのに良さそうで、目に慕わしく、またその木は賢くしてくれそうで好ましかった。それで、女はその実を取って食べ、ともにいた夫にも与えたので、夫も食べた。こうして、ふたりの目は開かれ、自分たちが裸であることを知った。そこで彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちのために腰の覆いを作った。そよ風の吹くころ、彼らは、神である主が園を歩き回られる音を聞いた。それで人とその妻は、神である主の御顔を避けて、園の木の間に身を隠した。

# Pre-Study

Read Genesis 3 and think about these questions:

- What did Adam and Eve do wrong?
- Why was it wrong?
- What were the consequences?

## Study

In the previous chapter we learned about Satan and how he entered the Garden of Eden and deceived Eve and led her and Adam to commit the first sin. This chapter is looking at what happened in that moment of sin and what the consequences were. Up until the entrance of the serpent, the content of Genesis 1-2 has all been “very good” and even happy. The All-powerful Creator God created the Sun, Moon, stars, and all creatures living and moving under the good rule of the man and the woman together.

It was beautiful. Today we still see glimpses of the beauty of creation and the beauty of the relationship between man and woman and the beauty of creation filled, subdued, and ruled by humanity under God’s authority. But even the beauty we see is tainted and broken with sin. Everything is broken under sin. Paul, in Romans 8:20-21 says “the creation was subjected to futility” and is in “bondage to corruption.”

Why is this? Again, in Romans 8:20 we are told “the creation was subjected to futility, not willingly, but because of him who subjected it.” But why did God subject the creation to futility? Romans 8:20-21 continues, “...because of him who subjected it, in hope that the creation itself will be set free from its bondage to corruption and obtain the freedom of the glory of the children of God.”

Let’s learn more about this.

### **How did the Fall happen?**

Genesis 3:6-8

So when the woman saw that the tree was good for food, and that it was a delight to the eyes, and that the tree was to be desired to make one wise, she took of its fruit and ate, and she also gave some to her husband who was with her, and he ate. Then the eyes of both were opened, and they knew that they were naked. And they sewed fig leaves together and made themselves loincloths.

And they heard the sound of the LORD God walking in the garden in the cool of the day, and the man and his wife hid themselves from the presence of the LORD God among the trees of the garden.

アダムとエバは楽園にいた。神は彼らをエデンの園に置き、それを働かせ、守らせました。彼らは神のかたちとして男と女に造られ、神に祝福され、「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」(創世記1: 28) と言われました。すべてが「非常に良かった」(創世記1:31)ものであった。

男は、そして女も、「あなたは園のどの木からでも思いのまま食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べる時、あなたは必ず死ぬ。」これが園における唯一の掟であった。もし彼らがその木を食べたら、死んでしまう。食べなければ、生きることができる。これがアダムとの神の契約であった。従えば命の約束、従わなければ死という結果である。しかし、アダムはその契約に破り、その結果が生じた(ホセア6:7)。

### 墮落の結果は?

アダムとエバは、食べた木が約束したように、突然、神と互いの前で自分たちの罪と罪深さを自覚するようになりました。彼らは互いに裸を隠し、神からも自分を隠した(創世記3:7-8)。彼らは元々持っていた義を失い、その罪のために恥と罪悪感に陥った。

次に、神は彼らのもとにやってきます。彼らを探します。そして、彼らの罪の結果を伝えると同時に、救いの約束をするために来られたのです。神は被造物を呪いました。被造物が腐敗の束縛から解放されることを待ち望んで、被造物を虚無なものにしたのです(ローマ8:20-21)。

墮落は、アダムとエバとその子孫、そして蛇に具体的な呪いをもたらした。

### 蛇に対する呪い:

この学びで既に述べたように、蛇はおそらく本物の蛇であったが、神とその民の敵であるサタンによって使われ、その象徴であった(黙示録12: 9)。神が蛇を呪う以前は蛇には足があり(現在でも足のある蛇の種類はある)、呪いのために腹這いになったという可能性もあるが、14節の論点はそのことではないでしょう。3:14-15で神が蛇に言っているのは、人類と敵対して負けるということらしい。

「ちりを食べることになる」というのは、文字通りの意味ではない。敵が征服者の前にひれ伏すことを象徴しているのです。詩篇72篇はイスラエルの王について書かれたもので、9節には「砂漠の民は王の前に膝をつき 王の敵は ちりをなめますように。」と書かれています。

Adam and Eve were in paradise. God placed them in the Garden of Eden to work it and keep it. They were made in God's image as male and female, blessed by God and told to "Be fruitful and multiply and fill the earth and subdue it, and have dominion over the fish of the sea and over the birds of the heavens and over every living thing that moves on the earth" (Genesis 1:28). Everything was "very good" (Genesis 1:31).

The man, and in turn, the woman also, were told "You may surely eat of every tree of the garden, but of the tree of the knowledge of good and evil you shall not eat, for in the day that you eat of it you shall surely die" (Genesis 2:16-17). This was the only law in the garden. If they ate of the tree they would die. And if they did not, then they would live. This was God's covenant with Adam. The promise of life if obeyed and the consequence of death if disobeyed. However, Adam transgressed the covenant and the consequences ensued (Hosea 6:7).

### **What were the effects of the Fall?**

Just as the tree from which they ate promised, Adam and Eve suddenly became aware of their sin and sinfulness before God and each other. They hid their nakedness from each other and they hid themselves from God (Genesis 3:7-8). They lost the original righteousness they had and were plunged into shame and guilt because of their sin.

Next, God comes to them. He searches for them. He comes to give the consequences of their sin as well as give the promise of salvation. God cursed his creation. He subjected it to futility in hope that the creation itself would be set free from that bondage to corruption (Romans 8:20-21).

The Fall brought about specific curses for Adam and Eve and all their offspring, as well as for the serpent.

### The Serpent:

As previously noted in this study, the serpent, although probably a real snake, was used by and represented Satan, the enemy of God and his people (Revelation 12:9). It is possible that prior to God's curse on the serpent snakes had legs (although there are still species of snakes that have legs today) and because of the curse they now slither on their belly, that is probably not the point of verse 14. What it seems God is saying to the serpent in 3:14-15 is that he will be at enmity with humanity and he will lose.

To "eat dust" was not meant literally. It is symbolic of an enemy being subdued and bowing before their conqueror. Psalm 72 is written about the King of Israel and in verse 9 it says, "May desert tribes bow down before him, and his enemies lick the dust!"

神はサタンに、人類と戦って負けることを約束する。

#### 女に対する呪い:

男と女にかけられた呪いは、天地創造の命令（創世記1:28）における彼らの役割に直接影響します。女は、地を満たし、地を従え、すべての動物を支配するための助け手として男に与えられた。創世記3:15では、女は、子を産むときの苦しみが増し、夫との関係が対立によって特徴づけられると言われています。

#### 男に対する呪い:

男にとって、地は呪われたものである。天地創造における男の主な役割は、地を耕し、庭を守ることである（創世記2: 15）。しかし、その仕事は、苦痛と汗に特徴づけられるようになる。実りある労働の代わりに、主に茨とアザミが生えることになる。

#### アダムにある:

この呪いは今日も続く。仕事は挫折する。出産は苦しい。人間関係が難しい。私たちはサタンから攻撃を受けている。それ以上に、アダムの罪のために、すべての人類は罪の中に墮落して生まれてきているのです。

創世記6: 5「主は、地上に人の悪が増大し、その心に凶ることがみな、いつも悪に傾くのをご覧になった。」

詩篇51篇5節で、ダビデ王は自分の罪深い状態を見て、「ご覧ください。私は咎ある者として生まれ 罪ある者として 母は私を身ごもりました。」

エレミヤ書17: 9「人の心は何よりもねじ曲がっている。それは癒やしがたい。だが、それを知り尽くすことができるだろうか。」

マタイによる福音書7章11節で、イエスは人間を「悪」だと言っています。

ローマ人への手紙3: 10「義人はいない。一人もない。」

エペソ2:1-3は、全人類が「自分の背きと罪の中に死んでいた者であり」「かつては自分の肉の欲のままに生き、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。」と教えています。

God promises Satan that he will fight and lose against humanity.

#### The Woman:

The curses on the man and the woman directly affect their roles in the Creation Mandate (Genesis 1:28). The woman was given to the man as a helper in filling the earth and subduing it, and having dominion over all the animals. In Genesis 3:16 she is told that the pain in childbearing will be multiplied and that her relationship with her husband will be characterized by conflict.

#### The Man:

For the man, the ground is cursed. The man's main role in the Creation Mandate is carried out in working the ground and keeping the garden (Genesis 2:15). But now his work will be characterized by pain and sweat. Instead of fruitful labor, mainly there will be thorns and thistles.

#### In Adam:

These curses continue today. Work is frustrating. Childbearing is painful. Relationships are difficult. We are under attack from Satan. Even more than this, because of Adam's sin, all of humanity is now also born corrupt in sin.

In Genesis 6:5 it says, "The LORD saw that the wickedness of man was great in the earth, and that every intention of the thoughts of his heart was only evil continually."

In Psalm 51:5 King David, seeing his sinful condition says, "Behold, I was brought forth in iniquity, and in sin did my mother conceive me."

Jeremiah 17:9 tells us, "The heart is deceitful above all things, and desperately sick; who can understand it?"

In Matthew 7:11 Jesus says humans are "evil."

Romans 3:10 tell us, "None is righteous, no, not one."

Ephesians 2:1-3 tells us that all humanity is "dead in trespasses and sins," "live[s] in the passions of [their] flesh...and [are] by nature children of wrath."



なぜ聖書は人間についてこのように語るのでしょうか。なぜ私たちは罪人として生まれてくるのでしょうか。私たちは、罪深い性質を持って生まれてきます。これはなぜなのでしょう。

アダムは最初の間人である。彼は私たちの契約の頭であり、全人類の代表者でした。アダムが神との契約関係で行ったことは、残りの人類に影響を及ぼします。アダムは神との契約を破ったので、その罪は彼の子孫、つまり彼以降の全人類に認められます。私たちは、アダムとエバが園で享受した元の義を持って生まれてきたのではなく、今、罪を持って生まれてきているのです。聖書の別の表現では、「肉のうちにあり」と言っています。

ローマ人への手紙5: 12 「こういうわけで、ちょうど一人の人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして、すべての人が罪を犯したので、死がすべての人に広がったのと同様に…」

コリント人への手紙第一-15: 22 「アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストにあってすべての人が生かされるのです。」

ローマ人への手紙8: 7-8 「なぜなら、肉の思いは神に敵対するからです。それは神の律法に従いません。いや、従うことができないのです。肉のうちにある者は神を喜ばせることができません。」

これはどういうことかという、すべての人間は、生まれながらにして神と対立する霊的な状態で生まれてくるということです。私たちは罪人として生まれてきたのです。私たちは罪を犯さないようにすることはできません。クリスチャンでない人にとっては、キリストを通して神のために行われたものでないため、良い道徳的行為であっても、そのすべてが実は罪なのです。

木から食べることは、霊的な死、神からの分離、そして最終的には罪の裁きをもたらしました。また、肉体的な死もたらされました。

### **私たちの希望とは何でしょう？**

キリストにある希望については、次回の学びで詳しく学びますが、創世記3章15節は、女の子孫がいつか蛇を打ち負かすという約束になっています。上記の聖句から、イエス・キリストがこの約束の成就者であり、彼への信仰によって、私たちは墮落の影響から解放されることがわかります。

Why does Scripture speak this way about humanity? Why are we born sinners? We are born with a sinful nature. Why is this?

Adam was the first human. He was our covenant head, the representative of the whole human race. What he did in his covenant relationship with God affects the rest of humanity. Because Adam broke/transgressed the covenant with God his sin was imputed to all his descendants, that is, to all humanity after him. We are not born with the original righteousness that Adam and Eve enjoyed in the Garden, but now we are born in sin. Another way the Bible puts this is "in the flesh."

Romans 5:12 says, "Therefore, just as sin came into the world through one man, and death through sin, and so death spread to all men because all sinned..."

1 Corinthians 15:22, "For as in Adam all die, so also in Christ shall all be made alive."

Romans 8:7-8, "For the mind that is set on the flesh is hostile to God, for does not submit to God's law; indeed, it cannot. Those who are in the flesh cannot please God."

What this means is that all humans are born in a spiritual condition that is naturally opposed to God. We are born as sinners. We are not able to not sin. For anyone who is not a Christian, everything they do, even good moral acts, because they are not done for God through Christ, is actually sin.

Eating from the tree brought spiritual death, separation from God, and eventually judgement for sin. It also brought physical death.

### **What is our hope?**

We will learn more about the hope we have in Christ in the next study, but Genesis 3:15 is a promise that the offspring of the woman will one day, defeat the serpent. From the above Scriptures we see that Jesus Christ is that fulfillment of this promise and through him, through faith in him we are set free from the effects of the Fall.

# ディスカッション

以下の質問について考え、グループで話し合う準備をしましょう。

1. あなたの文化、家族、そしてあなた自身において、「墮落」の影響を具体的にどのように見えていますか？
2. 墮落は、仕事、人生、そして他の人々に対して、どのような期待を持つべきか、どのように影響しているのでしょうか。
3. 墮落に関する聖書の教えは、私たちの伝道にどのような影響を与えるのでしょうか。
4. 墮落の贖いを楽しみにしている一面は何ですか？
5. 自分の罪深さについて考えるとき、どんなことに祈りや助けを求めていますか？

一緒に祈りの時間を持ってください。特に祈り課題のために祈ってください。

# Discussion

**Think about these questions and be prepared to discuss together with your group.**

1. What are specific ways you see the effects of the Fall in your culture, family, and yourself?
2. How does the Fall affect what kind of expectations we should have for work, life, and for other people?
3. How does the Bible's teaching about the Fall affect how we evangelize?
4. What is one aspect of the Fall you are looking forward to being redeemed?
5. When you think about your own sinfulness what are things you want prayer and help for?

**Spend some time praying together. Pray specifically for the requests that were mentioned.**

## **第12章：福音**

**3**

## **Chapter 12: The Gospel**

**3**

# 事前の勉強

創世記 1-3章を読んで、これらの質問を考えてください：

- この箇所は神について何を語っている？
- 自分について何を語っている？
- イエス様とどのように繋がっている？

## 学び

### アダムにある

コリント人への手紙第一15：22、「アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストにあってすべての人が生かされるのです。」

園でのアダムの罪のために、被造物が虚無に服した。人類は本来の義から罪深い状態へと墮落した。私たちはまだ神の似姿であるが、その似姿は傷つけられている。

人類は神が本来創造されたようには生きていない。神の良き王家の代表として地球を支配するのではなく、地球と互いを破壊し、自分たちの利己的な目的のために地球と互いを利用しようとしている。

アダムの罪のせいで、死はすべての人類の終わりである。無駄と挫折が私たちの日常である。男女の関係は争いと衝突に満ちており、それぞれが相手を服従させようとしている。神の像の担い手としての男女の役割には困難がつきまとう。女性は出産に痛みを伴う。男の苦労は実ではなく、いばらとあざみを生む。

アダムとエバが園でそうであったように、今、すべての人間が神のようになろうとし、サタンの嘘に惑わされ、互いを罪に導き、そして自分のせいだと互いを非難している。

アダムとエバが園で行ったように、私たちは神の御言葉に付け加えてしまう。私たちは、神は私たちを厳しく支配し、私たちににとって最善のことを望んでいない暴君に違いないと考える。神の命令や神の支配に反抗することで、自分たちよりも良くなり、偉大になり、幸せになれると考えるのだ。

私たちは罪を犯しても悔い改めない。神を求めず、神から逃げ隠れしようとする。私たちは罪に対して恥と罪悪感を抱く。それは正しいことだが、赦しと救いを求めて神のもとに来るのではなく、自分の努力によって恥を覆い、罪悪感を償おうとする。

# Pre-Study

Read Genesis 1-3 and think about these questions:

- What does this tell me about God?
- What does this tell me about myself?
- How is this connected to Jesus?

# Study

## In Adam

1 Corinthians 15:22 says, "For as in Adam all die, so also in Christ shall all be made alive."

Because of the sin of Adam in the Garden creation was subjected to futility. Humanity fell from its original righteousness into a sinful state. Although we are still God's image bearers, the image is marred.

Humanity does not live as God originally created us. Rather than ruling the earth as God's good royal representatives we destroy the earth and each other and seek to use it and one another for our own selfish purposes.

Because of Adam's sin death is the end of all humanity. Futility and frustration is our daily experience. Relationships between men and women are full of strife and conflict, each trying to subjugate the other. The roles of men and women as God's image bearers are marked by difficulty. The woman has pain in childbearing. The man's hard work produces thorns and thistles, not fruit.

Just as Adam and Eve did in the Garden so now all humans are seeking to be like God, being deceived by the lies of Satan, leading each other into sin and then blaming each other for what is their own fault.

Just as Adam and Eve did in the Garden we add to God's Word. We think God must be a tyrant who rules us harshly and does not want what is best for us. We rebel against God's commands and God's rule thinking that disobedience will make us better, greater, happier than we are.

We sin and do not repent. We do not seek God, but we try to run and hide from him. We feel shame and guilt for our sin, which is right, but then we try to cover our shame and atone for our guilt by our own effort rather than coming to God for forgiveness and salvation.

私たちは神を求めない。私たちは神を知っているにもかかわらず、不義によって神についての真理を抑圧している。私たちは罪の中に死んでおり、サタンの支配下に生きている。テトス3:3が言うように、「私たちが以前は、愚かで、不従順で、迷っていた者であり、いろいろな欲望と快樂の奴隷になり、悪意とねたみのうちに生活し、人から憎まれ、互いに憎み合う者でした。」

アダムにある全人類の状態は、悔い改めない罪人であり、永遠に死を宣告されるのは当然である。

## キリストにある

しかし、キリストを信じる者は皆、「生かされる。」

創世記1~3章を通じたこの最後の学びは、キリストが成し遂げたこと、そして今、「キリストにある」ということが何を意味するのかについてである。

創世記3章15節で、神は蛇にこう言われた。「わたしは敵意を、おまえと女の間に、おまえの子孫と女の子孫の間に置く。彼はおまえの頭を打ち、おまえは彼のかかとを打つ。」

これは神学者たちによって「最初の福音書」あるいはプロトエウアンゲリオンと呼ばれている。神は女から蛇を打ち負かす子孫が生まれることを約束している。第1ヨハネ3:8は、「その悪魔のわざを打ち破るために、神の御子が現れました」。

イエスが宣教を始める前、バプテスマを受けたとき、父なる神はイエスを御子と宣言し、聖霊がイエスの上に降臨された（マタイ3:16-17、マルコ1:10-11、ルカ3:21-22 参照）。ルカ3:23-38でルカは、イエスが蛇の頭を打ち砕くために来ると神が言われた女の子孫であることを示すために、イエスの血統をアダムにまでさかのぼり、神にまでさかのぼる。この直後のルカ4:1-13で、イエスは荒野に導かれ、悪魔の誘惑を受ける。イエスは、自分がサタンの誘惑に屈しない真の優れたアダムであることを示すために、すべての誘惑に抵抗された。

イエスは神の律法を破るのではなく、その生涯を通して律法を成就された（マタイ5:17）。イエスはその死によって、彼を信じるすべての人のために死を滅ぼされた（1コリント15:20-22、ヘブル2:14-15）。その死によって私たちは神と和解し、もはや神に対する敵や反逆者ではなく、地を治める祭司の王国としての本来の役割を取り戻したのである（ローマ5:1-11、黙示録5:9-10）。アダムの犯した罪によって、私たちは罪人とされましたが、イエスの正しい生涯と身代わりの死によって、私たちは義と認められ、すべての罪を赦され、さらにご自身の義を私たちに認められました（ローマ5:12-21）。



We do not seek for God. Although we know God we suppress the truth about him through unrighteousness. We are dead in sin living under the dominion of Satan. As Titus 3:3 says, "For we ourselves were once foolish, disobedient, led astray, slaves to various passions and pleasures, passing our days in malice and envy, hated by others and hating one another."

The condition of all humanity in Adam is as unrepentant sinners rightly condemned to death for eternity.

## **In Christ**

However, for all those who put faith in Christ, they shall "be made alive."

This final study through Genesis 1-3 is about what Christ accomplished and what it means now to be "in Christ."

In Genesis 3:15 God tells the serpent "I will put enmity between you and the woman, and between your offspring and her offspring; he shall bruise your head, and you shall bruise his heel."

This has been called "the first gospel" or *protoeuangelion* by theologians. God is promising that there will be offspring from the woman that will defeat the serpent. 1 John 3:8 tells us "The reason the Son of God appeared was to destroy the works of the devil."

Before Jesus began his ministry, when he was baptized, God the Father declared him to be his Son and the Holy Spirit descended on him (see Matthew 3:16-17; Mark 1:10-11; Luke 3:21-22). In Luke 3:23-38 Luke traces Jesus' lineage all the way back to Adam and even to God to show that Jesus is the seed of the woman who God said would come to bruise the head of the serpent. Immediately after this in Luke 4:1-13 Jesus is led into the wilderness and tempted by the devil. He resists all the temptation to show that he is the true and better Adam who does not give in to Satan's temptation.

Rather than breaking God's law, Jesus fulfilled the law with his life (Matthew 5:17). By his death Jesus destroyed death for all who believe in him (1 Corinthians 15:20-22; Hebrews 2:14-15). By his death he reconciled us to God so we are no longer enemies and rebels to God, but we have been brought back into our true role as a kingdom of priests that will rule the earth (Romans 5:1-11; Revelation 5:9-10). By Adam's trespass we were made sinners, but by Jesus' righteous life and substitutionary death he justified us, forgiving all our sins and declaring us righteous and even crediting to us his own righteousness (Romans 5:12-21).

イエスの死と復活、そして昇天を通して、イエスは御父から聖霊を遣わし、私たちが神の律法に従うことができるようにし、神の栄光のために私たちを神のかたちとして回復させてくださった（エペソ4:7-24）。

その死によって、パラダイスへの道が再び開かれたのだ（ルカ23:39-43、黙示録2:7、22:1-2）。新しい天と新しい地では、私たちは命の木に近づくことができ、神とともに永遠に生きることができる（黙示録21:3）。今も私たちは、御霊による新しく生まれることにおいて、その始まりを体験している（エゼキエル47:1-12、ヨハネ3:3-5、7:37-39、黙示録22:1-5を参照）。

イエスがその生涯、死、復活、昇天において成し遂げられたことのゆえに、イエスはサタンを打ち負かし、サタンを縛り、イエスが再臨されるまで王国の福音が諸国民に広まるようにされたのである（マタイ12:28-29、黙示録12:1-17、20:1-6を参照）。

いつか、イエスが栄光のうちにすべての人を裁くために戻って来られるとき、ついにサタンを地獄に投げ込み、栄光のうちに私たち、イエスの民とともに地上に永遠に治める（マタイ25:31-46、黙示録20:7-21:5）。

その日まで、イエスは天の御座から万物を支配し、その民である教会を通して、その支配を地上に広げておられる（イザヤ11:9-10、マタイ28:18-20、1コリント15:24-28）。

これらのことから、「キリストにある」ということは、次のことを意味する：

私たちは、サタンと私たちに対するサタンのすべての業に勝利している。

私たちには永遠の命があり、それは今始まり、復活の中で永遠に続く。

私たちは神と和解している。

私たちは神の家族の王族であり、王の子としての完全な権利を持って地上を治めている。

私たちは神の聖なる民の祭司であり、神に正しい礼拝をささげ、罪の赦しを互いに保証し、福音を宣べ伝えることを通して、他の人々を神のもとに導くことができる。

私たちは赦されている。

神の目には義人である。

私たちは新しく作られた。

私たちは神の御前に歓迎されている。

キリストを通して神の民として私たちが享受する権利や特権はたくさんあり、上に書いたことは短いリストである。しかし、私たちが見ることができるのは、キリストが悪魔を打ち負かし、イエスを信じる信仰によって、私たちはその勝利の恩恵をすべて受けることができるということだ。

Through Jesus' death and resurrection and ascension he has sent the Holy Spirit from the Father to make us able to obey God's law and restore us as God's images to God's glory (Ephesians 4:7-24).

Through his death he has once again opened the way to Paradise (Luke 23:39-43; Revelation 2:7; 22:1-2). In the New Heavens and New Earth we will have access to the tree of life and live forever with God (Revelation 21:3). Even now we experience the beginning of this in our new birth by the Spirit (compare Ezekiel 47:1-12; John 3:3-5; 7:37-39; Revelation 22:1-5).

Because of what Jesus has accomplished in his life, death, resurrection, and ascension he has defeated Satan and bound him so that the gospel of the kingdom can spread throughout the nations until Jesus comes back (compare Matthew 12:28-29; Revelation 12:1-17; 20:1-6).

One day, when Jesus returns in glory to judge all people he will finally throw Satan into Hell and then he will reign forever on the earth with us, his people, in glory (Matthew 25:31-46; Revelation 20:7-21:5).

Until that day Jesus is reigning over all things from his throne in heaven and through his people, the church, he is spreading his rule throughout the earth (Isaiah 11:9-10; Matthew 28:18-20; 1 Corinthians 15:24-28).

Because of all this, to be "in Christ" means:

We have victory over Satan and all his works against us.

We have eternal life that begins now and will continue forever in the resurrection.

We are reconciled to God.

We are royalty in God's family ruling the earth with the full rights of children of the King.

We are priests in God's holy people able to offer proper worship to him, assure one another of the forgiveness of sins, and through the proclamation of the gospel, bring others to God.

We are forgiven.

We are righteous in God's sight.

We are a new creation.

We are welcomed into the presence of God.

The rights and privileges we enjoy as God's people through Christ are many and what is written above is a short list. What we can see though is that Christ has defeated the devil and through faith in Jesus we receive all the benefits of that victory.

# ディスカッション

以下の質問について考え、グループで話し合う準備をしましょう。

1. キリストにあってサタンに勝利していることを知ることは、誘惑への対応にどのような影響を与えるのか？
2. キリストにあって赦され、義と認められ、神と和解していることを知ったら、祈るときの神との話し方はどう変わるだろうか。
3. あなたが神の聖なる民の祭司であることを知って、他のクリスチャンとの関わりについて何が変わるでしょうか？ ノンクリスチャンとはどうですか？
4. あなたが地上に治めるために創造され、永遠にそうすることを知った上で、あなたの仕事における長期的な目標は何か？
5. すべてのクリスチャンもキリストにあって、これらと同じ権利と特権を享受しており、私たち全員が神の王国の相続人として等しく存在するのだから、あなたが謝罪し、和解を求める必要がある相手はいるだろうか？

一緒に祈りの時間を持ってください。特に祈り課題のために祈ってください。

# Discussion

**Think about these questions and be prepared to discuss together with your group.**

1. How does knowing that in Christ you have victory over Satan affect the way you will respond to temptation?
2. How will the knowledge that in Christ you are forgiven, counted righteous, and reconciled to God change the way you talk to God when you pray?
3. Knowing that you are a priest in God's holy people, what will change about your interactions with other Christians? What about with non-Christians?
4. Knowing you were created to reign on the earth and that you will do so for all eternity, what is one long-term goal you can make for your work?
5. Since all Christians also enjoy these same rights and privileges in Christ and all of us are equally heirs in God's kingdom, is there anyone with whom you need to apologize and seek reconciliation?

**Spend some time praying together. Pray specifically for the requests that were mentioned.**